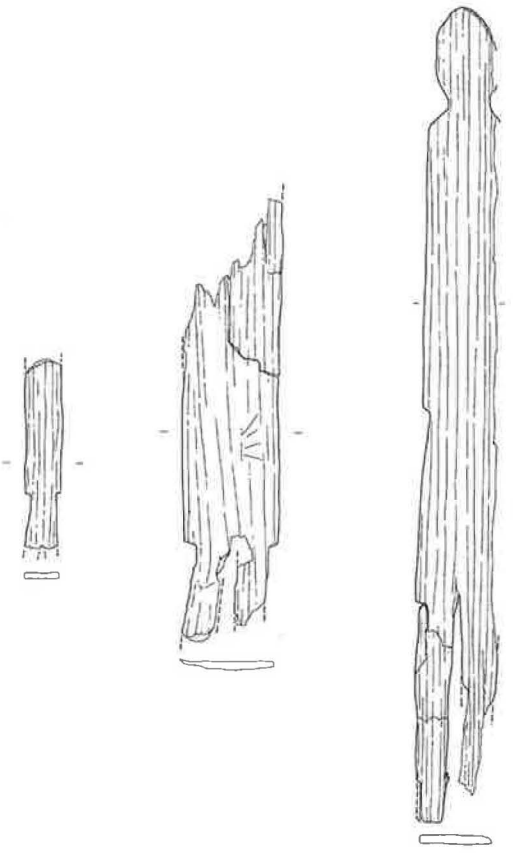
推定上野国府

～平成23年度調査報告～



牛池川から出土した木製人形
（元総社明神遺跡Ⅷ 1990より）

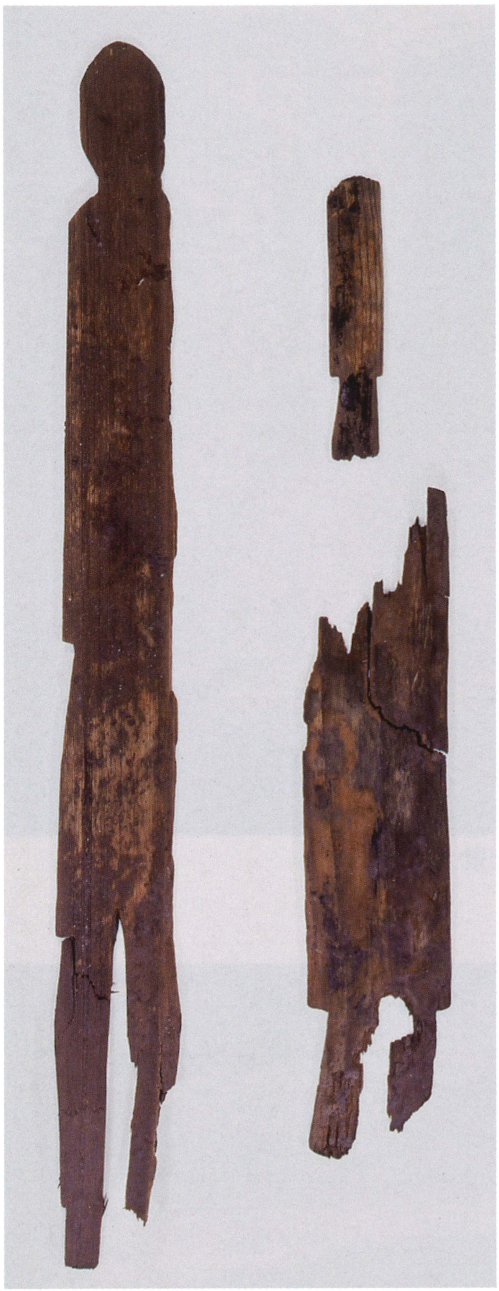
2013．2

前橋市教育委員会

1　６トレンチ　W―２号溝跡　全景（東から）

２　６トレンチ　W―２号溝　土層堆積状況（南から）

巻頭図版2



3　元総社明神遺跡Ⅷ出土　人形

4　元総社寺田遺跡Ⅲ出土　墨書土器
（群馬県埋蔵文化財調査事業団蔵）

5　元総社寺田遺跡Ⅲ出土　人形など
（群馬県埋蔵文化財調査事業団蔵）

6　元総社蒼海遺跡群（26）出土　墨書土器

7　上野国印影（天平勝宝４年／752年）
（復元品）（群馬県立歴史博物館蔵）

はじめに

前橋市の総社・元総社地区周辺は、宝塔山古墳や蛇穴山古墳をはじめ山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺などの諸施設が立ち並ぶ古墳時代から律令期にかけての上野国の中枢地域と考えられ、上野国府もその一角にあったと推定されています。

国府とは、律令制の下、各国ごとに置かれた国の役所で、特に上野国府は平安時代の中頃に起きた平将門の乱の舞台となるなど、記録にも度々その名前が登場します。しかしながら、その中心施設の国庁の位置や、国府域の範囲など、その内容については、詳しいことが分かっていません。

この問題を解決し、後世にわたり保存・活用するための基礎的な資料を得るために文化庁、群馬県教育委員会の指導を受け、すでに調査が終了した「山王廃寺等調査委員会」を「上野国府等調査委員会」として検討課題を変更し、毎年委員会を開催しながら、平成23年度から５カ年計画で継続的な確認調査を行うことになりました。

今回、上梓する報告書は、その１ヵ年目の調査内容をまとめたものです。今回の報告では、上野国庁推定案のうちの１ヶ所で実施された調査内容について報告することとあわせて、これまでに実施された発掘調査で確認された国府に関係すると考えられる遺構・遺物についてもまとめ、上野国府を考えていく上での参考資料としたものです。

最後に、本事業の推進にあたり、国・県・市の関係各位のご理解とご協力に対して深く感謝する次第です。また、地元の元総社町各自治会をはじめ土地所有者の皆さんからも全面的な協力をいただくことができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成25年２月

前橋市教育委員会

教育長　佐　藤　博　之

例　　言

1　本報告書は、上野国府等範囲内容確認調査計画に基づき、５ヵ年の調査計画（平成23～27年度）の１年次調査として、平成23年度に実施した発掘調査の報告書である。

2　遺跡は群馬県前橋市元総社町2025番地ほかに所在する。

3　発掘調査は、山王廃寺等調査委員会（上野国府等調査委員会に改名）の指導のもと前橋市教育委員会が実施した。調査の要項は以下のとおりである。

①発掘調査期間　　平成23年７月25日～平成23年12月22日

②整理・報告書作成期間　　平成24年１月４日～平成24年３月29日

③調査組織（平成23年度）

山王廃寺等調査委員会（現　上野国府等調査委員会）

(1)　委員会

委員長　松島榮治（前　前橋市文化財調査委員）

副委員長　須田　勉（国士舘大学文学部教授）

委　　員　阿久津宗二（前橋市文化財調査委員）、梅澤重昭（同）、井上唯雄（同）、右島和夫（群馬県文化財保護審議会委員）

幹　　事　高島英之（群馬県教育委員会文化財保護課文化財活用係主幹）、深澤敦仁（同埋蔵文化財係指導主事）、田中靖幸（前橋市教育委員会管理部長）、斎藤明久（同総務課長）、栗原和彦（同文化財保護課山王廃寺担当）、能登　健（同文化財保護課文化財整備指導員）、松村親樹（同文化財保護課長）

顧　　問　佐藤博之（前橋市教育委員会教育長）

指　　導　文化庁文化財部記念物課文化財調査官

西田健彦（群馬県教育委員会文化課保護課長）

(2)　調査部会

幹　　事　松田　猛（高崎市立西部小学校長）、田中広明（埼玉県埋蔵文化財調査事業団主査）、出浦　崇（伊勢崎市教育部文化財保護課埋蔵文化財担当主査）

(3)　事務局（担当課　前橋市教育委員会文化財保護課）

課長（幹事）　松村親樹　　文化財整備指導員　能登　健

課長補佐　小島純一（兼文化財保護係長）、前原　豊（兼埋蔵文化財係長）

係　　員　山下歳信、岩丸展久、坂本高弘、福田貫之、阿久澤智和

④発掘・整理担当者　　並木勝洋　阿久澤智和

4　本書の編集は並木・阿久澤が行った。原稿の執筆分担は下記のとおりである。

第１章Ⅰ・Ⅱ…並木勝洋　　第１章Ⅲ～Ⅶ…阿久澤智和　　第２章…前原　豊　　第３章…眞下　晃

5　発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

青木あつ子、青木麻耶、石倉稔夫、下平勇樹、小畑憲治、佐藤　修、瀧上政信、武井洋子、田辺　昇、髙澤京子、多田啓子、奈良啓子、橋本ちづる、星野和子、町田妙子、町田敏彦、峰岸あや子、山田哲也、湯浅道子

6　発掘調査にあたり、登坂東弍氏、石井　實氏、登坂義男氏、奥野保次氏、上原英夫氏、富田八千代氏、礒田ハルヱ氏の土地を借用した。

7　調査および報告書作成にあたっては下記の諸機関・諸氏の御教示・御指導・御協力があった。

文化庁記念物課、群馬県教育委員会文化課

阿久津宗二、阿部義平、出浦　崇、井上唯雄、須田　勉、田中広明、松島榮治、松田　猛、右島和夫

8　発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1　挿図中に使用した北は、座標北である。

2　挿図に建設省国土地理院発行の1：200,000地形図（宇都宮、長野）、1：50,000地形図（前橋）を使用した。

3　本遺跡の略称は、23A147である。略称の後に枝番を付し、トレンチ番号を示した。

4　遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳～奈良・平安時代の竪穴住居跡　　B…建物跡　　W…溝跡

D…土坑　　P…ピット・柱穴・貯蔵穴　　O…風倒木痕

5　遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。

遺構　　全体図・配置図…1：1,600、1：200などを適宜用いた

遺構断面図…1：60　住居跡…1：60（竈…1：30）　溝…1：60、1：80などを適宜用いた。

遺物　　土器…1/3・1/4

6　計測値については、（　　）は現存値、［　　］は復元値を表す。

7　遺物観察表については、以下のとおり記述した。

①層位は遺構出土の場合、「床直」・「底面」：遺構底面より10cm未満の層位からの検出、「覆土」：床面より10cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。

②口径、器高の単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。

③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。

④焼成は、基本的に極良・良好・不良の三段階とした。ただし、須恵器について酸化焔焼成によるものは「酸化焔」と記載した。

⑤色調は土器外面で観察し、色名は『新版標準土色帳』（小山・竹原 1967）によった。

8　遺構平面図の－－－－は推定線を表し、－・－・－は堅緻面の範囲を表す。

9　スクリーントーンの使用は、次のとおりである。特別な場合は図版ごとに凡例を設けた。

遺構平面図　　版築…　　粘土分布…　　炭化物分布…　　灰分布…

遺構断面図　　構築面…　　版築…

遺物実測図　　須恵器断面…　　煤付着…

10　主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B　（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）

Hr-FP　（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）

Hr-FA　（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）

As-C　（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半）

目　　次

第１章　平成23年度発掘調査

Ⅰ　調査に至る経緯……1

Ⅱ　遺跡の位置と環境……1

1　遺跡の立地……1

2　歴史的環境……1

Ⅲ　上野国府の研究史……5

1　歴史の中の上野国府……5

2　上野国府の推定地について……5

3　上野国府の国庁推定案について……8

Ⅳ　調査方法と経過……9

1　調査方法……9

2　調査経過……9

Ⅴ　基本層序……12

Ⅵ　遺構と遺物……13

1　各トレンチの概要……13

2　各トレンチの検出遺構……15

Ⅶ　ま と め……31

1　成果について……31

2　今後の課題……31

第２章　上野国府に関連する既出資料の集成について……33

Ⅰ　これまでの調査遺跡……33

Ⅱ　既出資料について……34

Ⅲ　国庁推定案について……35

第３章　元総社蒼海遺跡群内における７～10世紀の住居跡分布……59

挿図目次

Fig. 1　推定上野国府位置図……2
Fig. 2　周辺遺跡……4
Fig. 3　上野国府の各推定案……7
Fig. 4　２m小グリットの呼称……9
Fig. 5　グリット設定図と23年度調査区……10
Fig. 6　基本層序模式図と各トレンチ土層柱状図……12
Fig. 7　各トレンチ全体図……14
Fig. 8　１a・１bトレンチ各遺構……20
Fig. 9　１bトレンチ各遺構……21
Fig.10　１b・２a・２bトレンチ各遺構……22
Fig.11　３トレンチ各遺構……23
Fig.12　４トレンチ各遺構……24
Fig.13　５トレンチ各遺構……25
Fig.14　６トレンチ各遺構……26
Fig.15　７トレンチ各遺構……27
Fig.16　各トレンチ出土遺物……28
Fig.17　国府に関する遺構と遺物の分布図……36・37
Fig.18　推定上野国府周辺の遺構(1)……38
Fig.19　推定上野国府周辺の遺構(2)……39
Fig.20　推定上野国府周辺の遺構(3)……40
Fig.21　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(1)……41
Fig.22　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(2)……42
Fig.23　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(3)……43
Fig.24　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(4)……44
Fig.25　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(5)……45
Fig.26　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(6)……46
Fig.27　７世紀の住居跡分布図……60・61
Fig.28　８世紀の住居跡分布図……62・63
Fig.29　９世紀の住居跡分布図……64・65
Fig.30　10世紀の住居跡分布図……66・67

表目次

Tab. 1　調査区の面積と調査目的……9
Tab. 2　平成23年度検出遺構の概要……11
Tab. 3　土坑・ピット・風倒木痕計測表……29
Tab. 4　遺物観察表……30
Tab. 5　元総社蒼海遺跡群①～⑮報告書一覧表……47
Tab. 6　元総社蒼海遺跡群(1)～(36)報告書一覧表……50
Tab. 7　元総社蒼海遺跡群遺物集計表……54～57
Tab. 8　元総社明神遺跡遺物集計表……56・57
Tab. 9　国府関連資料集成表……58
Tab.10　報告書リスト……69

図版目次

【巻頭図版】

1　６トレンチ　W－２号溝跡　全景（東から）
2　６トレンチ　W－２号溝　土層堆積状況（南から）
3　元総社明神遺跡Ⅷ出土　人形
4　元総社寺田遺跡Ⅲ出土　墨書土器
5　元総社寺田遺跡Ⅲ出土　人形など
6　元総社蒼海遺跡群(26)出土　墨書土器
7　上野国印影（天平勝宝４年／752年）（復元品）

【遺　構】

PL. １－１　１aトレンチ全景（東から）
2　１aトレンチH－１号住居跡全景（西から）
3　１aトレンチH－１号住居跡セクション（南から）
4　１aトレンチH－２号住居跡全景（南から）
5　１aトレンチH－２号住居跡竈遺物出土状態（西から）

6　1ａトレンチＨ－３号住居跡全景（南西から）
7　1ａトレンチＷ－１号溝跡全景（東から）
PL. 2－1　1ｂトレンチ全景（東から）
2　1ｂトレンチＨ－４号住居跡全景（西から）
3　1ｂトレンチＨ－５号住居跡全景（西から）
4　1ｂトレンチＨ－５号住居跡竈全景（南西から）
5　1ｂトレンチＨ－６号住居跡全景（南から）
6　1ｂトレンチＨ－６号住居跡竈全景（南から）
7　1ｂトレンチＷ－１号溝跡全景（南から）
PL. 3－1　2ａトレンチ全景（西から）
2　2ａトレンチＨ－１号住居跡全景（南から）
3　2ａトレンチＷ－１号溝跡全景（南西から）
4　2ｂトレンチ全景（西から）
5　2ｂトレンチＨ－２号住居跡全景（西から）
6　2ｂトレンチＨ－２号住居跡遺物出土状態（西から）
PL. 4－1　3トレンチ全景（西から）
2　3トレンチＨ－２号住居跡全景（北から）
3　3トレンチＨ－１号住居跡全景（西から）
4　3トレンチＤ－１号土坑全景（北東から）
5　3トレンチＤ－２号土坑全景（北から）
6　3トレンチＷ－１号溝跡全景（西から）
PL. 5－1　3トレンチＷ－２号溝全景（北から）
2　3トレンチ集石検出状況（北から）
3　3トレンチ落ち込み検出状況（西から）
4　4トレンチ全景（西から）
5　4トレンチＨ－１号住居跡全景（東から）
6　4トレンチＨ－２号住居跡全景（西から）
PL. 6－1　4トレンチＨ－３号住居跡全景（西から）
2　4トレンチＨ－５号住居跡全景（西から）
3　4トレンチＨ－４号住居跡全景（西から）
4　4トレンチＷ－１号溝跡全景（北西から）
5　5トレンチ全景（西から）
6　5トレンチＨ－１・２号住居跡全景（西から）
PL. 7－1　5トレンチＨ－１号住居跡竈全景（西から）
2　5トレンチＨ－３号住居跡全景（(西から）
3　5トレンチＨ－３号住居跡竈全景（西から）
4　6トレンチ全景（東から）
5　6トレンチＤ－２号土坑遺物出土状態（南から）
6　6トレンチＤ－２号土坑全景（北から）
7　6トレンチＩ－１号井戸全景（北から）
PL. 8－1　7トレンチ全景（東から）
2　7トレンチＨ－１号住居跡全景（南西から）
3　7トレンチＤ－１号土坑全景（南から）
4　7トレンチピット検出状況（列状）（西から）
5　7トレンチピット検出状況（散漫）（北から）
6　7トレンチＩ－１・２号井戸付近全景（北東から）

【遺　物】

PL. 9　各トレンチ出土遺物

第１章　平成23年度発掘調査

I　調査に至る経緯

国府とは、律令制度が確立するのに伴い各国に設置された古代の役所で、上野国においては、これまでの研究により前橋市元総社町付近に設置されていたと考えられている。また、元総社・総社地区は国府のほか、総社古墳群・山王廃寺・国分僧寺・尼寺等が存在し、古代上野国の中心地として栄えた地域である。こうした歴史的な環境をふまえて、前橋市教育委員会では元総社・総社地区の歴史遺産について、有機的に関連を持たせた保存・活用を目指し発掘調査を実施することでこれら遺跡の実態把握に取り組んできた。そうした中で平成18年度から22年度までの５年間、総社町総社山王地区に所在する山王廃寺の範囲内容確認調査を実施したところ、伽藍配置の把握等の成果を収めることができた。

その一方で、元総社町では蒼海地区における区画整理事業の進行にあわせて発掘調査を継続してきたが、存在が推定される上野国府・国庁へ直接的に結び付く遺構が検出できない状況であった。こうした状況の中で、上野国府の実態について早急に解明することが、元総社・総社地区の歴史遺産の保存・活用のほか、区画整理事業の進捗の中で急務となったことから、平成23年度から上野国府等範囲内容確認調査が実施されることとなった。

II　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という４つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約３kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約１kmの所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、区画整理事業が進捗しているが田畑が残る住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末期までの上毛野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、上野国分僧寺と国分尼寺、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を

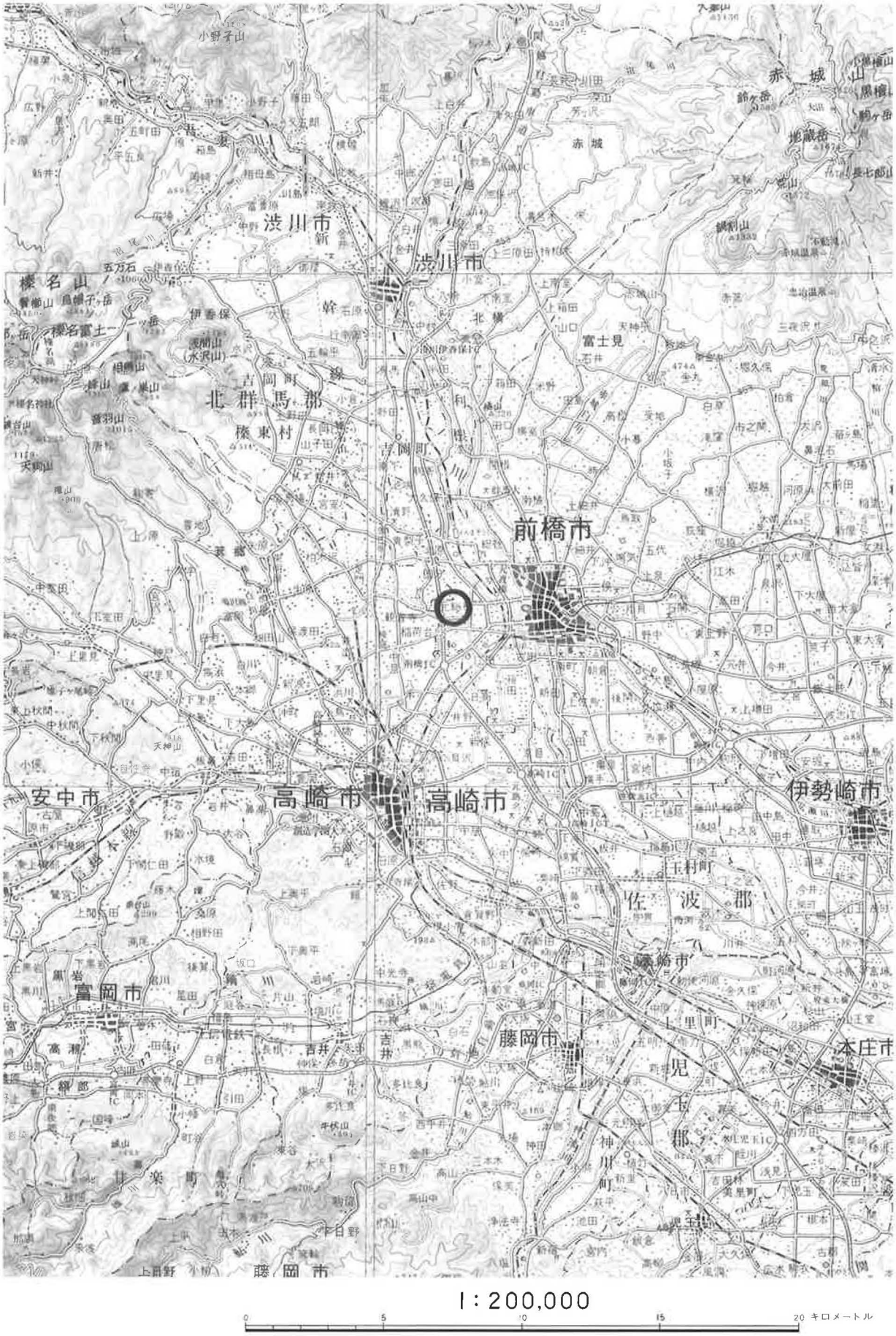


Fig.1　推定上野国府位置図

物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代　縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられる。また元総社蒼海遺跡群（9）でも晩期の住居が検出されている。

弥生時代　弥生時代の検出例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

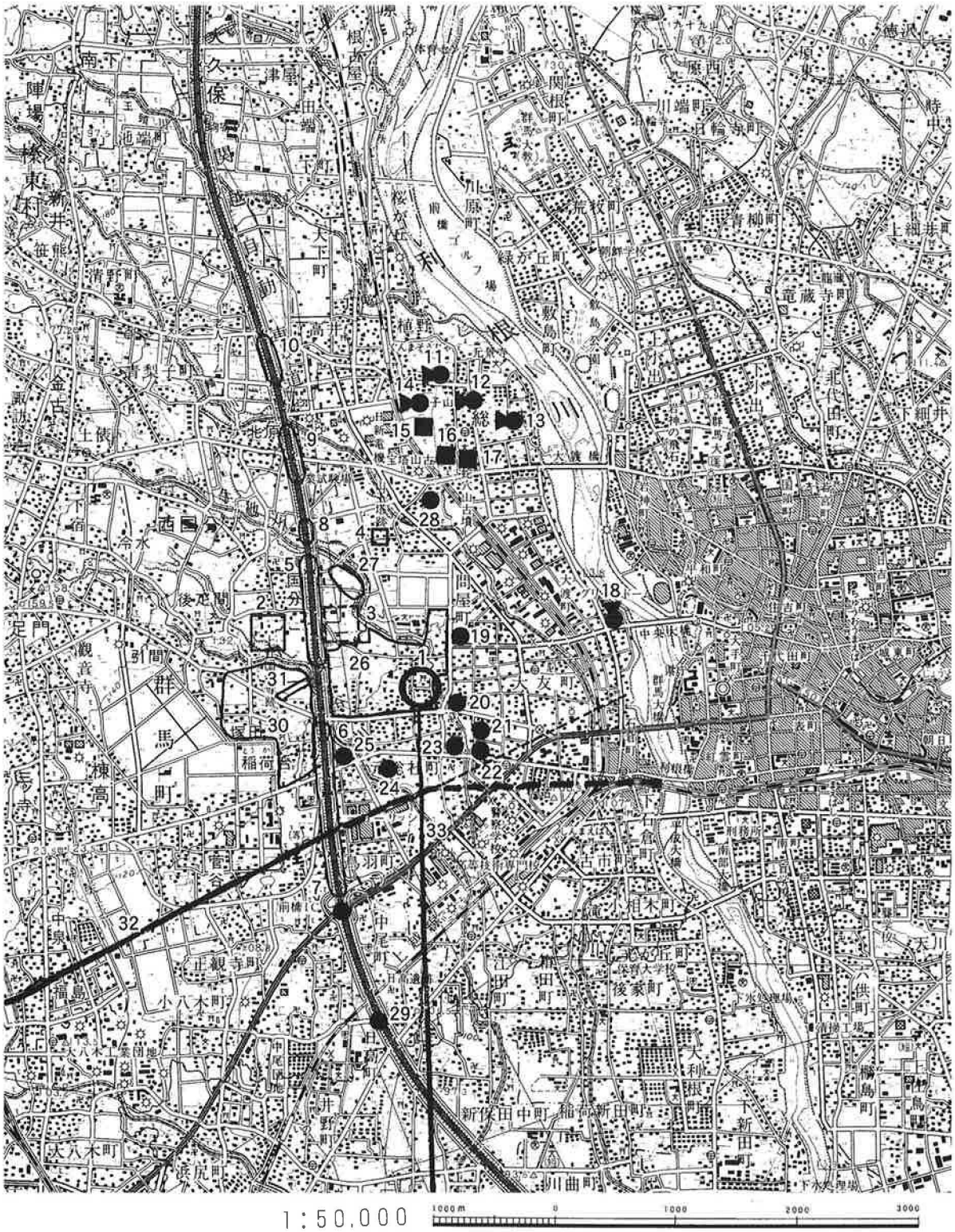
古墳時代　古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳や蛇穴山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、山王廃寺については平成18年度から５カ年計画で「山王廃寺範囲内容確認調査」が実施され、その結果、約80m四方を回廊で囲み、北に講堂、その南に金堂と塔が並ぶ法起寺様式の伽藍配置であることが判明した。さらに、西側回廊の下層で北西に軸をもつ基壇建物も確認され、この建物は、これまで確認されてきた同軸の掘立柱建物とあわせて、寺院の変遷を考える上で重要なものとなっている。

奈良・平安時代　奈良・平安時代になると、国分僧寺、国分尼寺が建立されるなど、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。国府についても、その位置についてはこれまでの研究や調査で元総社地区に置かれたとする説が有力である。元総社地区で検出された国府に関連する遺跡には、掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や元総社蒼海遺跡群（9）、大型人形が出土した元総社明神遺跡Ⅷ、「國厨」「曹司」「国」「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡Ⅲなどがある。また、国府域との関連性が指摘される大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡や元総社蒼海遺跡群（7）（9）（10）と、南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東北外郭と推定される一つの線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面硯や巡方等の装身具のほか、緑釉陶器や畿内系土師器等も出土し、上野国府を考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町（現高崎市）の調査等により、本遺跡から約1.5㎞南の地点にN―64°―E方向の東山道駅路（国府ルート）があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものと考えられ、これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世　中世に至り、永享元年(1429)、この地には上野国守護代の長尾氏によって蒼海城が築城されるが、この城は県内でも最古級の城郭に位置づけられ、さらに、県下最初の城下町を形成したとも考えられている。現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測されるほか、元総社蒼海遺跡群（24）の調査で青白磁梅瓶が出土したほか、蒼海城に関連する堀跡の検出も相次いでいる。



1．推定上野国府　2．上野国分僧寺跡　3．上野国分尼寺跡　4．山王廃寺　5．上野国分僧寺・尼寺中間地域
6．鳥羽遺跡　7．中尾遺跡　8．国分境遺跡　9．北原遺跡　10．下東西遺跡　11．稲荷山古墳　12．大小道山古墳
13．遠見山古墳　14．総社二子山古墳　15．愛宕山古墳　16．宝塔山古墳　17．蛇穴山古墳　18．王山古墳　19．閑泉樋遺跡
20．寺田遺跡　21．大友屋敷II・III　22．元総社明神V遺跡　23．元総社小学校校庭　24．天神遺跡　25．弥勒II遺跡
26．元総社蒼海遺跡群　27．上野国分尼寺北辺遺跡　28．大屋敷遺跡　29．日高遺跡　30．国府南部遺跡群
31．元総社西川・塚田中原遺跡　32．推定東山道駅路　33．日高道

Fig. 2　周辺遺跡

III　上野国府の研究史

1　歴史の中の上野国府

上野国府に関する記録は非常に少ない。これは各国の国府を見ても同様の状況と思われる。

各国に国府が設置された背景としては、律令制度が確立していく中で、地方における統治機関の整備の一環として国府が設置されていったと考えるのが通説であるので、上野国府についてもその時期に設置されたと考えるのが妥当と思われる。

上野国府が関係した重大な事件としては、承平・天慶の乱の際にして平将門によって上野国府が占領され、上野国の国印と国倉の鍵が奪われるという事件を挙げることができる。伝承では、平将門が上野国府を占領した後に、上野国府で巫女のお告げにより新皇に即位するエピソードが有名であるが、将門記によると、国庁を占拠して、その四方を警護して固め、公的儀式を行ったと記されていることから、平将門は国府の焼き討ちなど破壊行為を行ったわけではなく、無傷のまま占領し、上野国を統治しようとした意図がうかがえる。結果として、朝廷により平将門の乱は鎮圧され、上野国の支配体制も乱以前の状態に戻るが、この事件は上野国府が大きく記録に登場した事象として挙げることができよう。

時代が下り、律令制度の崩壊、藤原氏による摂関政治、さらには院政と歴史が展開していく中で、武士が台頭し、最終的には源頼朝による鎌倉幕府の成立へとつながるが、その前夜の治承四（1180）年、源氏と平氏の争いの余波を受ける形で、下野国の足利俊綱（平家方）によって源氏方が居宅を構えていた上野国府周辺の民家が焼き討ちされるという記事が吾妻鏡に見られる。吾妻鏡の文中には国府が焼失したということは記されていないが、一般的には、その際に国府も被害を受け、統治施設としての機能を果たせなくなったと考えられている。平安時代末期、武家政権が成立しようとしたこの時代に、上野国府は衰退の一途を辿ったと推測される。

上野国府と関連して目が離せないのが蒼海城の存在である。蒼海城は元総社町に存在する城であるが、西の染谷川、東の牛池川をそれぞれ外堀として、本丸の周囲を「〇〇屋敷」と呼ばれる館状の曲輪が取り囲むような縄張りとなっている。その特徴から、蒼海城は群馬県下で最古級の城郭と考えられている。築城年代については永享元（1429）年に長尾景行によって築城されたという伝承があるが、それ以前から城郭の前身的施設があったとする説もあり、はっきりしたことは不明のようであるが、上野国守護代の長尾氏のうち総社長尾氏の居城として栄えた。蒼海城に関しては、前橋市教育委員会が実施している区画整理事業にともなう発掘調査によって、堀跡のほか、青白磁梅瓶などの希少な陶磁器が出土している。こうした出土品などからも蒼海城と総社長尾氏の繁栄をしのぶことができる。このように蒼海城は、中世の県央地域において中心的な位置を占めていたと考えられる。それは、後に諏訪氏・秋元氏が蒼海（総社）に入封したことからも伺えるだろう。

2　上野国府の推定地について

このように、上野国府とその周辺について歴史的な位置付けについてみてきたが、では具体的には上野国府はどこに存在したのか。

『和名類聚抄』の群馬郡の部分の割注には「国分為東西二郡、府中間、国府」とあり、その読み方に定説はないが、一説には群馬郡は東西に分かれ、その中間に国府が存在したと読む説があり、詳細は不明ではあるが国府の位置について触れているものと受け取れる。また、『上野伝説雑記』には蒼海城はかつての国府に位置するとの記載がある。さらには、明治９年に編纂された群馬県内の各町村誌中で、群馬郡のうち元総社村・総社町・植野村・西国分村・東国分村が、かつて「国府」と称していた地域であること、もしくは国府の地であったことに触れている。また、明治時代の町村制の施行時に、群馬郡内に「国府村」が成立している。このように旧元総社村・

旧総社町・旧国府村付近は歴史的に上野国府が存在した地域と認識されてきた。しかしながら国府域がどの範囲なのか、また、その国府の中枢施設である国庁の位置については不明である。昭和２（1927）年、都木丑作氏が上野国府の位置に関して論考を行っているが、氏は国分僧寺・尼寺、総社神社の存在や、東山道駅路の推定から元総社付近に国府の存在を導き出し、なおかつ国庁の推定地として、元総社地内に存在する礎石様の石を祭る「石神」と呼ばれる地点を推定している（都木 1927）。

戦後、上野国府に関する研究はより具体性を増すが、その研究方法としては①地割・地名・旧跡等からの国府域の推定、②発掘調査によって検出された遺構・遺物からの国府域の推定に大別される。研究史としては①の歴史地理学的考察が先行し、それを追従するように②の発掘調査が実施されている。また、元総社町周辺は、昭和50年代から区画整理や関越自動車道の建設等にともない、これまで推定されてきた国府域の範囲内で発掘調査が頻繁に実施されてきた。残念ながら現状では国府関連施設は確認できないが、国府域であることを推定させる遺構の検出や遺物が出土している。それら遺構･遺物の概要については、本報告書の後段で集成を行っているので、参照されたい。

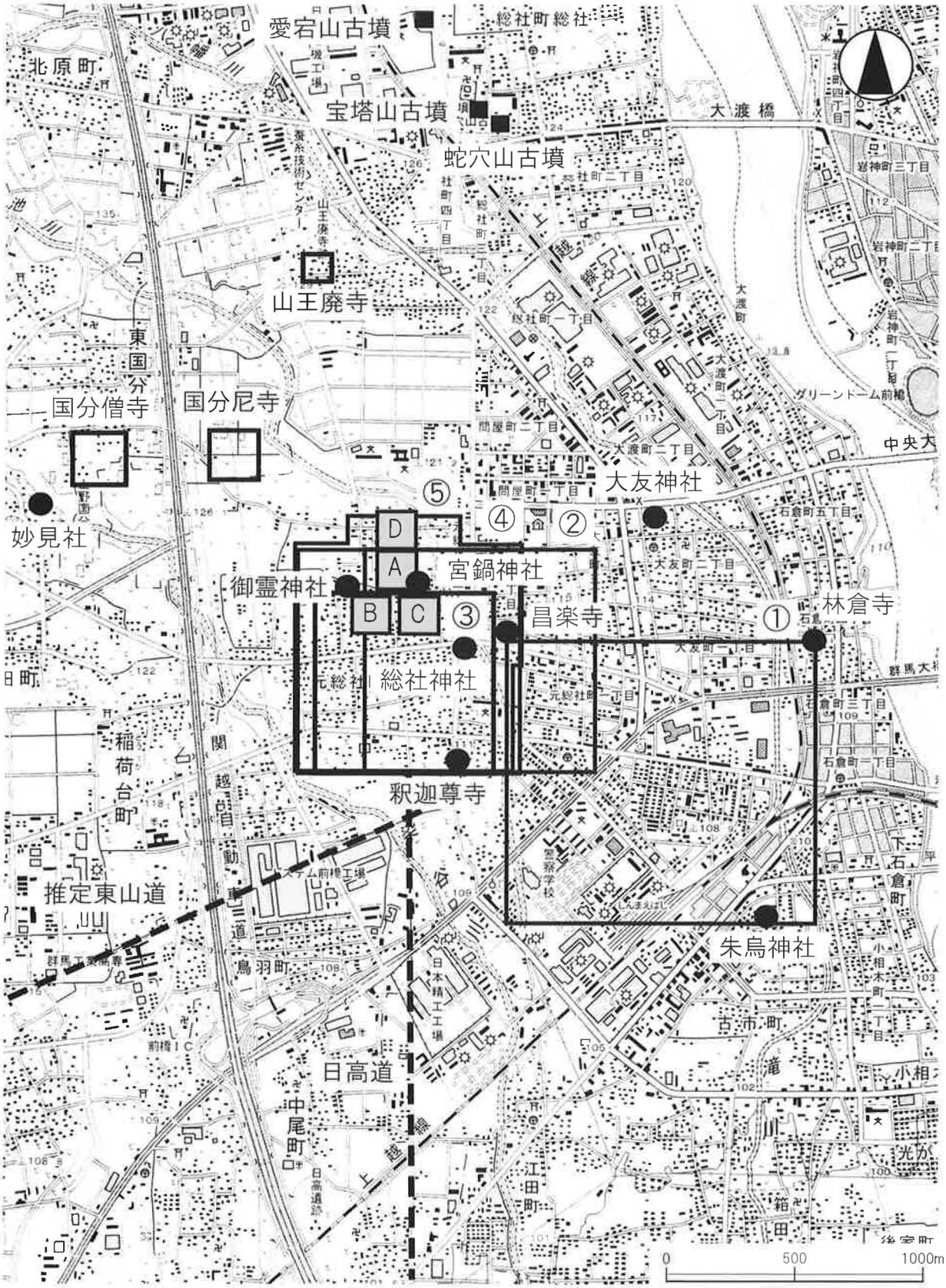
まず近藤義雄氏が上野国府の位置を推定しているが、近藤氏は元総社町周辺の寺院・神社の配置や地名などを基に、総社神社の東方の平坦地の一画に方十町の国府を推定している。さらに、その説は補強され、朱雀大路や方二丁の国庁跡を推定した（近藤　1954）。

昭和36（1961）年、元総社小学校の校庭で土師器が採集できたことを契機として、同年から昭和39（1964）年までの計５回、校庭及びその敷地内で発掘調査が実施された。その成果として、土師器の出土した住居跡や溝のほか、ほぼ東西方向の掘立柱建物が２棟確認された。なお、この掘立柱建物は、その柱穴の形態や出土品から奈良時代の遺構と考えられ、近藤氏の推定した国府域内の一画から上野国府に関連する可能性の高い遺構が確認されたとして注目された。その後、昭和42（1967）年からの調査は、さらに東方の大友町地内において発掘調査が実施されるに至り、昭和41（1966）年からは上野国府調査委員会が設けられ、組織的な発掘調査により竪穴式住居跡、溝、掘立柱建物跡などが確認された。しかし、上野国府の実態に迫るような成果を上げることはできなかった。上野国府に関する発掘調査はこうした結果から一度休息となるが、この調査結果から、国府推定地はこれまでの位置からさらに西が有力な推定地と考えられるようになる。また、これまでの寺院・神社・地名のほか、東山道駅路を中心とした古代の交通路や地割から国府の位置を推定する論考（金坂 1974、近藤 1981）も発表されるが、これらで推定される国府の位置は、総社神社付近を中心としたもの、さらには総社神社付近よりも西を当てている。このように、歴史地理学的な考察については度々発表され、上野国府の推定地はより西へと移動している。

群馬大学による発掘調査の後は、上野国府の位置を確認するための発掘調査は実施されていないが、元総社町周辺では区画整理事業、関越自動車道の建設、牛池川の河川改修、その他開発に伴う発掘調査が数多く実施されるようになり、その際に上野国府に関連すると思われる遺構の検出や、国府関連の遺物が出土している。

昭和58（1983）年、元総社町二丁目の閑泉樋遺跡の調査が実施された際に、住居跡のほか溝２条が確認されたが、そのうち１号溝は東西方向に走り、覆土上部に浅間Ｂ軽石の純層が堆積し、出土した土器は９世紀後半のものが主体であった。このような大溝はその後の発掘調査で複数検出され、昭和57（1982）年から平成８（1996）年まで実施された元総社明神遺跡における調査でも南北方向に走る大溝、平成16（2004）年に元総社小見Ⅶ遺跡で南北方向に走る大溝、平成17（2006）年と平成18（2007）年に元総社蒼海遺跡群（7）及び同遺跡群（9）で東西方向に走る大溝、平成22（2011）年には元総社蒼海遺跡群（36）で北東方向に傾く大溝が検出されている。こうした大溝については国府域を考える上では重要な要素になる考えられる。閑泉樋遺跡で検出された大溝については、木津博明氏による国府域の推定案の中で、国府域の北限の溝として位置付けされている（木津 1988）。

関越自動車道の調査にともなって昭和53（1978）年から実施された鳥羽遺跡では神社遺構と鍛冶工房遺構が確



①近藤義雄氏 1954（「上野國府について」『上毛史学』5）
②金坂清則氏 1974（「上野国府とその付近の東山道、および群馬、佐位駅家について」
『歴史地理学紀要』16）
③松島榮治氏 1971（『上野国国分寺遺跡』）
④近藤義雄氏 1981（「上野国府をめぐる古代交通路」『信濃』33-2）
⑤木津博明氏 1988（『上野国分僧寺・尼寺中間地域』3）
A～Dは、上野国府等範囲内容確認調査に際して設定した国庁推定地4案

Fig. 3　上野国府の各推定案

認されたが、神社遺構については国府との関連が指摘され、鍛冶工房遺構については、その規模から国衙に付属する工房跡としての位置付けができ、国府域を考える上で両遺構とも興味深い。

昭和63（1988）年、牛池川の河川改修にともなって実施された元総社明神遺跡Ⅷの調査では人形が出土し、平成３（1991）年には、元総社明神遺跡Ⅷよりも約200ｍ下流で同じく河川改修のために実施された元総社寺田Ⅲ遺跡でも、人形や木簡のほか、「曹司」や「国厨」等の墨書土器が出土している。

平成18（2007）年に元総社蒼海遺跡群（9）では10間×３間の掘立柱建物が確認された。しかし、この建物の時期は７世紀中葉頃と考えられ、国庁と直接的には結びつかないものの、こうした建物の存在は国府域を考える上では重要である。

その他、国府の研究に関しては、川原氏の考察がある（川原 2011）。川原氏は元総社町周辺で国府に関連すると推定される地名や、国府に関係した伝承をもつ旧跡などの分布状況のほか、独自で元総社町周辺の踏査を行い、採集できた遺物の量やその内容などから国庁の位置を推定している。

また、前橋市教育委員会においても、元総社町周辺でこれまで行われてきた発掘調査で検出された遺構や出土した遺構の集成を行っている。まだ詳細の分析等が必要ではあるが、上野国府を考える上での重要な要素が見えつつある。

このように、これまで寺院・神社・地名による推定から発掘調査まで上野国府の研究は進められてきた。それにより国府関連の遺物等も増え、さらに国府域を推定する上での重要な遺構の検出には至っているが、国庁の位置等、詳細は未だに判明していない。

３　上野国府の国庁推定案について

こうした背景を踏まえて、前橋市教育委員会では、５か年計画で上野国府の範囲内容確認調査を実施することとしたが、その第１段として、元総社蒼海土地区画整理事業地内において上野国府国庁推定地案を提示し、各案を検証することとした。各案は①「宅地」等の地名が残り、通称日高道を中心とした方形の地割が残る付近（推定Ａ案）、②蒼海城本丸を中心とした付近（推定Ｂ案）、③宮鍋神社の南側の平坦地を中心とした付近（推定Ｃ案）、④通称日高道の最北端付近で、方形の地割の残る付近（推定Ｄ案）の４案である。推定国庁Ａ案については「宅地」の「宅」は「やけ」に通じ、官衙の存在を連想させることや、推定日高道を中心とした方形の地割が、中央大路とそれを挟んで設置された国庁の名残と推定したためである。推定国府Ｂ案については、蒼海城本丸付近が平坦であり、なおかつ造成等の影響を受けていないと考えられるためである。推定国府Ｃ案についても、宮鍋神社の南側は平坦面が広範囲に渡っていることから、国庁の存在が推定できるためである。推定国府Ｄ案については、通称日高道の北端に位置し、平坦で付近の地割が鍵の手に曲がり方形の区画を連想させることから、それぞれを国庁候補地とした。

平成23年度から５か年計画で始めた上野国府等範囲内容確認調査は、この国庁推定案を前提とし、各推定案を順次を調査し、その内容を確認するものである。

Ⅳ　調査方法と経過

1　調査方法

上野国府の範囲内容確認調査にあたっては、国庁の推定地として４つの案を挙げ、平成23年度は、その４案のうちＡ案の範囲内およびその周辺に９ヵ所でトレンチ調査を行った。総調査面積は309㎡である（Tab.１）。調査は、平成18年度から５ヵ年計画で実施した山王廃寺の調査の際に定めた調査基準を参考に作成した「上野国府等範囲内容確認調査基準」に基づいて行った。以下、調査方法について要点を記す。

Tab.１　調査区の面積と調査目的

トレンチ	調査面積（㎡）	主な調査目的
１ａ	33	Ａ案（北東部）の範囲確認
１ｂ	33	Ａ案（北東部）の範囲確認
２ａ	11	Ａ案（西部）の範囲確認
２ｂ	8	Ａ案（西部）の範囲確認
3	30	Ａ案（中央部）の範囲確認
4	24	Ａ案（南西部）の範囲確認
5	26	Ａ案（南西部）の範囲確認
6	72	Ａ案（南西部）の範囲確認
7	72	Ａ案（南西部）の範囲確認
計	309	

グリッド設定（Fig.４）　調査区のグリッド設定は以下のとおりである。①単位は４ｍ四方とする。②国家座標第Ⅸ系（旧日本測地系）を用い、Ｘ＝＋44.800、Ｙ＝－77.200を基点（Ｘ０、Ｙ０）とする。③西から東へ４ｍごとにＸの数値が増大し（Ｘ157、Ｘ158、Ｘ159……）、北から南へ４ｍごとにＹの数値が増大する（Ｙ44、Ｙ45、Ｙ46……）。④各グリッドの呼称基点は北西杭とする。

なお、このグリッド設定は、区画整理に伴い継続的に調査が行われている元総社蒼海遺跡群のグリッド設定と共通するものである。

トレンチ設定　各トレンチの設定幅は、掘立柱建物の柱穴間隔を考慮し、原則３ｍ幅とした。トレンチ名は、原則として調査順に数字で呼称することとし、23年度からの通し番号とした。

遺構の確認　遺構確認については、基本層序Ⅰ層およびⅡ層直下で行い、その後、上野国府の遺構面が存在するⅢ層（Hr-FP・As-C混土層）を細分しながら確認することとした。遺構の確認にあたって、必要な場合はサブトレンチを設定することにし、サブトレンチの規模は遺構保護のため必要最小限とした。

測量　遺構平面図については縮尺１/20を原則とし、必要に応じて1/10～1/50の縮尺を適宜使用することとした。また、土層図についても縮尺１/20とし、遺構毎の図面とは別に、グリッド杭のあるトレンチ壁面ですべて作成することにした。

出土遺物の取り上げ　遺構毎を原則とし、遺構に属さない遺物は４ｍグリッド単位で記録を作成し取り上げることとした。なお、状況に応じて４ｍグリッドをFig.４のように４分割し、２ｍの小グリッド一括で取り上げた遺物もある。小グリッドの呼称は、北西から反時計回りでＡ～Ｄとした。なお現位置を保つ礎石等、施設を構成する遺物については、原則として現状保存することとした。

写真撮影　遺構の写真撮影については、35㎜フィルム（モノクロ、カラーリバーサル）およびデジタルデータを常時使用した。また、必要に応じて６×９サイズフィルムを使用した。空中写真撮影には６×６サイズフィルムを使用した。

埋め戻し　調査終了後は、今後の調査と区別できるように石灰を散布してから埋め戻しをおこなった。

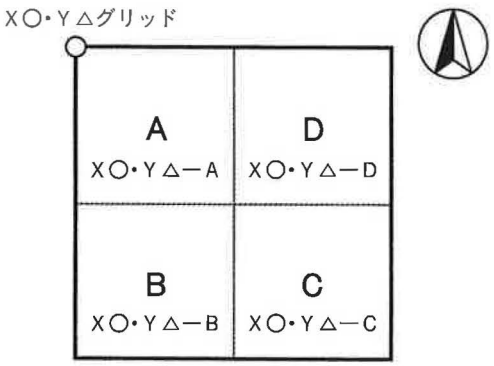


Fig.４　２ｍ小グリットの呼称

2　調査経過

本年度の調査は７月下旬から開始し、12月下旬に終了した。

Fig. 5　グリット設定図と23年度調査区

以下、調査経過を月毎にまとめた。

7月　25日、3トレンチを人力にて掘削を開始した。7月中に掘削が終了し、遺構確認および掘り下げを実施した。

8月　3トレンチの調査を引き続き実施。古墳時代後期・平安時代の住居各1軒、溝2条を検出。

9月　12日に1（1a）トレンチの掘削を開始する。それと併せて3トレンチの埋め戻しを実施。1トレンチの中央部分は撹乱を受けていたが、古墳時代後期の住居跡1軒、平安時代の住居跡2軒および古代の溝を検出。28日に2（2a）トレンチの掘削も実施し、平安時代の住居1軒と中世の溝を検出。

10月　2トレンチの一部を拡張し、中世の溝の底面を確認する。2トレンチの調査に平行して4日に4トレンチの掘削を開始。古墳時代後期の住居2軒、平安時代の住居3件、中世の溝を検出。2トレンチは調査終了にともない17日に埋め戻し。なお、2トレンチについては、調査範囲内で国庁に関係した遺構等を確認できなかったため、既存の2トレンチを2aトレンチとし、北東方向にさらにトレンチを設定して2bトレンチとして調査を実施。平安時代の住居1軒を検出。1・4トレンチも調査終了にともない19日に埋め戻し。ただし1トレンチについては、覆土上部に浅間B軽石を包含する溝が検出されたため、1トレンチの南側に平行して新たにトレンチを設定し1bトレンチとし、既存の1トレンチを1aトレンチとした。1bトレンチでは古代の溝のほか古墳時代後期の住居2軒、平安時代の住居2軒を検出。

11月　1b・2bトレンチにおいて、硬く締まる黒色土を覆土とした土坑状の遺構を検出。調査の結果、風倒木痕と判断。24日に2bトレンチ、28日に1bトレンチをそれぞれ埋め戻し。

ここまでで当初予定をしていたトレンチの調査が終了したが、推定国庁A案の範囲内で国府関連遺構の検出に至らなかったため、その周辺で新たに調査トレンチを設定する。（5・6・7トレンチ）

12月　6日に7トレンチ、7日に5・6トレンチの掘削を実施。5トレンチでは平安時代を中心に住居3件、7トレンチでは古墳時代の住居1軒と中世の柱穴群を検出。6トレンチではトレンチ西端で古代の大溝を検出。溝は元総社宅地遺跡12トレンチ、元総社蒼海遺跡群（14）5トレンチの調査で検出されている溝と同一のもの。下旬には5・6・7トレンチでの調査が終了したため、22日に埋め戻しを行い、今年度の発掘調査が終了した。

今年度の調査で検出された遺構は、最終的にTab.2のとおりとなった。

Tab.2　平成23年度検出遺構の概要

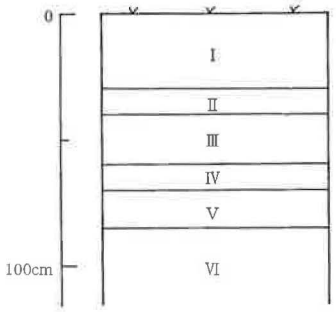
トレンチ	検出遺構					
	住居跡	溝	土坑	ピット	井戸	その他
1a	3	1				
1b	4	1	1	3		2
2a	1	1				
2b	1					1
3	2	2	2	2		2
4	5	1				1
5	3					
6		3	2	2	1	
7	1		1	11	2	
合計	20	9	6	18	3	6

Ⅴ　基本層序

調査は先述のとおり１ａ～７トレンチを設定して実施したが、いずれのトレンチも牛池川の右岸段丘面上に立地している。

各トレンチの堆積状況は、推定国庁Ａ案の南西付近に位置する５・６・７トレンチでは表土の直下が地山の総社砂層となっていた。しかし通称「日高道」よりも東側に位置する１ａ・１ｂ・２ａ・２ｂトレンチでは、やや土層の乱れはあったが元総社地区における基本的な土層堆積は確認できた。通称「日高道」より西側に位置する３・４トレンチについても良好とは言わないまでも基本的な土層堆積が確認できた。これらのことから、今回調査を行った範囲のうち特に西側においては、広範囲な造成が行われていたことが考えられる。

なお、全般的には、地山である総社砂層の面は、ほぼ平均的なレベルで確認できている。また、蒼海城築城の影響か、Ⅱ層（浅間Ｂ軽石純層）もしくは浅間Ｂ軽石の混入土が確認できたトレンチは少ない。また、Ⅲ層とⅣ層の分層も難しい状況であった。



Ⅰ層		As-B 軽石が混入する耕作土・表土層。 混入量の多寡により、ａ（新）・ｂ（旧）に分けられる。 Ⅰａ層：灰黄褐色砂質土。現在の表土・耕作土 Ⅰｂ層：灰黄褐色砂質土。旧表土・耕作土。いわゆる As-B 混土層
Ⅱ層		As-B 軽石純層
Ⅲ層	暗褐色土	As-C、Hr-FP などの軽石粒を５～10%程度含む。 場所により粘性が変化する。（奈良・平安時代の遺物包含層）
Ⅳ層	黒褐色土	As-C を10～30%程度含む。場所により粘性が変化する。 この層上面で、古墳時代後期～奈良・平安時代の遺構が確認しやすくなる。
Ⅴ層	総社砂層への漸位層	上部黒色土(a)から下へ行くにつれて、黄褐色土(b)へ漸位する。 場所によっては、黒褐色粘質土～褐色粘質土へ漸位する。
Ⅵ層	総社砂層	場所により色調・土質が異なり、黄褐色土でロームに近いところと、明褐色もしくは白色に近い色調を呈する粘質土のところがある。

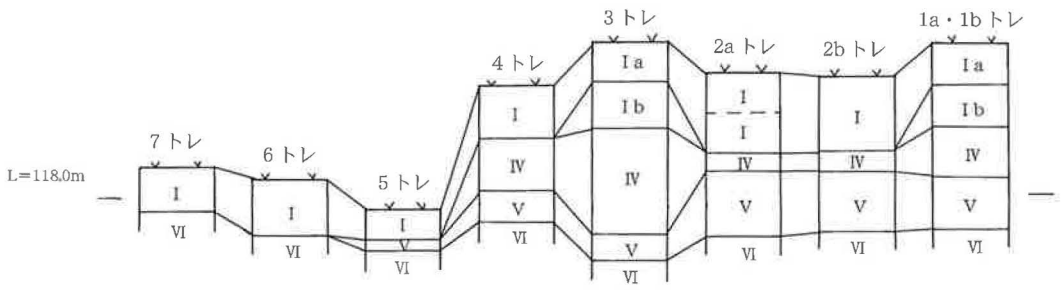


Fig. 6　基本層序模式図と各トレンチ土層柱状図

Ⅵ　遺構と遺物

1　各トレンチの概要

上野国府の国庁推定Ａ案の範囲内とその周辺において、有益な情報が得られると思われる地点のうち調査可能な９ヶ所にトレンチを設定した（Fg.５）。以下に各トレンチの概要を記す。

１ａ・１ｂトレンチ（Fg.７、PL.１・２）

１ａトレンチは国庁推定地Ａ案の北東部の内容を確認するため、東西11m、南北３mの33㎡の範囲を調査した。このトレンチにおいては５世紀末の住居跡が１軒、11世紀の住居跡が２軒、溝が１条検出された。溝については覆土上部に浅間Ｂ軽石が包含されていたため古代の溝と判断された。そのため隣接場所のさらなる調査のため、１ａトレンチの南１mに平行した位置で、東西約12m、南北約３mの不定形な凸形に33㎡の範囲に１ｂトレンチを設定した。１ｂトレンチにおいては溝跡の延長を確認したほか、６世紀の竪穴式住居２軒、10世紀の竪穴式住居２軒、溝１条、土坑１基、ピット３基、落ち込み２ヶ所が検出された。

２ａ・２ｂトレンチ（Fig.７、PL.３）

２ａトレンチは国庁推定Ａ案の西部の内容を確認するため、東西７m、南北２mの不定形な凸形の範囲11㎡を調査した。調査地点は撹乱を受けていたが、11世紀の住居跡１軒、中世の溝１条が検出された。２ａトレンチで国府関連遺構が確認できなかったため、２ａトレンチの北東に２ｂトレンチを設定し、東西５m、南北1.5mのＬ形に約８㎡の範囲を調査した。このトレンチにおいては10世紀の竪穴式住居１軒、落ち込み１ヶ所を検出した。

３トレンチ（Fig.７、PL.４）

３トレンチは国庁推定地Ａ案の中央部の内容を確認するため、東西10m、南北３mの30㎡の範囲を調査した。このトレンチにおいては、６世紀の住居跡１軒、10世紀の住居跡１軒、溝跡２条、土坑２基、ピット２基、落ち込み２ヶ所が検出された。溝２条のうち、１条は中世以後と考えられるが、もう１条は重複関係や覆土から古代の溝と推定される。その他、中世面付近で、中近世と推定される自然石と石製品の集中が検出された。

４トレンチ（Fig.７、PL.５）

４トレンチは国庁推定地Ａ案の南西部の内容を確認するため、東西11.5m、南北約２mの24㎡の範囲を調査した。このトレンチでは、古墳時代（６世紀以前？）の住居跡１軒、６世紀の住居跡１軒、10世紀の住居跡１軒、11世紀の住居跡２軒、中世の溝１条、落ち込み１ヶ所が検出された。溝跡の時期は中世と考えられ、その位置や形状から元総社蒼海遺跡群（31）で検出された２号溝の南側の延長と考えられる。

５トレンチ（Fig.７、PL.６）

５トレンチは国庁推定地Ａ案の南西部の内容を確認するため東西13m、南北２mの26㎡を調査した。表土を掘削した結果、その下層が総社砂層面となる状況だった。なお、このトレンチでは10世紀頃と推定される住居跡が１軒、それ以後の住居が１軒、時期不明の住居跡が１軒検出された。

６トレンチ（Fig.７、PL.７）

６トレンチは国庁推定地Ａ案の南西部の内容を確認するため東西24m、南北３mの72㎡を調査した。６トレンチにおいても表土の下層が総社砂層面となる状況だった。このトレンチでは溝３条、土坑２基、井戸１本、ピット２基が検出された。２条のうち確認された溝跡のうち、Ｗ－２号は、ほぼ南北方向に走行を持ち、その位置や形状から蒼海遺跡群（14）５トレンチで検出されたＷ－32号溝跡の南側の延長と考えられる。

７トレンチ（Fig.７、PL.８）

７トレンチは国庁推定地Ａ案の南西部の内容を確認するため東西24m、南北３mの72㎡を調査した。７トレンチにおいても表土の下層が総社砂層面となる状況だった。このトレンチでは６世紀の住居跡１軒、井戸２本、土

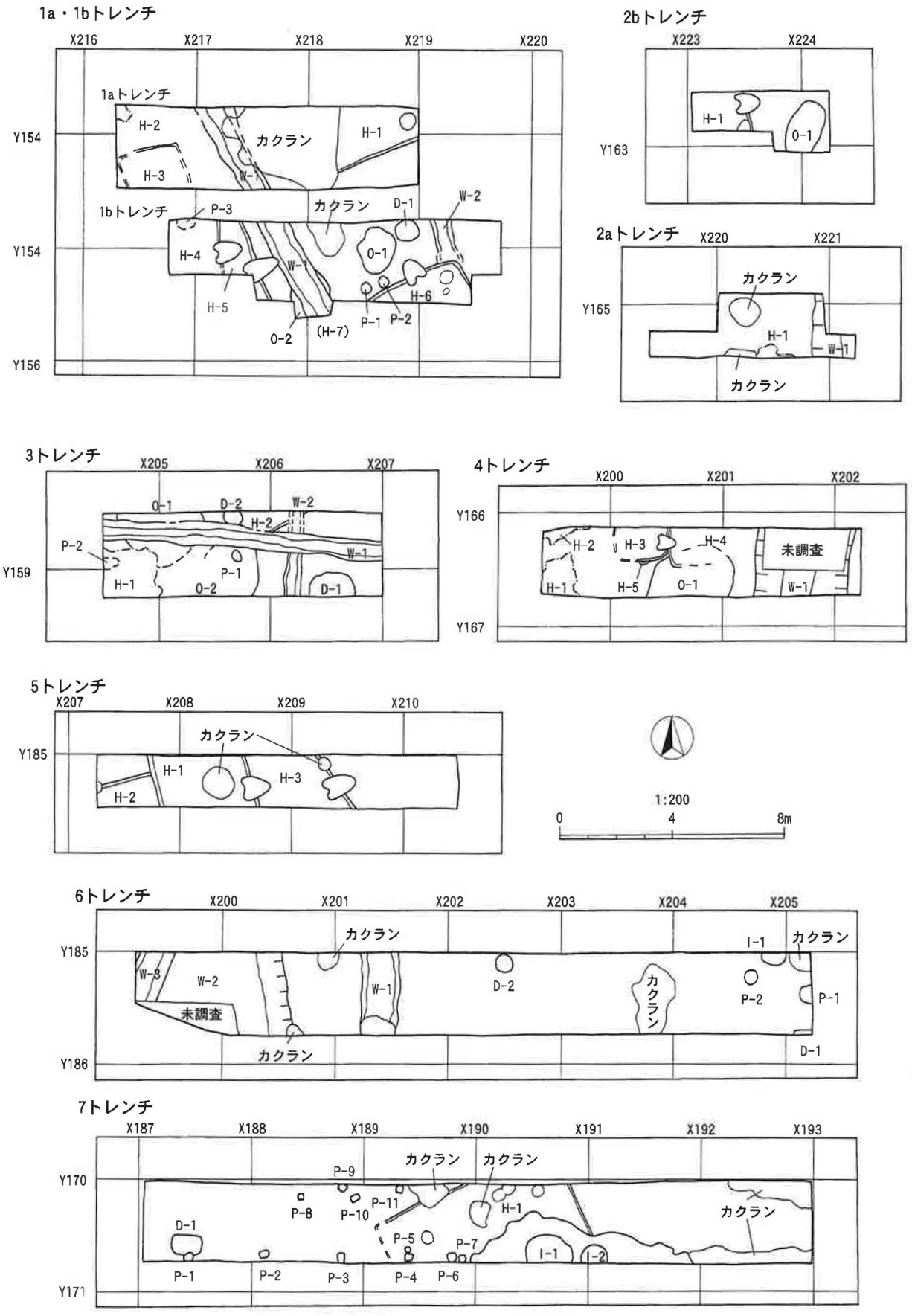


Fig. 7　各トレンチ全体図

坑１基、ピット11基が検出された。

2　各トレンチの検出遺構

１ａトレンチ

(1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig. 8 、PL. 1 ）

位置　X218、Y154・155グリッド。　**主軸方向**　N―68°―E。　**形状等**　方形と推定される。東西(3.5)m、南北(2.1)mを測る。　**面積**　(4.95)㎡。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床。　**竈**　未検出(調査区外に存在すると推定される)。　**貯蔵穴等**　貯蔵穴を南東隅で検出。柱穴は検出されなかった。　**周溝**　確認された南壁で検出された。　**出土遺物**　床面から土師器坏、貯蔵穴付近で甕・小甕が出土。　**その他**　覆土中、床面やや上の位置に Hr-FA の堆積が見られた。　**時期**　遺物や覆土堆積物から５世紀末と推定される。

Ｈ－２号住居跡（Fig. 8 、PL. 1 ）

位置　X216、Y153グリッド。　**主軸方向**　N―84°―E。　**形状等**　方形と推定される。東西(1.76)m、南北(0.88)m。　**面積**　(1.31)㎡。　**床面**　砂層への漸位層に造られた地山床で、竈前面部と推定される部分を中心に堅緻面が分布する。　**竈**　住居南東隅に構築されていたと推測されるが、本体は確認できなかった。　**出土遺物**　竈前面と考えられる部分から酸化焔焼成の坏及び土釜が出土している。　**時期**　出土遺物から11世紀後半と推定される。

Ｈ－３号住居跡（Fig. 8 、PL. 1 ）

位置　X216、Y154グリッド。　**主軸方向**　N―68°―E。　**形状等**　方形で、東西2.2m、南北(2.0)m。　**面積**　(3.18)㎡。　**床面**　砂層への漸位層に造られた地山床で、堅緻面は確認できなかった。　**竈**　未検出（調査区外に存在すると推定される)。　**出土遺物**　土師器、須恵器片が少数出土。　**時期**　住居の構造から11世紀頃と推定される。

Ｈ－４号住居跡（Fig. 8 、PL. 2 ）

位置　X216・217、Y154・155グリッド。　**主軸方向**　N―179°―E　**形状等**　方形と推定され、東西(1.98)m、南北(2.02)m　**面積**　(3.79)㎡　**床面**　重複関係上、Ｈ－５号住居跡の覆土内に造られた貼床で、竈前面を中心に堅緻面が検出された。　**竈**　東壁に構築されている。主軸方向はN―70°―E、全長0.9m、最大幅0.8m、焚口部幅0.3mを測る。構築材に自然礫を使用している。　**重複**　Ｈ－５号住居跡と重複する。重複関係はＨ－５号住居跡→本住居跡の順である。　**出土遺物**　羽釜片等が出土している。　**時期**　出土遺物と住居の構造から10世紀頃と推定される。

Ｈ－５号住居跡（Fig. 9 、PL. 2 ）

位置　X216・217、Y154・155グリッド。　**主軸方向**　N―157°―E。　**形状等**　方形。東西(3.18)m、南北(4.03)m。　**面積**　(6.29)㎡。　**床面**　地山の砂層を平坦にした地山床。堅緻面は検出できなかった。　**竈**　東壁の中央部に構築し、主軸方向はN―60°―E、全長1.15mを測る。構築材は自然礫及び凝灰質の砂岩の切石を芯材として使用する。　**貯蔵穴等**　貯蔵穴は調査区外に位置すると推測され、柱穴は３基検出された。　**重複**　Ｈ－４号住居跡、Ｗ－１号溝と重複する。重複関係は本住居跡→Ｈ－４号住居跡・Ｗ－１号溝跡の順である。　**出土遺物**　床面直上より土師器坏片、竈付近で土師器甑片が出土している。　**時期**　出土遺物などから６世紀後半と推定される。

Ｈ－６号住居跡（Fig. 9 、PL. 2 ）

位置　X218・219、Y154・155グリッド。　**主軸方向**　N―63°―E。　**形状等**　方形。東西(3.68)m、南北(1.90)m。　**面積**　(3.71)㎡。　**床面**　貼床の堅緻面が検出された。　**竈**　北壁中央部に構築し、主軸方向N―60°

W、全長0.65m、最大幅0.68m、焚口部幅0.25mを測る。構築材は自然礫及び凝灰質砂岩の切石を芯材として使用している。　**貯蔵穴等**　貯蔵穴及び柱穴１基が竈東側で検出された。　**出土遺物**　竈付近から土師器甕が出土した。　**時期**　出土遺物から６世紀後半と推定される。

Ｈ－７号住居跡（Fig.９）

位置　X217、Y154グリッド。W－１号溝の調査中に、トレンチの壁面の土層で検出されたため、平面プラン等詳細は不明。　**重複**　W－１号溝と重複する。重複関係はW－１号溝→本住居跡の順である。　**出土遺物**　覆土から酸化焔焼成の須恵器坏片が出土している。　**時期**　出土遺物から10世紀頃と推定される。

⑵　溝跡

W－１号溝跡（Fig.９、PL.１・２）

位置　X217･218、Y153～155グリッド。　**主軸方向**　N－65°－W。　**形状等**　長さ(8.5)m　深さ30cm　最大上幅118cm、最大下幅38cm。断面は逆台形。　**重複**　H－５号･７号住居跡と重複する。重複関係はH－５号住居跡→本溝跡→H－７号住居跡の順である。　**出土遺物**　土師器、須恵器小片が少量出土。　**時期**　重複関係及び覆土の状況から古代（古墳時代以降）と考えられる。

W－２号溝跡（Fig.10）

位置　X219、Y154･155グリッド。　**主軸方向**　N－80°－W。　**形状等**　長さ1.5m　深さ９cm　最大上幅96cm、最大下幅32cm。断面は浅い皿状。　**出土遺物**　陶磁器片など数点　**時期**　覆土の状況や出土遺物から近世以後と推定される。

⑶　土坑、ピット、風倒木痕

土坑が１基、ピットが３基、風倒木痕が２ヶ所検出された。規模等については計測表（Tab.３）に記載した。

２ａ・２ｂトレンチ

⑴　竪穴式住居

Ｈ－１号住居跡（Fig.10、PL.３）

位置　X220、Y165グリッド。　**主軸方向等**　床面の一部が検出されたのみで主軸方向や規模、面積等は不明。床面は漸移層に造られた地山床で堅緻面が検出された。　**竈**　未検出(調査区外に存在すると推定される)。　**出土遺物**　須恵器、土師器、瓦片が少数出土した。　**時期**　判断基準が少ないため時期特定が難しいが、検出状況から11世紀頃と推定される。

Ｈ－２号住居跡（Fig.10、PL.３）

位置　X223、Y162グリッド。　**主軸方向**　N－81°－E。　**形状等**　方形。東西(2.12)m、南北(1.75)m。　**面積**　2.91㎡　**床面**　貼床。その下位は砂層となる。　**竈**　東壁中央部に構築し、主軸方向N－85°－E、全長(0.8)m、最大幅(0.8)m、焚口部幅(0.35)mを測る。構築材は褐色粘質土を用いており、両袖は自然石を芯材とし、支柱は羽口を転用している。　**貯蔵穴等**　貯蔵穴が竈右側で検出された。　**出土遺物**　竈前面部及び貯蔵穴付近から須恵器、土師器及び瓦片が出土している。　**その他**　竈前面で床下土坑が１基検出された。東西1.0m、南北0.8m、深さ0.25mの規模の不定形な楕円状で、薄い粘土層をもつ。　**時期**　出土遺物から10世紀後半と推定される。

⑵　溝跡

W－１号溝跡（Fig.10、PL.３）

位置　X220･221、Y164･165グリッド。　**主軸方向**　N－５°－E。　**形状等**　長さ2.3m、深さ2.0m。薬研堀と推定される。　**出土遺物**　須恵器、土師器片が少量出土。　**時期**　形状や覆土の状況等から中世と推定される。

⑶　風倒木痕

風倒木痕が１ヶ所検出された。規模等については計測表（Tab.３）に記載した。

3トレンチ

(1)　竪穴式住居

H－1号住居跡（Fig.11、PL.4）

位置　X204、Y158、159グリッド。　**主軸方向**　N－90°－E。　**形状**　方形と推定される。　**床面**　貼床で、堅緻面が検出された。　**竈**　未検出(調査区外に存在すると推定される)。　**重複関係**　W－1号溝と重複する。重複関係は本住居跡→W－1号溝の順である。　**出土遺物**　床面直上から高台付埦が出土。　**時期**　出土遺物から10世紀後半と推定される。

H－2号住居跡（Fig.11、PL.4）

位置　X205・206、Y158グリッド。　**主軸方向**　N－55°－E。　**形状**　方形と推定される。　**床面**　貼床で、堅緻面が検出された。　**竈**　未検出(調査区外に存在すると推定される)。　**出土遺物**　床面直上で土師器高坏片が出土した。　**時期**　出土遺物から6世紀初頭と推定される。

(2)　溝跡

W－1号溝跡（Fig.11、PL.4）

位置　X204～206、Y158・159グリッド。　**主軸方向**　N－93°－E。　**形状等**　長さ(9.9)m、深さ24cm、最大上幅87cm、最大下幅15cm。断面は「U」字状。　**重複関係**　H－1号・2号住居跡、W－2号溝跡と重複する。重複関係はH－2号住居跡→W－2号溝→H－1号住居跡→本溝跡の順。　**出土遺物**　石臼片が出土。　**時期**　形状や出土遺物から中世以後と考えられる。

W－2号溝跡（Fig.11、PL.5）

位置　X206、Y158・159グリッド。　**主軸方向**　N－5°－E。　**形状等**　長さ(2.8)m、深さ18cm、最大上幅60cm、最大下幅25cm。断面は「U」字状。　**重複関係**　H－2号住居跡、W－1号溝跡と重複する。重複関係はH－2号住居跡→本溝跡→W－1号溝跡の順。　**出土遺物**　土師器片が若干出土。　**時期**　判断基準が少ないため時期特定が難しいが、覆土の状況と重複関係から古代（古墳時代以後から浅間B軽石降下以前）と考えたい。

(3)　土坑、ピット、風倒木痕

土坑が2基、ピットが2基、風倒木痕が2ヶ所検出された。規模等については計測表（Tab.3）に記載した。

4トレンチ

(1)　竪穴式住居

H－1号住居跡（Fig.12、PL.5）

位置　X199・200、Y166グリッド。　**主軸方向等**　床面のみの検出であるため、主軸方向や規模等詳細は不明。床面は漸移層に造られた地山床で堅緻面が検出された。　**竈**　未検出(調査区外に存在すると推定される)。　**出土遺物**　土師器片が少量出土。　**時期**　時期を特定できる出土遺物がないため詳細は不明であるが、検出状況から11世紀代と考えたい。

H－2号住居跡（Fig.12、PL.5）

位置　X199・200、Y166グリッド。　**主軸方向等**　床面のみの検出であるため、主軸方向や規模等詳細は不明。床面は漸移層に造られた地山床で堅緻面が検出された。　**竈**　未検出(調査区外に存在すると推定される)。　**時期**　時期を特定できる出土遺物がないため詳細は不明であるが、検出状況から11世紀代と考えたい。

H－3号住居跡（Fig.12、PL.6）

位置　X200、Y166グリッド。　**主軸方向**　N－90°－E。　**形状等**　方形。東西1.92m、南北(1.22)m。　**床面**　砂層の地山を掘り込んで構築された貼床。堅緻面は未検出。　**竈**　東壁南端付近に構築する。主軸方向N－96°－E、全長0.6m、最大幅(0.5)m、焚口部幅(0.25)mを測る。　**重複関係**　H－5号住居跡と重複する。重複関

係はＨ－５号住居跡→本住居跡の順。　**出土遺物**　須恵器、土師器片が少量出土。　**時期**　住居の構造等から10世紀頃を考えたい。

Ｈ－４号住居跡（Fig.12、PL.６）

位置　Ｘ201、Ｙ166グリッド。　**主軸方向**　Ｎ－87°－Ｅ。　**形状等**　方形と推定される。東西(1.53)ｍ、南北(1.41)ｍ。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床。　**竈**　未検出。　**重複関係**　Ｈ－５号住居跡と重複する。重複関係はＨ－５号住居跡→本住居跡の順。　**出土遺物**　須恵器、土師器片が少量出土。　**時期**　検出状況から６世紀頃を考えたい。

Ｈ－５号住居跡（Fig.12、PL.６）

位置　Ｘ200・201、Ｙ166グリッド。　**主軸方向**　Ｎ－148°－Ｅ。　**形状等**　方形と推定される。東西(3.58)ｍ、南北(2.64)ｍ。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床と考えられる。　**竈**　未検出（調査区外に存在すると推定される）。　**重複関係**　Ｈ－３号・４号住居跡と重複する。重複関係は本住居跡→Ｈ－３号・Ｈ－４号住居跡の順。　**出土遺物**　ほぼ出土しなかった。　**時期**　時期を特定できる出土遺物がないため判断が難しいが、古墳時代（６世紀以前）と考えたい。

(2)　溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.12、PL.６）

位置　Ｘ201・202、Ｙ166グリッド。　**主軸方向**　Ｎ－７°－Ｅ。　**形状等**　長さ(2.5)ｍ、深さ9.5cm、最大上幅328cm、最大下幅110cm。断面は逆台形。　**時期**　形状や覆土の状況から中世と考えられる。

(3)　風倒木痕

風倒木痕が１ヶ所検出された。規模等については計測表（Tab.３）に記載した。

５トレンチ

(1)　竪穴式住居

Ｈ－１号住居跡（Fig.13、PL.６）

位置　Ｘ207・208、Ｙ185グリッド。　**主軸方向**　Ｎ－77°－Ｅ。　**形状等**　方形。東西3.53m、南北(2.64)ｍ。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床。　**竈**　東壁に構築し、主軸方向Ｎ－75°－Ｅ、全長0.8m、最大幅0.8m、焚口部幅0.38mを測る。　**重複関係**　Ｈ－２号・３号住居跡と重複する。重複関係はＨ－２号住居跡・３号住居跡→本住居跡の順。　**出土遺物**　土師器、須恵器片が少量出土。　**時期**　時期を特定できる出土遺物がないため不明（10世紀以後か）。

Ｈ－２号住居跡（Fig.13、PL.６）

位置　Ｘ207、Ｙ185グリッド。　**主軸方向**　Ｎ－72°－Ｅ。　**形状等**　方形と推定される。東西(2.23)ｍ、南北(1.44)ｍ。　**床面**　漸移層に造られた地山床。　**竈**　未検出（Ｈ－１号住居跡により破壊か）。　**出土遺物**　土師器、須恵器片が少量出土。　**時期**　時期を特定できる出土遺物がないため不明。

Ｈ－３号住居跡（Fig.13、PL.７）

位置　Ｘ208・209、Ｙ185グリッド。　**主軸方向**　Ｎ－58°－Ｅ。　**形状等**　方形と推定される。東西(3.12)ｍ、南北(3.66)ｍ。　**床面**　地山の砂層に造られた地山床。　**竈**　東壁に構築し、主軸方向Ｎ－65°－Ｅ、全長1.0m、最大幅0.7m、焚口部幅0.34mを測る。　**重複関係**　Ｈ－１号住居跡と重複する。重複関係は本住居跡→Ｈ－１号住居跡の順。　**出土遺物**　瓦片が極少量出土。　**時期**　時期を特定できる出土遺物がないため判断が難しいが、10世紀頃と考えたい。

6トレンチ

(1) 溝跡

W－1号溝跡（Fig.14）

位置　X201、Y185グリッド。　**主軸方向**　N－1°－E。　**形状等**　長さ(2.95)m、深さ0.26cm、最大上幅140cm、最大下幅84cm。断面は浅い「U」字状。　**出土遺物**　土師器、須恵器、軟質土器片が少量出土。　**時期**　出土遺物等から中世以後と考えられる。

W－2号溝跡（Fig.14）

位置　X199・200、Y185グリッド。　**主軸方向**　N－10°－W。　**形状等**　長さ(3.04)m、深さ137.0cm、最大上幅308cm、最大下幅182cm。断面は逆台形で底部は平坦。覆土中に砂礫層が一部でみられた。また貼床状の硬化した層が面的な広がりをもって検出された。　**重複関係**　W－3号溝跡と重複する。重複関係は本溝跡→W－3号溝跡の順。　**出土遺物**　土師器、須恵器片が少量出土。　**時期**　覆土の状況及び出土遺物から古代と考えられる。

W－3号溝跡（Fig.14）

位置　X199、Y185グリッド。　**主軸方向**　N－25°－E。　**形状等**　長さ(2.24)m　深さ137.0cm　最大上幅134cm、最大下幅182cm。断面は逆台形。　**重複関係**　W－2号溝跡と重複する。重複関係はW－2号溝跡→本溝跡の順。　**時期**　時期を特定できる出土遺物等がないため判断が難しいが、形状等から中世以後と考えられる。

(2) 井戸跡

Ⅰ－1号井戸跡（Fig.14、PL.7）

位置　X204、Y185グリッド。　**形状等**　南北(0.45)m、東西0.81mの円形で、深さ0.8mまで調査した。　**出土遺物**　なし。　**時期**　中近世か。

(3) 土坑、ピット

土坑が2基、ピットが2基検出された。規模等については計測表（Tab.3）に記載した。

7トレンチ

(1) 竪穴式住居

H－1号住居跡（Fig.15、PL.8）

位置　X189～191、Y170グリッド。　**主軸方向**　N－65°－E。　**形状等**　方形。東西[6.7]m、南北(4.72)m。**床面**　地山の砂層に造られた地山床。　**竈**　未検出(調査区外に存在すると推定される)。　**貯蔵穴等**　柱穴を2基検出。　**重複**　南側でⅠ－1号・2号井戸と重複するが、本遺構が一番古い。　**出土遺物**　須恵器甕片が出土。**時期**　住居の構造や出土遺物から6世紀頃と推定される。

(2) 井戸跡

Ⅰ－1号井戸跡（Fig.15、PL.8）

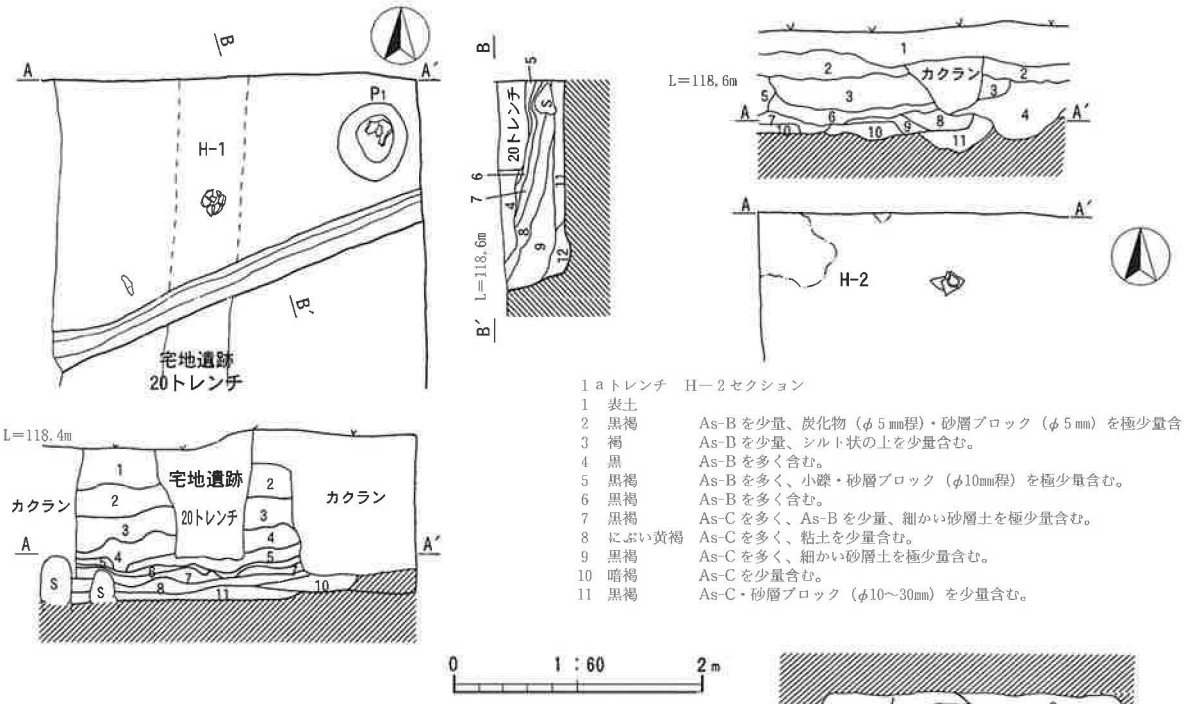
位置　X190、Y170グリッド。　**形状等**　一部が調査区外となるが、南北(1.0)m×東西1.7mのほぼ円形で、平面形状が確認できる深さまで調査した。　**その他**　落ち込み内にⅠ－2号井戸と並んで存在する。　**時期**　検出状況から中世以後と推定される。

Ⅰ－2号井戸跡（Fig.15、PL.8）

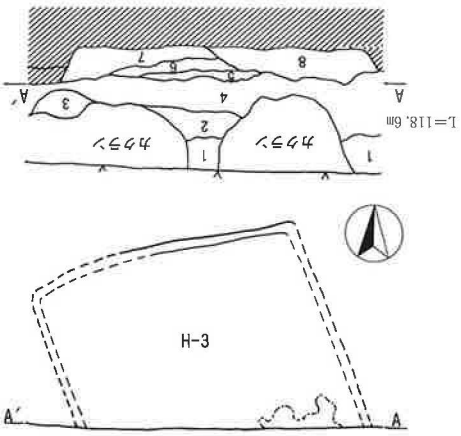
位置　X190・191、Y170グリッド。　**形状等**　一部が調査区外となるが、南北(0.6)m×東西0.9mの円形で、平面形状が確認できる深さまで調査した。　**その他**　落ち込み内にⅠ－1号井戸と並んで存在する。　**時期**　検出状況から中世以後と推定される。

(3)土坑・ピット、落ち込み

土坑が1基、ピットが11基検出された。規模等については計測表（Tab.3）に記載した。



１ａトレンチ　Ｈ－２セクション
1　表土
2　黒褐　As-B を少量、炭化物（φ５㎜程）・砂層ブロック（φ５㎜）を極少量含む。
3　褐　As-B を少量、シルト状の土を少量含む。
4　黒　As-B を多く含む。
5　黒褐　As-B を多く、小礫・砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
6　黒褐　As-B を多く含む。
7　黒褐　As-C を多く、As-B を少量、細かい砂層土を極少量含む。
8　にぶい黄褐　As-C を多く、粘土を少量含む。
9　黒褐　As-C を多く、細かい砂層土を極少量含む。
10　暗褐　As-C を少量含む。
11　黒褐　As-C・砂層ブロック（φ10～30㎜）を少量含む。



１ａトレンチ　Ｈ－１セクション
1　表土
2　黒褐　As-B を多く、As-C を少量、炭化物（φ５㎜程）・砂層ブロック（φ５㎜）を極少量含む。
3　暗褐　As-C、Hr-FA を少量含む。
4　にぶい橙　Hr-FA（粒子粗い）層。炭化物を若干含む。
5　明黄褐　Hr-FA（粒子細かい）層。ラミナが見られる。
6　黄橙　Hr-FA 層。
7　にぶい赤褐　Hr-FA 層。
8　黒褐　Hr-FA・細かい砂層土を多く含む。
9　暗褐　砂層ブロック（φ５～10㎜）を多く含む。
10　にぶい黄褐　粘土を極少量、焼土・炭を少量含む。
11　黒褐　灰、砂層ブロック（φ10㎜程）を少量含む。
12　褐　細かい砂層土を多く、炭化物を極少量含む。

１ａトレンチ　Ｈ－３セクション
1　表土
2　暗褐　As-B を少量含む。
3　暗褐　As-B を少量、焼土を極少量含む。
4　黒褐　As-B・As-C を少量、砂層ブロック（φ５～10㎜）・炭化物を極少量含む。
5　灰層　焼土を少量含む。
6　黒褐　焼土を少量、As-C を極少量含む。
7　黒褐　焼土を極少量含む。
8　黒褐　焼土・粘土ブロックを極少量含む。

１ｂトレンチ　Ｈ－４竈セクション
1　黒褐　細かい焼土ブロック、炭化物、粘土を少量含む。
2　黒褐　細かい焼土ブロックを多く含む。
3　黒褐　細かい焼土ブロックを極少量含む。
4　にぶい黄褐　粘土を多く含む。
5　黒褐　細かい焼土ブロックを若干含む。
6　黒褐　細かい焼土ブロックを少量含む。
7　黒褐　砂層ブロック（φ５～10㎜）を少量含む。
8　青黒　灰を多く含む。

１ｂトレンチ　Ｈ－４セクション
1　表土
2　黒褐　As-B を多く、As-C を少量含む。
3　黒褐　As-B・As-C を少量含む。
4　黒褐　砂層ブロック（φ10～20㎜）・As-B を少量、As-C を多く含む。
5　黒褐　As-B を少量、As-C を極少量含む。
6　黒褐　As-C を少量含む。
7　黒褐　As-B を少量、As-C を多く含む。
8　黒褐　As-C を少量含む。
9　暗褐　細かい砂層土を少量、As-C を少量含む。
10　黒褐　細かい砂層土を少量、As-C を少量含む。

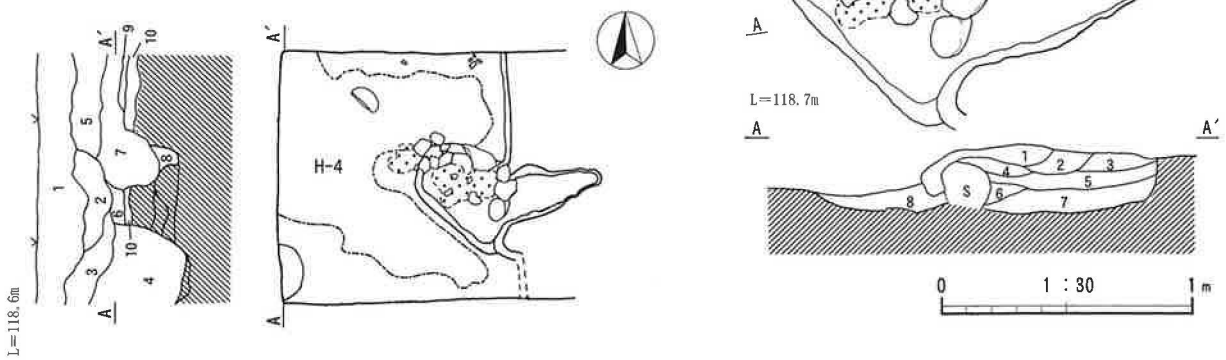
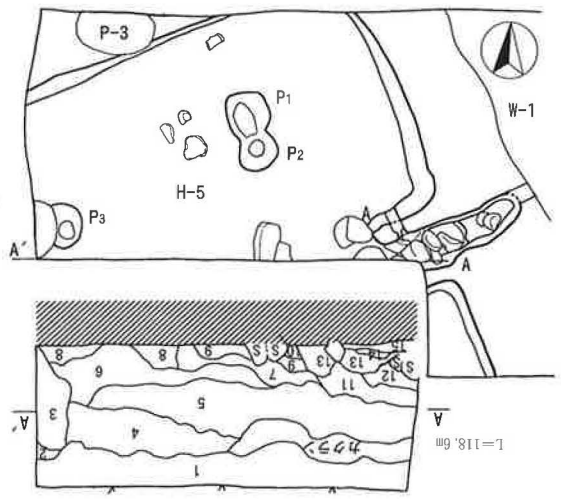
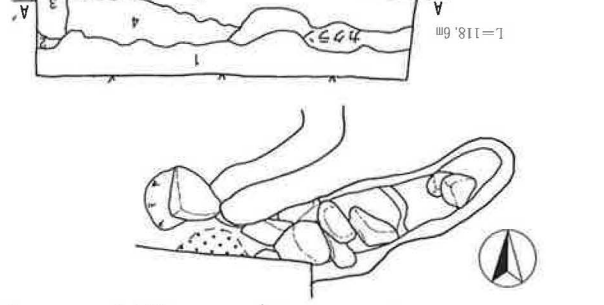
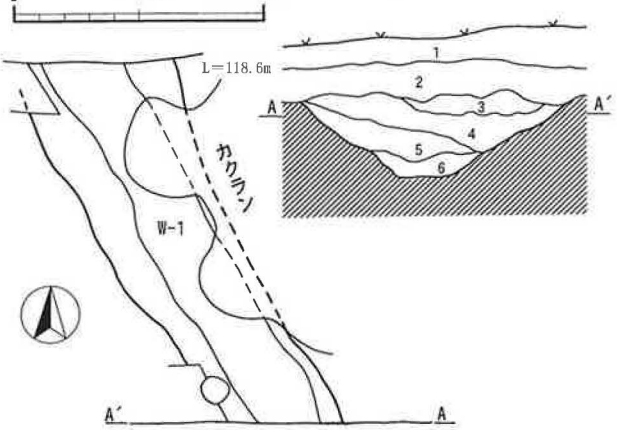


Fig.8　１ａ・１ｂトレンチ各遺構

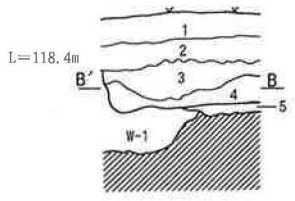


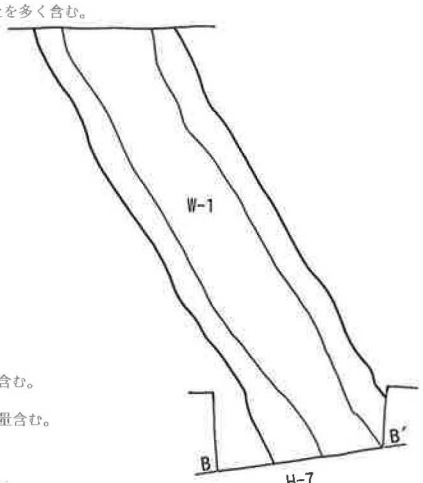
1 b トレンチ　H－5 セクション
1　表土
2　黒褐　As-B・As-C を少量含む。
3　黒褐　As-B・砂層ブロック（φ10～20㎜）を少量、As-C を多く含む。
4　黒褐　As-B を多く、As-C を少量含む。
5　黒褐　As-C を多く、砂層ブロック（φ５～10㎜）を極少量含む。
6　黒褐　砂層ブロック（φ10～30㎜）・As-C を少量含む。
7　黒褐　As-C をやや多く含む。
8　黒褐　As-C を若干、砂層ブロック（φ10～20㎜）を極少量含む。
9　黒褐　As-C・粘土を少量、砂層ブロック（φ10～30㎜）を極少量含む。
10　暗褐　細かい焼土・灰を多く含む。
11　黒褐　粘土を多く、As-C・砂層ブロック（φ10～20㎜）を少量、焼土を若干含む。
12　褐　粘土・焼土を多く含む。
13　灰黄褐　粘土を多く、砂層ブロック（φ５～10㎜）を極少量含む。
14　にぶい黄褐　粘土・焼土を多く含む。
15　灰層



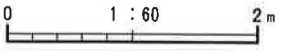


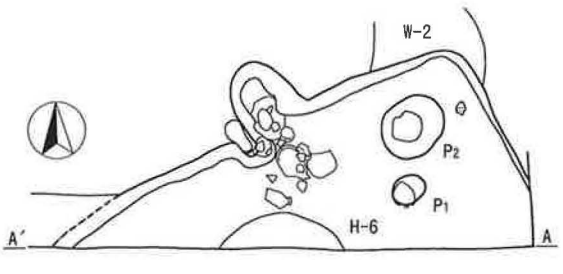
1 a・1 b トレンチ　W－1 セクション
1　表土
2　黒褐　As-B を多く、As-C・砂層ブロック（φ10㎜程）を少量含む。
3　黒褐　As-B・As-C を少量、砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
4　暗褐　As-C・砂層ブロック（φ10㎜程）を少量含む。
5　黒褐　As-C を多く含む。
6　暗褐　As-C を少量、細かい砂層土を多く含む。

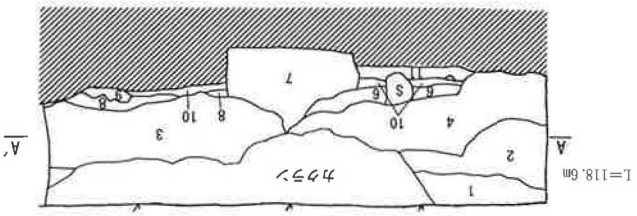




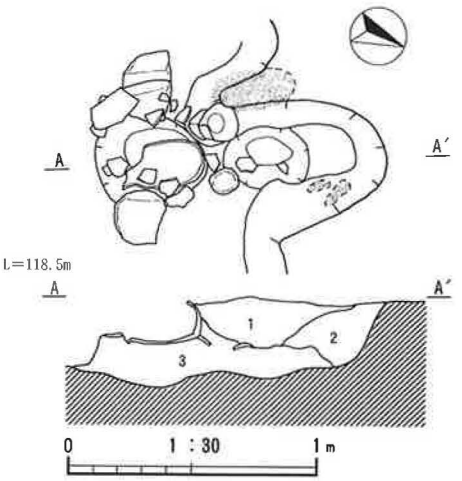
1 b トレンチ　H－7 セクション
1　表土
2　黒褐　As-B を多く、As-C を少量含む。
3　黒褐　As-B・As-C を少量を含む。
4　黒褐　As-C を少量、炭化物を極少量含む。
5　黒褐　灰・焼土を多く含む。





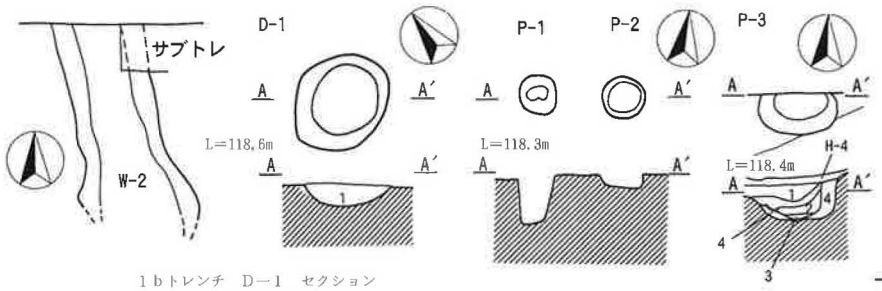


1 b トレンチ　H－6 セクション
1　表土
2　黒褐　As-B・As-C を少量含む。
3　黒褐　As-C を多く含む。
4　黒褐　As-C を少量、砂層ブロック（φ５～20㎜）を極少量含む。
5　黒褐　As-C・細かい砂層土を少量含む。
6　黒褐　As-C を少量・砂層ブロック（φ10～20㎜）を極少量含む。
7　黒褐　砂層ブロック（φ５～20㎜）を多く含む。
8　黒褐　As-C を少量、細かい砂層土を極少量含む。
9　暗褐　細かい砂層土をを多く含む。
10　黒褐　細かい砂層土少量、As-C 極少量含む。
11　暗褐　細かい砂層土少量、As-C 極少量含む。



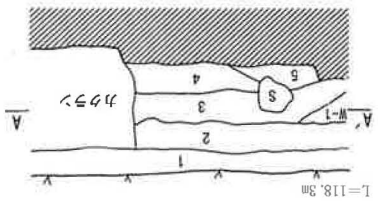
1 b トレンチ　H－6 竈セクション
1　灰黄褐　粘土を多く、焼土ブロック・炭化物を少量含む。
2　黒褐　粘土を少量、焼土を極少量含む。
3　暗褐　粘土・焼土を少量含む。

Fig. 9　１ｂトレンチ各遺構

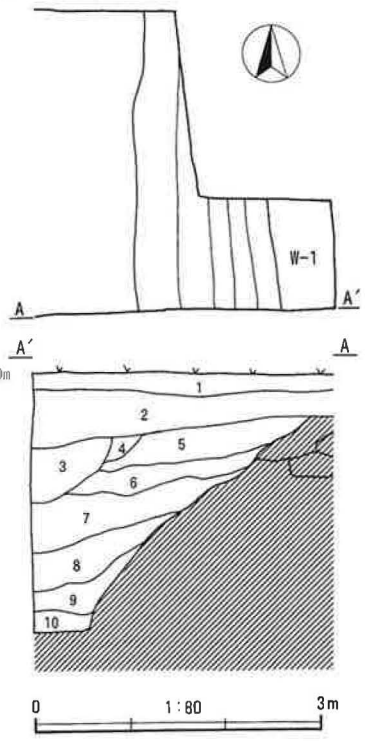


１ｂトレンチ　Ｄ－１　セクション
1　黒褐　As-C を少量含む。

１ｂトレンチ　Ｐ－３　セクション
1　黒褐　As-C・灰を少量含む。
2　黒褐　As-C を少量含む。
3　黒褐　As-C を少量、砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
4　黒褐　As-C・細かい砂層土を少量含む。

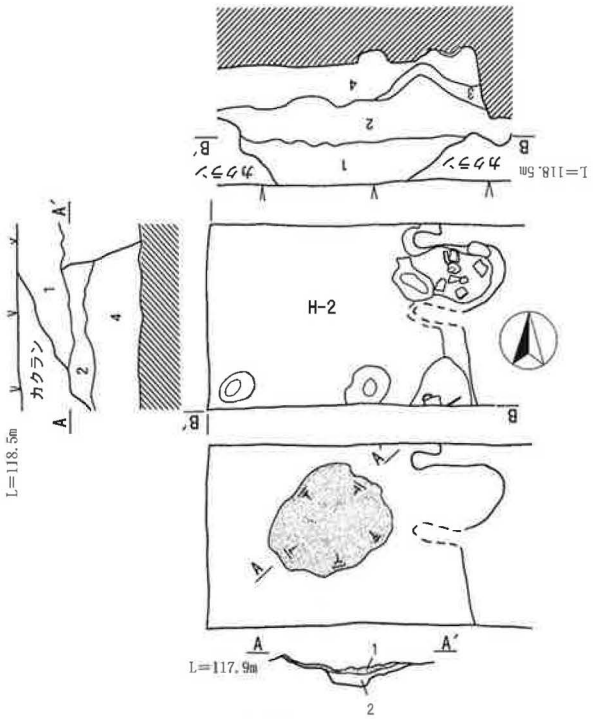


２ａトレンチ　Ｈ－１セクション
1　客土
2　表土
3　黒褐　As-C を多く含む。
4　黒褐　As-C を少量含む。
5　黒褐　As-C を極少量含む。粘土を少量含む。

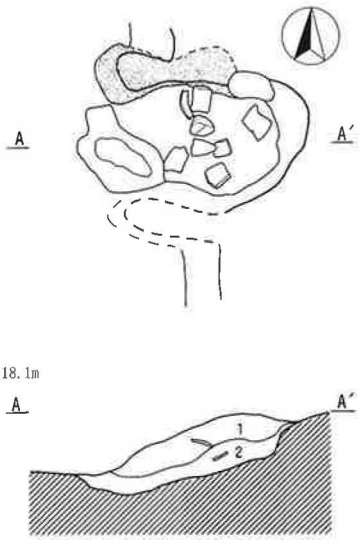


２ａトレンチ　Ｗ－１セクション
1　表土　　客土
2　表土
3　黒褐　　砂層土、粘土ブロック（φ10㎜）、小礫（φ５㎜程）を極少量含む。
4　灰黄褐　粘土ブロック（φ10～20㎜）を多く含む。
5　黒褐　　細かい粘土を多く含む。
6　黒褐　　粘土ブロック（φ10㎜程）、シルト質土を多く含む。
7　黒褐　　小礫・シルト質土を少量含む。
8　黒褐　　砂層ブロック（φ10㎜程）を少量、小礫を極少量含む。
9　暗褐　　砂層土を多く、砂層ブロック（φ10～20㎜）を極少量含む。
10　黒褐　　砂層ブロック（φ５～10㎜）を少量含む。

２ｂトレンチ　Ｈ－２セクション
1　表土
2　黒褐　As-C を多く含む。
3　黒褐　As-C・砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
4　暗褐　As-C を多く、細かい砂層土を極少量含む。

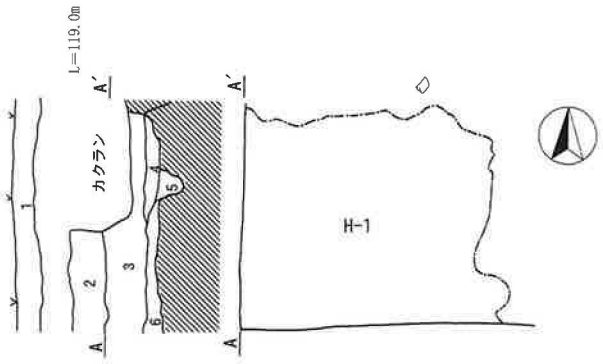


２ｂトレンチ　Ｈ－１床下土坑セクション
1　灰　　シルト質。
2　黒褐　砂層ブロック（φ５～20㎜）を多く含む。

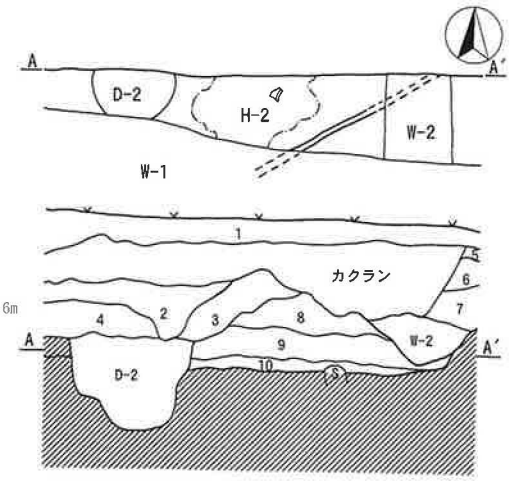


２ｂトレンチ　Ｈ－２竈セクション
1　灰黄褐　砂層ブロック（φ10～20㎜）少量、粘土を多く含む。
2　暗褐　　焼土・炭化物を少量含む。

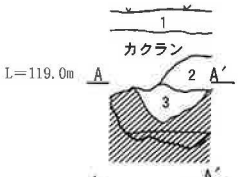
Fig.10　１ｂ・２ａ・２ｂトレンチ各遺構

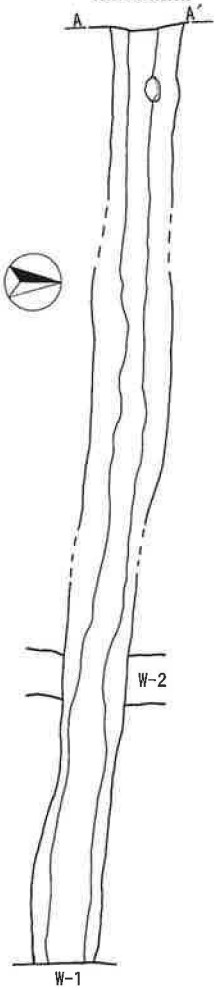


3トレンチ　H－1セクション
1　表土
2　黒褐　As-Cを多く含む。
3　黒褐　As-Cを多量、砂層ブロック（φ10㎜程）を少量、砂層土を極少量含む。
4　黒褐　As-C少量、砂層土を少量含む。
5　黒褐　As-C極少量、灰を少量含む。
6　褐　　砂層土を多く含む。砂層ブロック（φ20㎜程）を極少量含む。

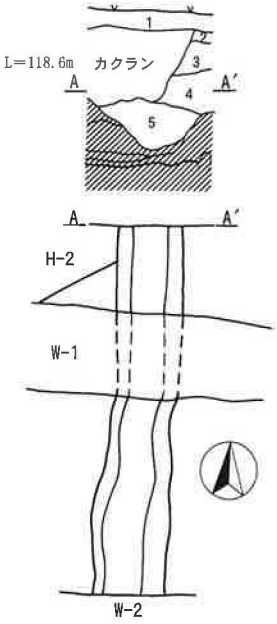


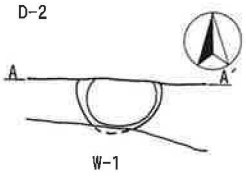
3トレンチ　H－2セクション
1　表土
2　黒褐　As-Cを下位に多く含む。砂層ブロック（φ5㎜程）を極少量含む。
3　黒褐　As-Cを少量、砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
4　暗褐　As-Cを極少量、砂層ブロック（φ5～30㎜）を少量含む。
5　黒褐　As-Bを極少量含む。
6　黒褐　As-Bを多く含む。B混層。
7　黒褐　As-Cを多く含む。
8　黒褐　As-Cを少量、細かい砂層土を極少量含む。
9　黒褐　As-Cを少量、砂ブロック（φ5㎜程）を少量含む。
10　暗褐　H－2の貼り床、黒色土。砂層ブロック（φ10㎜）を多く含む。

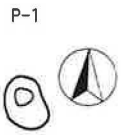


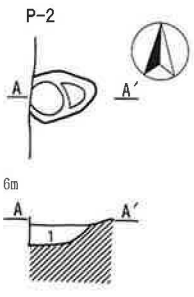


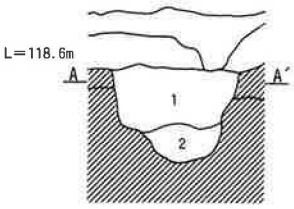
3トレンチ　W－2セクション
1　表土
2　黒褐　As-Bを極少量含む。
3　黒褐　As-Bを多く含む。B混層。
4　黒褐　As-Cを多く含む。
5　黒褐　As-Cを少量、砂層ブロック（φ10㎜）を少量含む。











3トレンチ　D－2セクション
1　黒褐　As-Cを多く、砂層ブロック（φ10～30㎜）を少量含む。
2　暗褐　砂層土及び砂層ブロック（φ50～60㎜）を少量含む。

3トレンチ　P－2セクション
1　暗褐　灰ブロック（φ10㎜程）を少量含む。As-C少量。

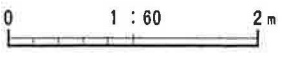
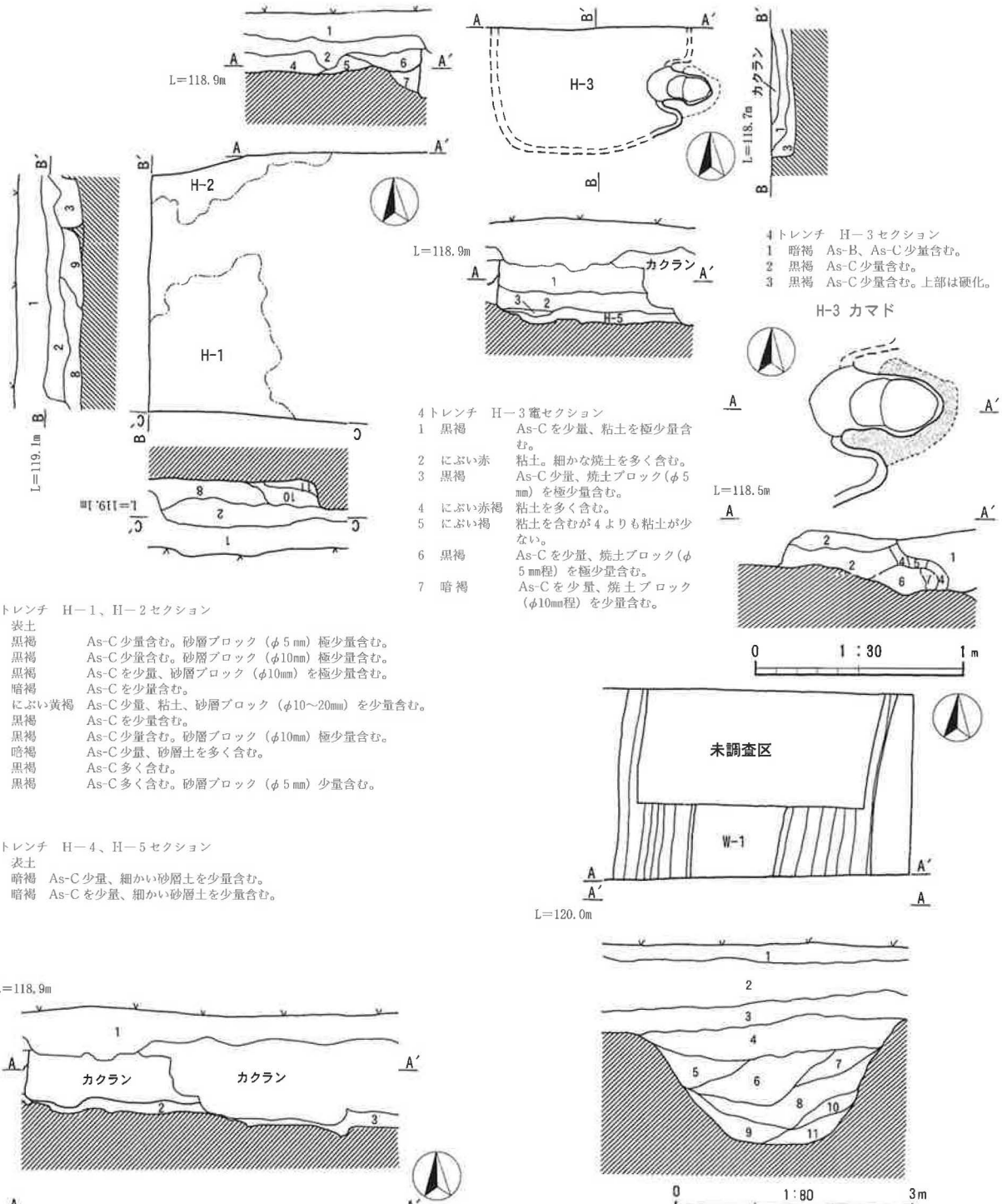


Fig.11　3トレンチ各遺構



4トレンチ　H－３セクション
1　暗褐　As-B、As-C少量含む。
2　黒褐　As-C少量含む。
3　黒褐　As-C少量含む。上部は硬化。

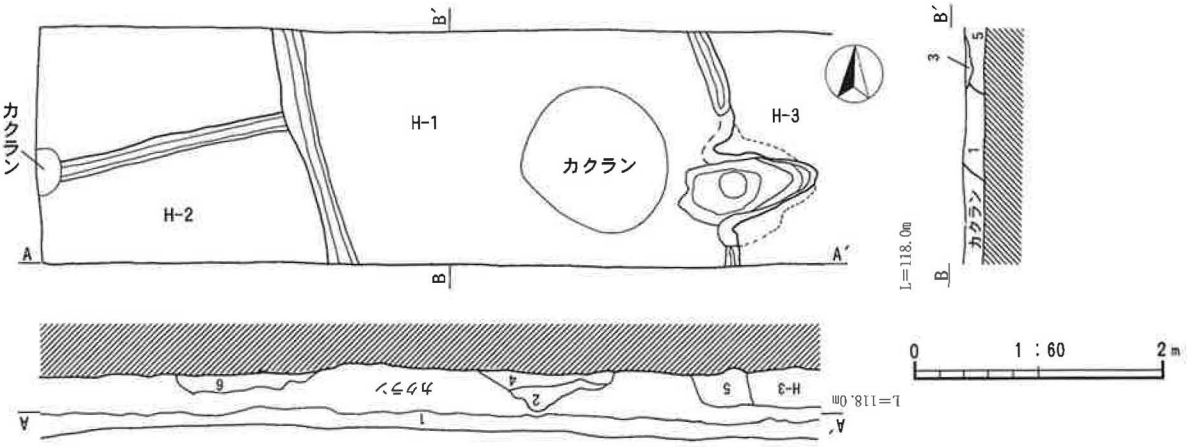
4トレンチ　H－３竈セクション
1　黒褐　As-Cを少量、粘土を極少量含む。
2　にぶい赤　粘土。細かな焼土を多く含む。
3　黒褐　As-C少量、焼土ブロック（φ５㎜）を極少量含む。
4　にぶい赤褐　粘土を多く含む。
5　にぶい褐　粘土を含むが４よりも粘土が少ない。
6　黒褐　As-Cを少量、焼土ブロック（φ５㎜程）を極少量含む。
7　暗褐　As-Cを少量、焼土ブロック（φ10㎜程）を少量含む。

4トレンチ　H－１、H－２セクション
1　表土
2　黒褐　As-C少量含む。砂層ブロック（φ５㎜）極少量含む。
3　黒褐　As-C少量含む。砂層ブロック（φ10㎜）極少量含む。
4　黒褐　As-Cを少量、砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
5　暗褐　As-Cを少量含む。
6　にぶい黄褐　As-C少量、粘土、砂層ブロック（φ10～20㎜）を少量含む。
7　黒褐　As-Cを少量含む。
8　黒褐　As-C少量含む。砂層ブロック（φ10㎜）極少量含む。
9　暗褐　As-C少量、砂層土を多く含む。
10　黒褐　As-C多く含む。
11　黒褐　As-C多く含む。砂層ブロック（φ５㎜）少量含む。

4トレンチ　H－４、H－５セクション
1　表土
2　暗褐　As-C少量、細かい砂層土を少量含む。
3　暗褐　As-Cを少量、細かい砂層土を少量含む。

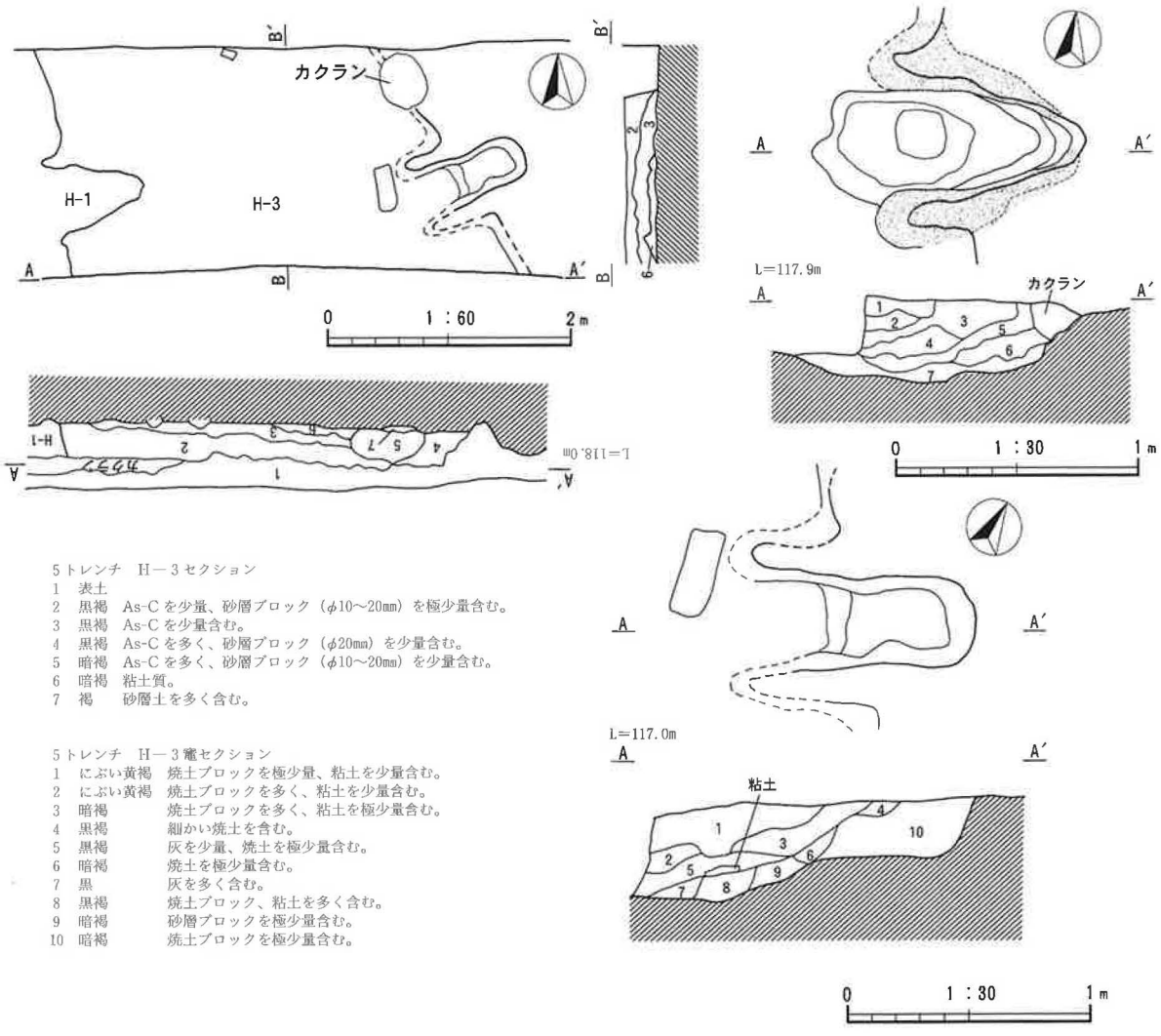
4トレンチ　W－１セクション
1　表土
2　西壁セクションNo.２と同じ。
3　黒褐　As-C、砂層ブロック（φ10㎜）を少量含む。
4　黒褐　As-Cを少量、砂層ブロック（φ10㎜）、小礫を極少量含む。
5　暗褐　砂層ブロック（φ10～30㎜）を少量含む。
6　黒褐　砂層ブロック（φ10～20㎜）、シルト質土ブロック（φ10～30㎜）を多く、小礫を少量含む。
7　黒褐　小礫極少量、砂層土を極少量含む。
8　黒褐　砂層ブロック（φ５～20㎜）を少量含む。
9　褐　細かい砂層土を多く含む。砂質。
10　黒褐　As-Cを極少量含む。砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
11　黒褐　砂層ブロック（φ10～20㎜）を極少量。底部に礫を含む。

Fig.12　４トレンチ各遺構



5トレンチ　H－1、H－2セクション
1　表土
2　暗褐　As-C を多く、砂層ブロック（φ5～10mm）を少量含む。
3　黒　　As-C を少量含む。
4　黒褐　As-C を極少量含む。
5　暗褐　As-C を多く、砂層ブロック（φ10～20mm）を極少量含む。
6　黒褐　As-C を極少量、砂層ブロック（φ5～30mm）を少量含む。

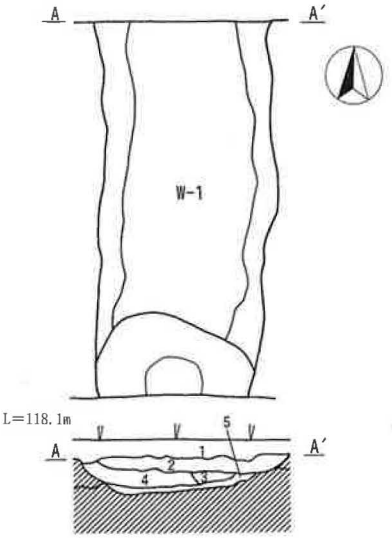
5トレンチ　H－1竈セクション
1　黒褐　　As-C 少量。
2　黒褐
3　黒褐　　焼土ブロック（φ10mm程）を極少量含む。
4　暗赤褐　焼土ブロック（φ10～30mm程）を少量含む。
5　黒　　焼土ブロック（φ10mm程）を少量含む。
6　暗赤褐　焼土ブロック（φ10～30mm程）を多く含む。
7　黒褐　　灰を少量、砂層ブロック（φ10mm）少量含む。



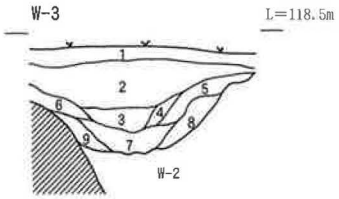
5トレンチ　H－3セクション
1　表土
2　黒褐　As-C を少量、砂層ブロック（φ10～20mm）を極少量含む。
3　黒褐　As-C を少量含む。
4　黒褐　As-C を多く、砂層ブロック（φ20mm）を少量含む。
5　暗褐　As-C を多く、砂層ブロック（φ10～20mm）を少量含む。
6　暗褐　粘土質。
7　褐　　砂層土を多く含む。

5トレンチ　H－3竈セクション
1　にぶい黄褐　焼土ブロックを極少量、粘土を少量含む。
2　にぶい黄褐　焼土ブロックを多く、粘土を少量含む。
3　暗褐　　焼土ブロックを多く、粘土を極少量含む。
4　黒褐　　細かい焼土を含む。
5　黒褐　　灰を少量、焼土を極少量含む。
6　暗褐　　焼土を極少量含む。
7　黒　　灰を多く含む。
8　黒褐　　焼土ブロック、粘土を多く含む。
9　暗褐　　砂層ブロックを極少量含む。
10　暗褐　　焼土ブロックを極少量含む。

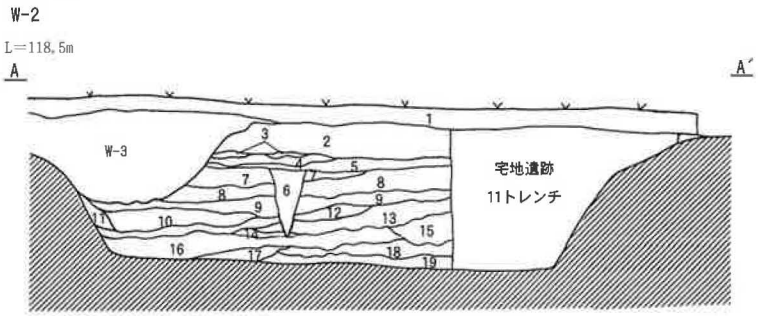
Fig.13　5トレンチ各遺構

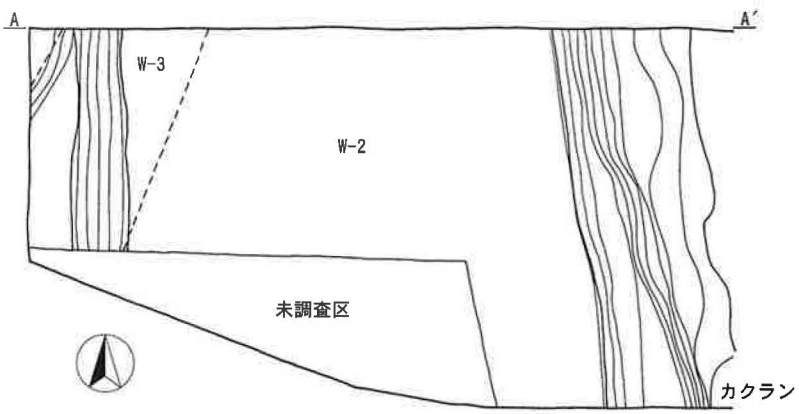


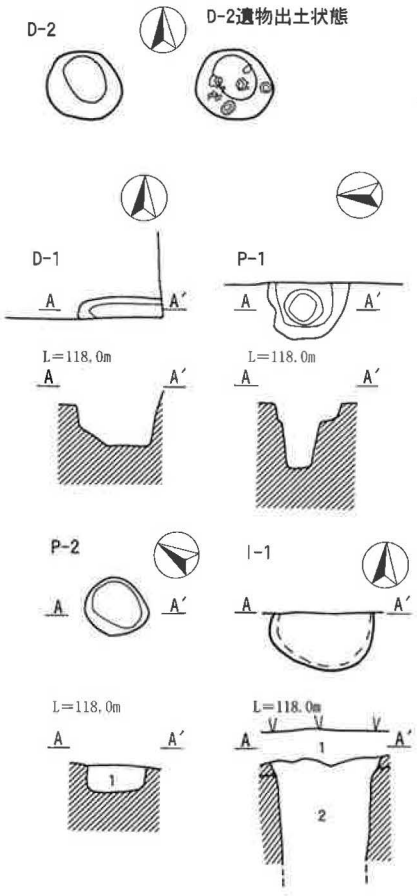
6トレンチ　W－１セクション
1　表土
2　暗褐　As-C を少量、As-B を多く含む。
3　黒褐　As-C を少量含む。
4　黒褐　As-C を少量、As-B を少量含む。



6トレンチ　W－３セクション
1　表土　As-B を少量含む。
2　暗褐　As-B を少量、As-C を極少量、砂層ブロック（φ10～30㎜）を多く含む。
3　黒褐　As-C を極少量含む。シルト質。
4　暗褐　砂層ブロック（φ10～20㎜）、砂礫を多く含む。
5　暗褐　砂礫を多く、As-B を少量、砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
6　暗褐　砂礫を少量、砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
7　暗褐　砂礫を多く、砂層ブロック（φ30㎜）を少量含む。
8　暗褐　砂礫を少量含む。やや砂質。
9　暗褐　砂礫を少量含む。







6トレンチ　P－２セクション
1　黒褐

6トレンチ　I－１セクション
1　表土
2　黒褐　砂層ブロック（φ10～20㎜）を多く含む。

6トレンチ　W－２セクション
1　表土　As-B を少量含む。
2　黒褐　As-C を少量、やや砂を含む。
3　褐　砂層土。ラミナが見られる。粒子細かい。
4　黒褐　As-C を少量、細かい砂を多く含む。
5　黒褐　As-C を多く含む。締まり強い。
6　黒褐　As-C を多く含む。
7　黒褐　As-C を少量、砂層ブロック（φ10～20㎜程）を極少量、細かい砂層土多く含む。
8　黒褐　As-C を少量、細かい砂層土を少量含む。
9　黒褐　As-C を少量、砂礫（φ５㎜）を多く含む。
10　褐　砂礫層（φ１㎜以下～30㎜）。
11　黒褐　As-C を極少量含む。
12　黒褐　As-C を少量。細かい砂礫を少量含む。
13　黒褐　As-C を少量。砂礫を少量含む。
14　黒褐　砂礫を少量含む。
15　黒褐　As-C を少量、砂層ブロック（φ10～20㎜）を極少量含む。
16　暗褐　砂層ブロック（φ10㎜）を極少量、砂礫を多く含む。
17　暗褐　砂層ブロック（φ10㎜）を極少量、砂礫を多く含む。
18　黒褐　As-C を少量、砂層ブロック（φ10～20㎜）を極少量、砂礫を多く含む。
19　暗褐　砂礫を多く含む。

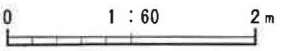
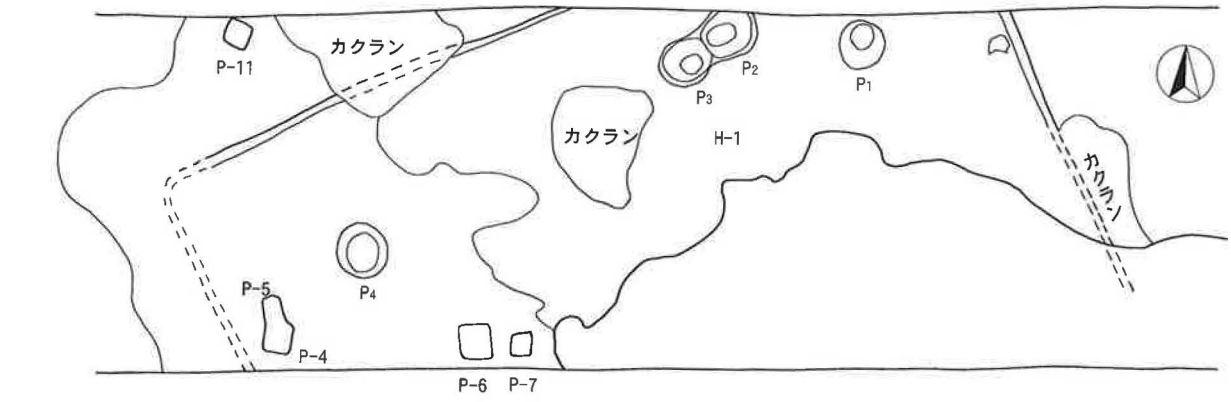
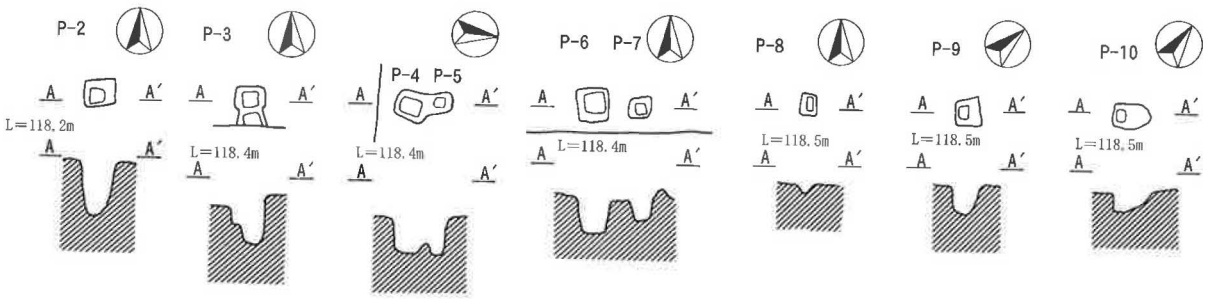
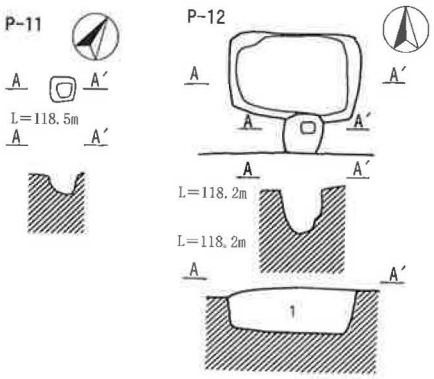


Fig.14　６トレンチ各遺構







7トレンチ　Ⅰ－1、2付近セクション
1　表土
2　暗褐　As-Cを少量、As-Bを少量、砂層ブロック（φ10㎜）を少量含む。
3　黒褐　砂層ブロック（φ10～20㎜）を少量含む。
4　黒褐　砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
5　黒褐　As-Cを極少量、砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
6　黒褐　やや砂質。砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
7　黒褐　砂層ブロック（φ10～20㎜）を少量含む。
8　黒褐　細かい砂層土を多く含む。
9　灰黄褐　砂層ブロック（φ10～50㎜）を少量含む。
10　灰黄褐　シルト質。
11　黒褐　砂層ブロック（φ10～20㎜）を多く含む。
12　灰黄褐　砂質。
13　褐　砂層土を多く含む。

7トレンチ　D－1セクション
1　暗褐　地山の砂礫（小礫）を多く含む。

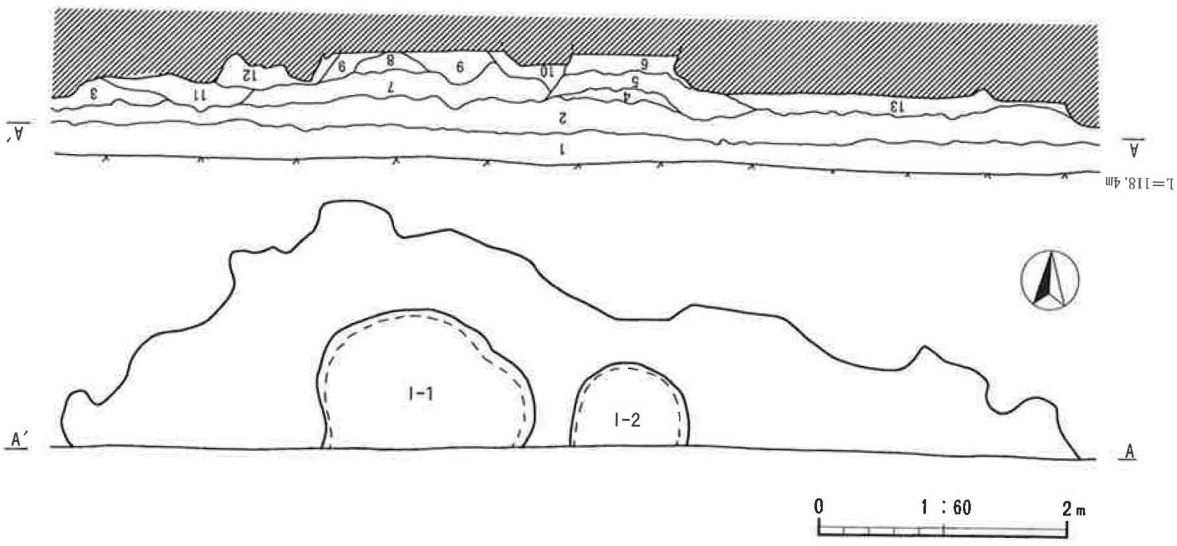


Fig.15　7トレンチ各遺構

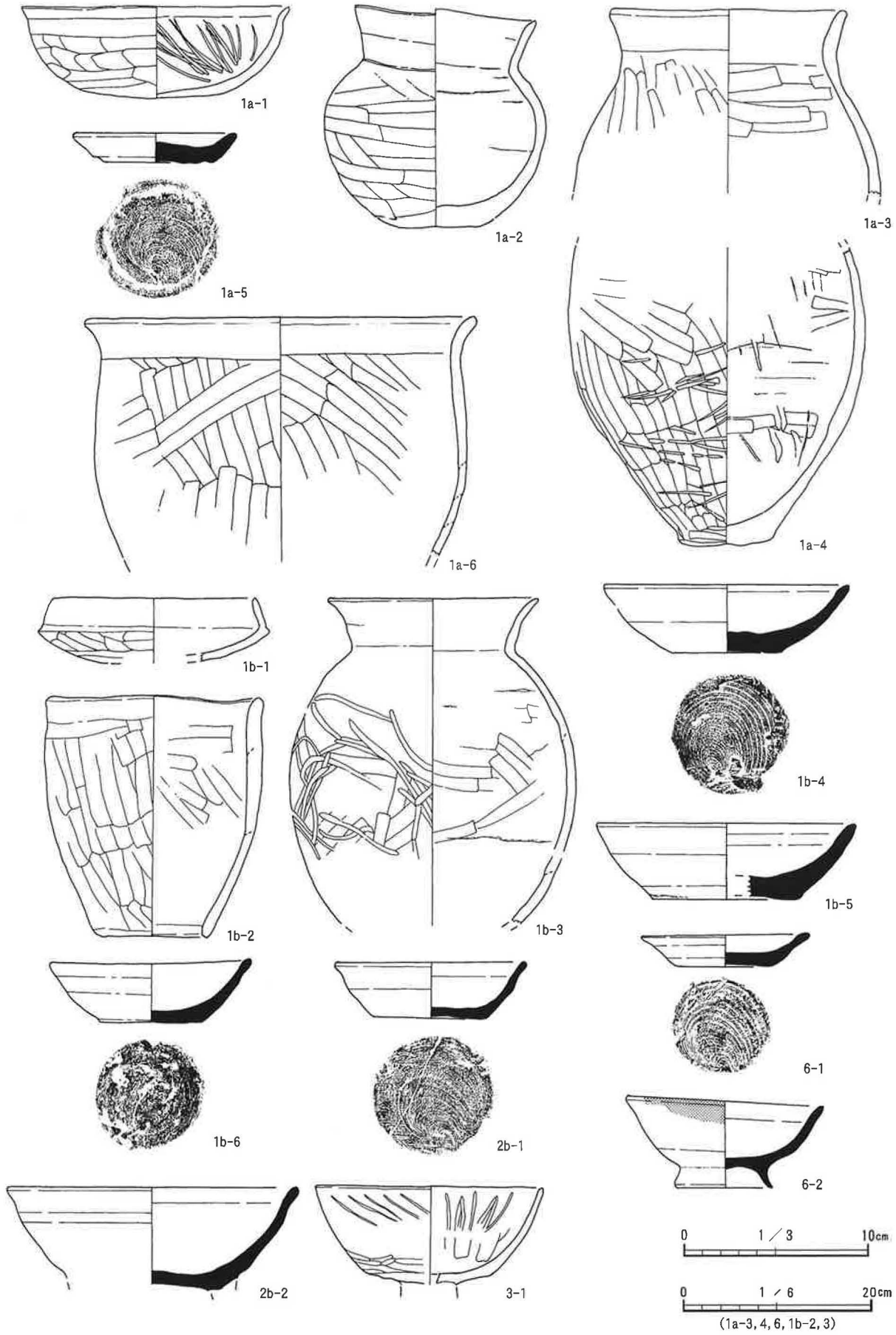


Fig.16　各トレンチ出土遺物

Tab. 3　土坑・ピット・風倒木痕　計測表

1 a・1 bトレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備　考
D－1	X218　Y154	72.0	72.0	16.0	円形	瓦片	
P－1	X218　Y155	28.0	28.0	36.0	円形		
P－2	X218　Y155	32.0	30.0	14.0	円形		
P－3	X216　Y154	62.0	(34.0)	28.0	円形	酸化焔焼成坏1	
O－1	X218　Y154・155	(170.0)	148.0	—	—		
O－2	X217・218　Y155	(200.0)	140.0	—	—		

2 bトレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備　考
O－1	X223・224　Y162	(200.0)	122.0	—	—		

3 トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備　考
D－1	X206　Y159	164.0	90.0	56.0	楕円形		
D－2	X205　Y158	66.0	44.0	72.0	円形		
P－1	X205　Y158	42.0	30.0	13.0	楕円形		
P－2	X204　Y158	54.0	41.0	18.0	楕円形		覆土に灰多し
O－1	X204・205　Y158	312.0	(176.0)	—	—		
O－2	X205　Y158・159	(122.0)	200.0	—	—		

4 トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備　考
O－1	X200・201　Y166	302.0	156.0	—	—		

6 トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備　考
D－1	X205　Y185	(66.0)	(16.0)	48.0	方形		
D－2	X202　Y185	62.0	54.0	12.0	円形	酸化焔焼成坏、同高台椀等10点	
P－1	X205　Y185	50.0	44.0	54.0	円形		
P－2	X204　Y185	48.0	46.0	22.0	円形		

7 トレンチ

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備　考
D－1	X187　Y170	102.0	70.0	36.0	方形		
P－1	X187　Y170	32.0	30.0	34.0	方形		
P－2	X188　Y170	35.0	22.0	42.0	方形		
P－3	X188　Y170	30.0	24.0	40.0	方形		
P－4	X184　Y170	28.0	22.0	34.0	方形		
P－5	X184　Y170	20.0	16.0	30.0	方形		
P－6	X184　Y170	26.0	24.0	30.0	方形		
P－7	X184　Y170	18.0	16.0	20.0	方形		
P－8	X188　Y170	16.0	14.0	10.0	方形		
P－9	X188　Y170	24.0	20.0	24.0	方形		
P－10	X188　Y170	30.0	20.0	16.0	方形		
P－11	X184　Y170	22.0	20.0	18.0	方形		

Tab.4　遺物観察表

1aトレンチ

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1a-1	H－1 床直	土師器 坏	① 14.3　② 4.9 ③ —	①細粒　②良好 ③明赤褐　④ほぼ完形	外面は口縁部が横撫で、体部が撫でのみで、底部は篦削りで丸底に整形する。内面は横撫でで、暗文状の磨きをもつ。	2	
1a-2	H－1 覆土	土師器 小甕	① 9.7　② 11.8 ③ 4.6	①細粒　②良好 ③にぶい赤褐　④完形	外面は口縁部が横撫で、胴部から底部にかけて篦削り、胴部上半部はさらに撫でによる整形。内面は口縁部から胴部まで横撫でによる整形。		貯蔵穴付近で出土
1a-3	II　1 覆土	土師器 甕	① 16.6　② — ③ —	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④口縁部	外面は口縁部が横撫で、胴部は縦位の篦削りによる整形。内面は口縁部から胴部まで横撫でによる整形。	1	
1a-4	H－1 覆土	土師器 甕	① —　②(21.3) ③ 7.0	①細粒　②良好 ③明黄褐　④1/2	外面は胴部は縦位の篦削りで、底部は調整痕なし。内面は横位の篦削りによる整形。		貯蔵穴付近で出土
1a-5	H－2 床直	須恵器 坏	①[8.7]　② 1.6 ③ 5.9	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④3/4	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。	1	酸化焔
1a-6	H－2 床直	土師器 土釜	①[29.0]　②(16.9) ③ —	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④1/6	外面は口縁部が横撫で、胴部は篦削り後に斜位の撫でによる整形。内面は口縁部が横撫で、体部が撫でによる整形。	2	

1bトレンチ

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1b-1	H－5 床直	土師器 坏	①[10.8]　② (2.9) ③ —	①細粒　②良好 ③黒　④1/5	外面は口縁部が横撫で、体部が篦削り。内面は口縁部から体部にかけて横撫で。内面に黒色の付着部がある。	5	
1b-2	H－5 床直	土師器 甑	①[15.6]　② 12.7 ③[7.6]	①細粒　②良好 ③にぶい黄褐　④1/3	外面は口縁部が横撫で、胴部が縦位の篦削り。内面は横撫でにより整形する。蒸気口は単口で、蒸気口縁部は篦削りにより整形される。	1 覆土	
1b-3	H－6 竈	土師器 甕	①[15.0]　②(23.1) ③ —	①細粒②良好 ③橙　④2/3	外面は口縁部が横撫で、胴部が篦削りの後に撫でにより整形する。内面は口縁部は撫で、胴部も簡易な撫でで調整し、輪積み痕を多く残す。	5・6 9～11	
1b-4	H－7 覆土	須恵器 坏	①[13.8]　② 4.0 ③ [8.2]	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④2/3	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。外面の一部に煤が付着している。		酸化焔
1b-5	H－7 覆土	須恵器 坏	①[13.0]　② 3.6 ③ 6.0	①中粒　②良好 ③にぶい黄橙　④3/5	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。		酸化焔
1b-6	P－3 覆土	須恵器 坏	① 10.9　② 3.3 ③ 5.6	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④ほぼ完形	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。	1	酸化焔

2bトレンチ

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
2b-1	H－1 覆土	須恵器 坏	①[10.3]　② 2.9 ③ 5.9	①細粒　②良好 ③明黄褐　④2/3	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。	13 覆土	酸化焔
2b-2	H－2 覆土	須恵器 高台椀	① 15.6　② — ③ —	①細粒　②良好 ③にぶい黄褐　④1/2	内面・外面ともに轆轤整形。高台部は貼り付け後に整形。		酸化焔

3トレンチ

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
3-1	H－2	土師器 高坏	①[12.0]　② — ③ —	①細粒　②良好 ③黄橙　④坏部1/4	内面・外面ともに磨きにより整形。	1	

6トレンチ

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
6-1	D－2 覆土	須恵器 坏	① 8.9　② 1.9 ③ 4.5	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④完形	内面・外面ともに轆轤整形。底部は回転糸切り。	5	酸化焔
6-2	D－2 覆土	須恵器 高台椀	① 10.4　② 4.6 ③ 5.1	①細粒　②良好 ③灰白　④ほぼ完形	内面・外面ともに轆轤整形。高台部は貼り付け後に整形。 内面は使用により煤が付着し、特に口縁部の一部に顕著。	10	酸化焔

Ⅶ　ま と め

1　成果について

平成23年度の上野国府等範囲内容確認調査について、以下のようにまとめたい。

(1)　推定国庁Ａ案について

上野国府の国庁の位置・範囲を確認するために、推定国庁Ａ案の範囲内とその周辺９ヶ所にトレンチを設定し調査を行ったが、掘立柱建物等の国府関連遺構は検出されなかった。また、遺物についても国府に関連する遺物の出土はなかった。検出された遺構については住居跡が主体であり、またその時期については古墳時代後期（６世紀前半から後半）の住居跡と平安時代（11世紀前半頃）を主体としている。推定国庁Ａ案の範囲内で実施された元総社蒼海土地区画整理事業に伴う発掘調査は過去３回実施されているが（元総社蒼海遺跡群（14）・(31)・(38)）、その際にも同時期の住居が検出されている。このことから、これらの時期には集落が存在したことが考えられる。

それでは、推定国庁Ａ案をどのように考えるかであるが、それについては４トレンチのW－１について述べる必要がある。W－１はその形状等から中世に造られたものと推定されるが、その北の延長部分は元総社蒼海遺跡群（31）W－５として検出されている。この溝のラインと「宅地」等の小字の境界は一致しており、さらに元総社蒼海遺跡群（31）及び元総社蒼海遺跡群（38）で検出された東西方向の大溝のラインについても、この小字境と一致している。このことから、この小字境は中世の溝によって区画された地割を反映していると考えられる。

(2)　６トレンチのW－２号溝跡について

６トレンチにおいて検出されたW－２については、やや北北西に振れる走行で、現状で幅約５ｍ、深さ約２ｍの規模で断面が逆台形を呈している。この溝の北への延長部分は６トレンチの北側に位置する蒼海遺跡群（14）の５トレンチでも確認されている。この溝の時期については、トレンチの土層堆積状況から上部が削られていることが考えられるが、覆土の最上部に浅間Ｂ軽石が含まれていたことから、その降下時にはかなり埋没した状態であったことが考えられる。また、覆土中に硬化面をもつことから、道路として機能していた時期も考えられる。

このような大溝は、閑泉樋遺跡、閑泉明神北遺跡、元総社明神遺跡Ⅷ、寺田遺跡、元総社蒼海遺跡群(2)・(3)・(7)・(9)・(14)・(36) など元総社町周辺で実施された発掘調査で確認されている。これらの大溝は、浅間Ｂ軽石降下以前に造られている点や、蒼海地区で一般的に確認される溝と比較して大規模である点など、共通した性格を持っている。これらの溝は、その時期や規模からすでに国府域を考える上で重要な要素として考えられる。今回の調査によって、さらにその要素を増やした形となったが、引き続きこれら大溝の性格についての総合的な検証が必要である。

2　今後の課題

今年度は初年度の調査であったが、成果としては国府域を考える上で重要な要素となる溝が検出できたことが大きな成果であった。既に確認されている大溝もさることながら、同時期に存在したそれよりも小規模の溝も含めて分析を進める必要があろう。

また、今年度の調査は、住宅密集地での調査であるため、面積的に小規模な発掘調査とならざるを得ない状況であった。今後、効率的に成果を上げるためには、十分な検討を重ねた上で調査地点の選定することや、調査面積の拡大等を検討する必要があろう。

【主要参考文献】

都木丑作	1927	「國府政廳の跡に就て」『上毛及上毛人』120
近藤義雄	1954	「上野国府について」『上毛史学』5
前橋市	1971	『前橋市史』1
上野国国分寺遺跡を守る会	1971	『上野国国分寺遺跡』
金坂清則	1974	「上野国府とその付近の東山道、および群馬、佐位郡家について」『歴史地理学紀要』16
山崎　一	1978	『群馬県古城塁址の研究』上巻
矢野敬一	1980	『上野国府と国分寺の歴史』群馬町立国府小学校
近藤義雄	1981ａ	「上野国府をめぐる古代交通路」『信濃』33 2
近藤義雄	1981ｂ	「上野国府付近交通路の変遷」『信濃』33-3
前原　豊	1983	「閑泉樋遺跡」『文化財調査報告書』13　前橋市教育委員会
木津博明	1988	『上野国国分僧寺・尼寺中間地域』3　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
阿部義平	1989	『官衙』ニューサイエンス社
前原　豊・井上敏夫	1990	『元総社明神遺跡Ⅷ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
群馬県	1991	『群馬県史』通史編２
藤巻幸男	1996	『元総社寺田遺跡Ⅲ』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
木津博明	1999	「国府に地割はあったか」『幻の国府を掘る』
鈴木雅浩・髙橋一彦	2000	『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
深澤靖幸	2002	「国庁跡に建てられた社－ミヤノメ神社小考－」『府中市郷土の森博物館紀要』15
川原秀夫	2005	「古代上野国の国府及び郡・郷に関する基礎的考察」『ぐんま史料研究』23
佐藤　信	2007	『古代の地方官衙と社会』山川出版社
村上春樹	2008	『物語の舞台を歩く　将門記』山川出版社
	2011	『解明！古代群馬の中心　上野国府跡』パンフレット　前橋市教育委員会
川原嘉久治	2011	『上野国府跡』1
前橋市教育委員会　文化財保護課編	2012	「上野国府に関する既出資料の集成について」『年報』42
前原　豊	2012	「まぼろしの上野国府を掘る」『ぐんま地域文化』39
青木裕美　他	2012	『戦国史』上毛新聞社

第２章　上野国府に関連する既出資料の集成について

平成23年度から上野国府の調査を進めるにあたって既出資料の集成作業を行う必要が生じた。対象とした区域は、前橋市元総社町を中心とし、総社町総社、大友町、問屋町、鳥羽町、高崎市中尾町、稲荷台町、塚田町、引間町、東国分町の一部とした。具体的には、東西は関越自動車道路から産業道路まで、南北は北を元総社北小学校・元総社中学校付近、南は高前バイパスとした。主な遺跡としては、元総社明神遺跡、元総社蒼海遺跡群、寺田遺跡、元総社寺田遺跡、元総社西川・塚田中原遺跡、鳥羽遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、天神遺跡、弥勒遺跡、弥勒Ⅱ遺跡、閑泉樋遺跡、元総社小校庭遺跡等をあげることができる。

Ⅰ　これまでの調査遺跡

⑴　尾崎研究室の国府調査

かつて上野国府に関する発掘調査が、昭和36年から昭和43年度までの９次にわたって実施された。その概要は以下のとおりである。

１次　昭和36年11月　元総社小学校校庭　住居跡
２次　昭和37年８月　元総社小学校校庭　２×５間の掘立柱建物跡
３次　昭和38年８月　元総社小学校校庭　２×４間の掘立柱建物跡
４次　昭和39年８月　元総社小学校校庭　特になし
５次　昭和40年７～８月　大友町372ほか　ピット、溝
６次　昭和41年７～８月　大友町雲雀街道　掘立柱建物跡、大溝
７次　昭和41年９～10月　元総社小学校校舎跡　住居跡
８次　昭和42年８～12月　大友町周辺　住居跡
９次　昭和43年８～12月　昌楽寺周辺　住居跡

このときの調査では、国府そのものの解明はできなかったものの、元総社小学校校庭から発見された２×４間、２×５間の掘立柱建物跡は柱穴規模やその形状から国府の施設に関連する建物と考えられる。

⑵　閑泉樋遺跡の大溝

昭和58年２月に閑泉樋遺跡の調査でほぼ東西方向に走る大溝が調査された。この大溝の覆土上部に浅間Ｂ軽石層純層の堆積が見られ、出土した土器は９世紀後半のものが主体を占めていた。この大溝は、木津博明氏らによって、国府の北限を画するものといった解釈がなされ、国府域を確定する重要な遺構となっている。

⑶　元総社明神遺跡の調査

また、昭和57年から平成８年まで13年間に亘って元総社明神地区の区画整理に伴う発掘調査が実施された。この調査では、多くの住居跡が検出されたことから集落エリアであることが判明した。しかし、その中で南北方向の大溝が都合５カ所の調査区から南北に直線に並んだ状態で発見された。閑泉樋遺跡の大溝に比較するとやや小規模なものとなる。

⑷　牛池川改修に伴う調査

河川改修に伴う調査が昭和63年から開始された。沖積地部分の調査のため水田跡の生産遺構や植物や動物遺存体の出土が期待された。その期待に沿うように元総社明神遺跡Ⅷの調査では人形が３点発見された。その後に調査された元総社寺田遺跡でも人形５点のほか「国」、「厨」、「国厨」、「曹司」と書かれた墨書土器がみつかっている。

⑸　関越自動車道の調査

国分寺を東西に２分する関越自動車道路の建設に伴って発掘調査が昭和50年代から開始された。中尾遺跡、鳥

羽遺跡、国分寺中間地域遺跡など大規模集落遺跡が次々に解明された。この中で、特筆されるのは鳥羽遺跡の神社遺構、鍛冶工房遺構であろう。その他、国府や国分寺に関連する遺物も多数出土した。

⑹　**元総社蒼海遺跡群の調査**

元総社蒼海地区に区画整理に伴う発掘調査が平成11年から開始され現在も継続中である。現在までの調査では住居跡が中心を占めている。その中で、元総社公民館用地から３×10間の掘立柱建物跡が検出されている。また、国分尼寺の西側から「大館」、「少」と書かれた墨書土器が発見されている。

II　既出資料について

以上のように昭和36年から開始された国府調査であるが、過去には宮鍋神社の周辺を中心に方８町や方６町の区域が国府域と推定された時期があった。これについては山口県防府市の周防国府が方８町とされた論考に影響を受けたものと考えられる。しかし、周防国府の方８町は後の研究で、中世に形成されたものであることが判明したため、現在では、遺存地割から推測する方法は採られていない。

国府の遺跡群とその機能は、佐藤信氏によれば次のように分類される。

①儀礼…国庁、国司館、②財政…正倉院、③宗教・祭祀…国府付属寺院、律令的祭祀（人形など水辺の祭祀）、④国府内神社、国内諸社を勧請した総社、⑤文書機能…曹司、木簡、⑥給食…国厨、国司館、⑦手工業編成…官営工房、⑧交通…陸上交通（東山道駅路国府ルート）、水上交通（河川）があげられているため、これも加味しながら今までに検出されている遺構、遺物に若干の検討を加えてみたい。

⑴　**工房エリア**…鳥羽遺跡の調査では長さ20mを超える長方形の鍛冶工房遺構が６基発見されている。長方形の竪穴建物の中央に２列に複数の炉を備える。竈を造りつけていないことから鍛冶専用施設である。カナクソやフイゴ、未製品と思われる鉄が出土しており、８世紀前半から中葉にかけて稼動したものと思われる。

⑵　**神社遺構**…鳥羽遺跡では鍛冶工房跡に近接する区域から神社遺構が発見されている。武蔵国府でも同様な神社遺構が発見されている。北西の方位は、元来の鬼門とされ、この方位に神を祀るのである。平安時代の記録書である『日本三代実録』を見ても、都にある幾つかの官庁に戌亥隅神が祀られていた。武蔵国府では、この遺構が国府を守護する社であった可能性は十分にあると考えている。

⑶　**国司の居宅**…国府のマチは広大で、場所によっては色々な機能を持ち、様々な施設があったはずである。その中には都から赴任する国司の居宅すなわち館もあったのである。国司の定員は国の等級によって差がある。上野国の場合は十四郡を管轄する大国であったから、守（かみ）を筆頭に介（すけ）１名、掾（じょう）２名、目（さかん）２名という構成で、これに加えて史生（ししょう）という書記官３名も都から派遣されていた。それぞれが館を構えて、移動もあるから営まれた国司の館は相当数にのぼる。こうした中で、現在のところ、国司の館の存在を示す資料が見つかっている。「大館」と書かれた８世紀前半の墨書土器であり、国分尼寺の西側から発見されたものである。「大館」は国府の中でも最も大きい館の意味である。したがって国司の筆頭である守の館を指すものであろう。残念ながらこの地区から館と思われる掘立柱建物跡はみつかっていない。

⑷　**官衙エリア**…元総社小学校校庭から発見された掘立柱建物跡は近接した場所から「曹司」といった墨書土器が発見されていることから官衙エリアの存在が考えられる。

⑸　**祭祀エリア**…元総社明神遺跡から人形３点、元総社寺田遺跡から人形５点と計８点の木製人形が牛池川の河道から発見された。いずれも1108年降下の浅間Ｂ軽石層に覆われていた。人形は牛池川の調査では、これより北の調査区からは全く発見されないことから、総社神社あたりで儀式がなされ、川に流されたものと考えられる。都から伝えられた律令祭祀である。

⑹　**高級陶磁器などを出土するエリア**…鍛冶工房跡と神社に隣接するあたり一帯からは、緑釉陶器、白磁、青磁、陶硯、銅椀、腰帯などが住居跡から多数出土している。天神遺跡や弥勒遺跡、弥勒II遺跡などがあげられる。

⑺　**集落エリア**…元総社蒼海遺跡群の調査結果から集落エリア①とした。時期的には古墳時代から平安時代までの集落が展開している。今後時期別の住居分布の検討が必要である。元総社明神遺跡についても同様に集落エリアが展開されるため集落エリア②とした。

⑻　**大溝**…大溝については断面形は上が広く、下が狭い台形である。閑泉樋遺跡の大溝①は東西溝、元総社明神遺跡の大溝②は南北、関越自動車道路沿いの大溝③は南北、国庁推定Ａ案付近の大溝④、その南西に斜め方向の大溝⑤の５カ所が存在する。かつては国府を画する大溝と認識されたが、再度検討を必要としよう。

⑼　**東山道駅路国府ルート**…東山道駅路国府ルートの存在も見過ごせない。その建設時期は９世紀後半ともいわれているが、この官道の開削によって陸上交通の要衝となった。

⑽　**日高道**…国庁想定区域から一直線に伸びる条里の基軸といわれている通称「日高道」が存在する。東山道駅路と日高道の交点の北側には約120m四方で周囲に堀が巡らされ、２区画が並置する。この地点を木下良氏は群馬駅家を想定している。日高道は横倉興一氏によれば七世紀末に施行されたことが考えられている。

⑾　元総社蒼海遺跡群の調査ではすでに奈良・平安時代の住居跡が1300軒調査されている。これらの住居跡を四半世紀毎に時期別に分類して分布図を作成し分析を進める必要がある。さらに掘立柱建物跡や鍛冶遺構、道路跡、井戸跡、溝跡、氷室遺構なども集成し分析を進めていく。

⑿　官衙遺跡には、一般集落と異なるものとして墨書土器、木製人形、斎串、金属製品、畿内系暗紋土器、陶硯、須恵器、腰帯類、陶磁器類、銅椀等の出土点数の多さがあげられる。今回の集成の結果からみると一般集落を遥かに超える点数が出土しており、この付近に国府が設置されたことを補強する材料となっている。今回、集成資料の一部を参考に掲載しておいた。

III　国庁推定案について

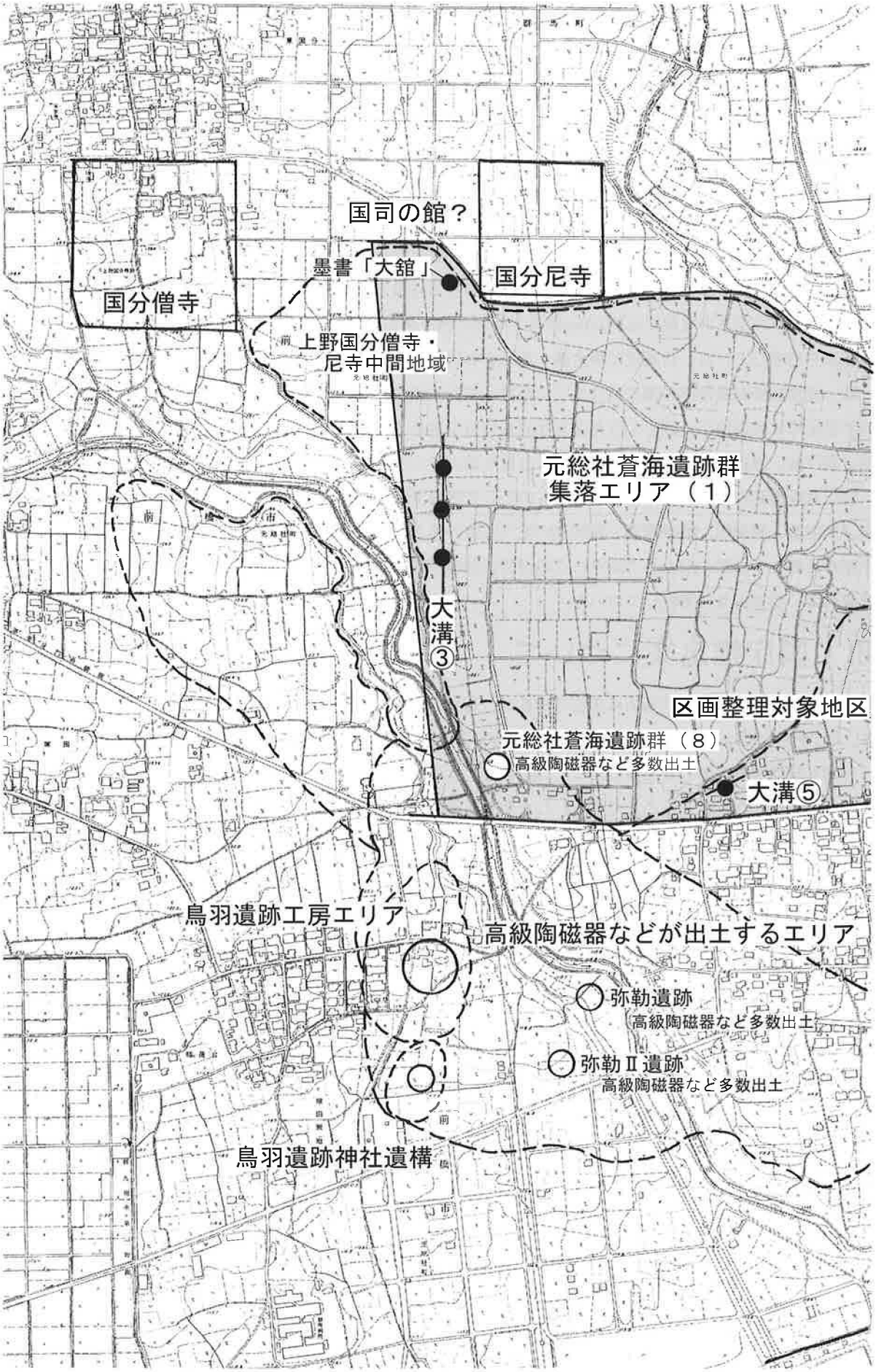
すでに区画整理地内には場所は未定であるが、蒼海中央公園用地として約11,000㎡の面積が割り当てられている。この予定している公園用地については主管課である区画整理第二課より本課に以下の要望が寄せられている。「一刻も早く国府の中心地を探し当てていただき、その場所を公園として決定し、活用を図りたいため、早急な回答をお願いしたい」とのことである。したがって区画整理地内での国府の検出を優先して行っていく必要があるため、平成19年５月に文化財保護課から区画整理第二課宛てに『国庁推定案』を提出した（文化財保護課『年報38』参照）。この推定案の策定にあたっては、①地形の分析…中心施設が設置できる100m四方を超えるような広い平坦な場所、②古い地図の分析…耕地図や地租改正図などにみられる地境や区画、③宮鍋神社、御霊神社（学校院若御子明神）、庁ヤ、長谷川などの地名との関連、④中世蒼海城の地割り等も加味して、Ａ案からＤ案までの４案を策定した。Ａ案からＤ案までの順番については、特に優位性を持たせてはいない。

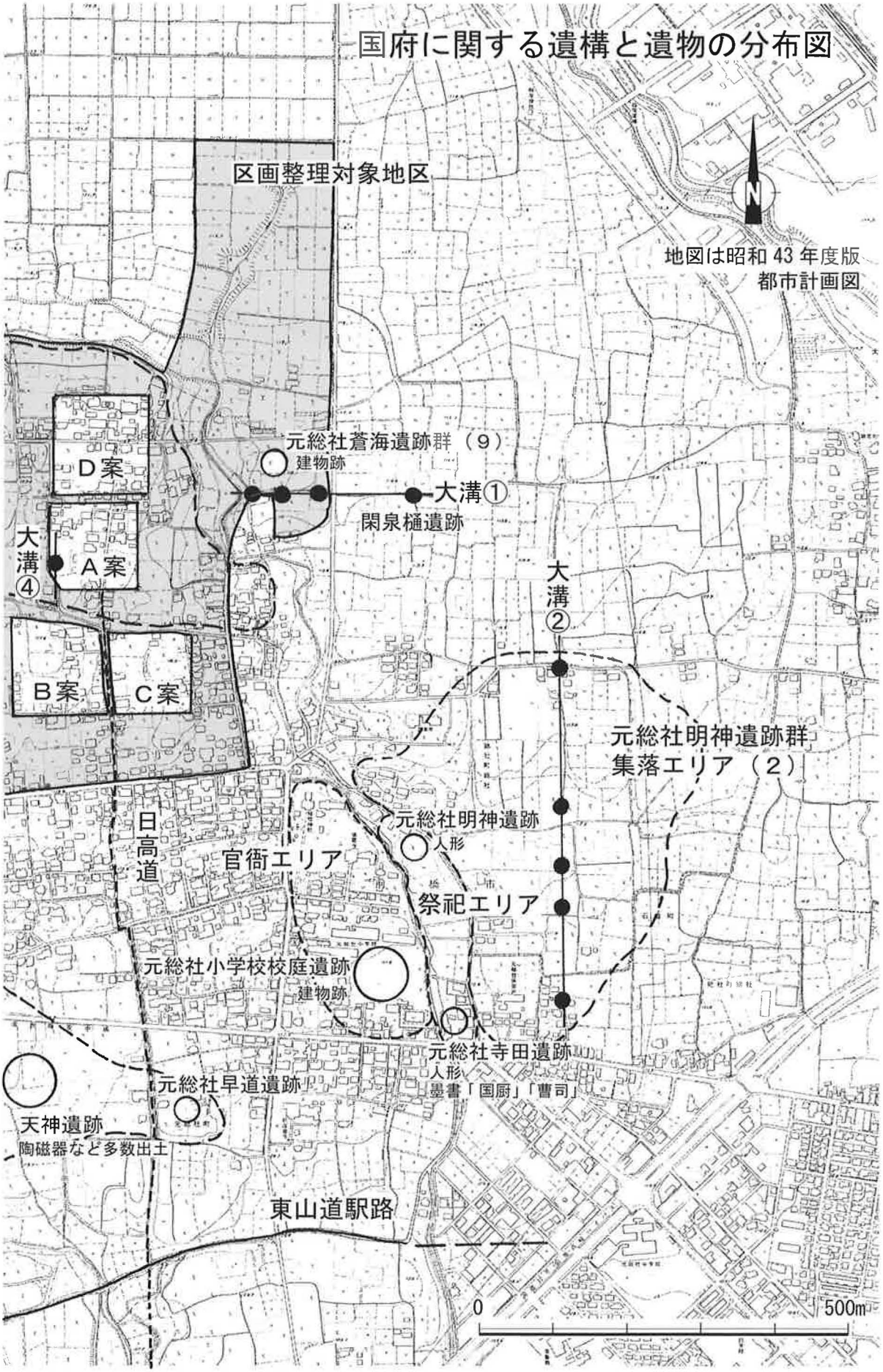
今回の国府調査では、区画整理地内について緊急性が高いため優先して調査を行って行きたいと考えている。ただし、対象とした区域の全体にも常に目を配っていくことが肝要と思われる。

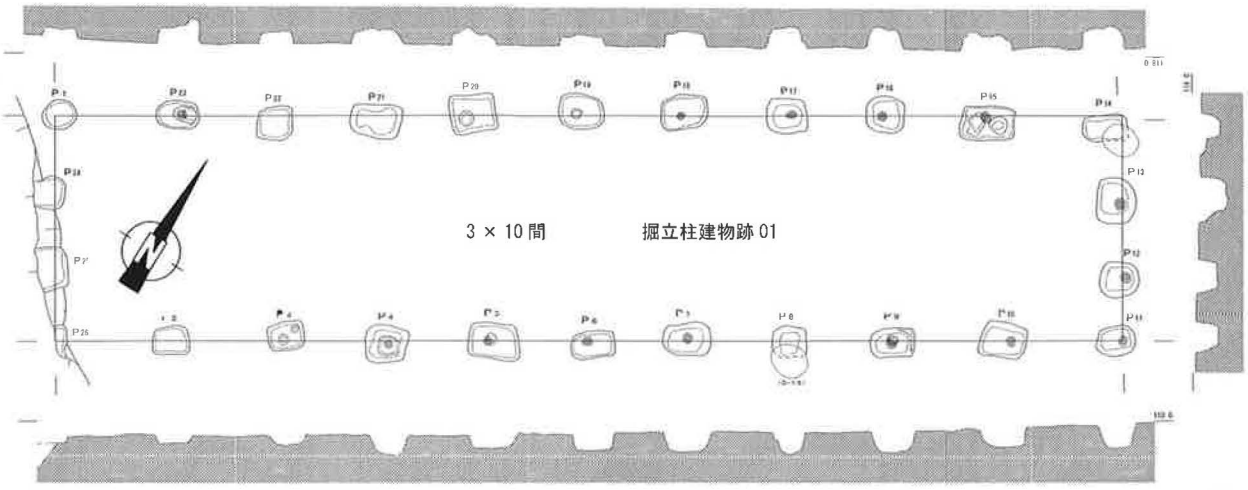
今後、継続した範囲確認調査の実施と既出の資料の分析を踏まえながら、上野国府の位置、内容、構造等について一日も早く解明して行きたいと考える。

○参考文献

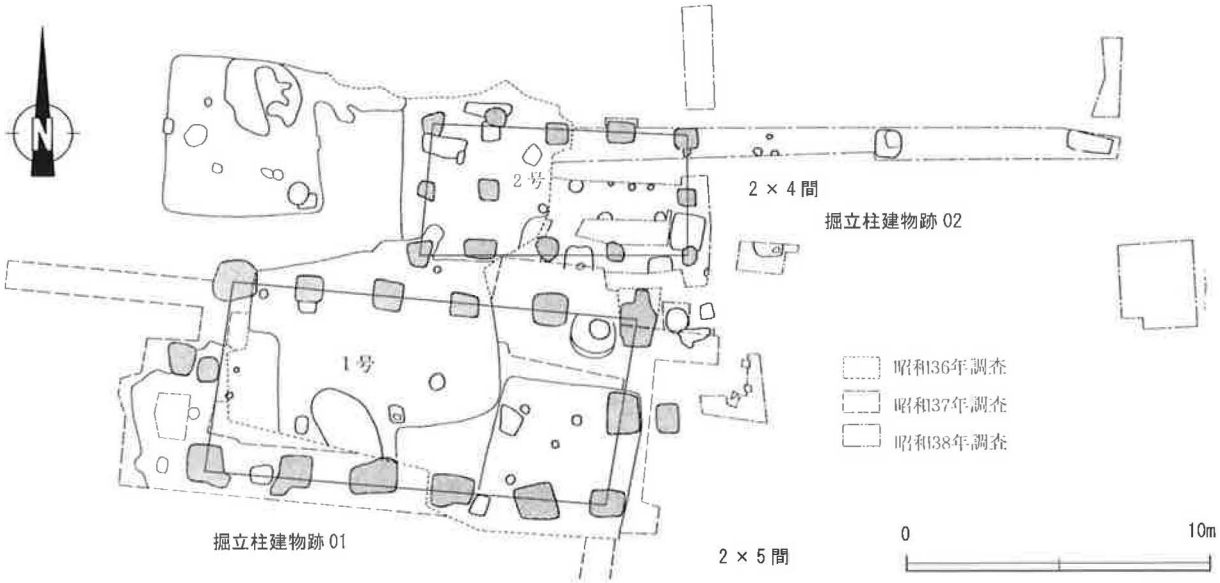
1983　前原　豊「閑泉樋遺跡」『年報13』前橋市教育委員会
1983～1997　岸田治男ほか『元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
1986～1992　綿貫邦夫ほか『鳥羽遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
1986　松島榮治「元総社小校庭遺跡」『群馬県史通史編２』
1987　新保一美ほか『天神遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
1987～1992　木津博明ほか『上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡(1)～(8)』群馬県埋蔵文化財調査事業団
1987　金子正人ほか『寺田遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
1990　新保一美ほか『弥勒遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
1993～1996　藤巻幸男ほか『元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ』群馬県埋蔵文化財調査事業団
2000～2005　斎木一敏ほか　元総社蒼海遺跡群①～⑬　前埋文・前橋市教育委員会
2003　井川達雄『元総社西川・塚田中原遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
2006～2012　近藤雅順ほか『元総社蒼海遺跡群(1)から(36)』前埋文・前橋市教育委員会
2006　前原　豊「弥勒Ⅱ遺跡」『年報36』前橋市教育委員会


国司の館？
墨書「大舘」
国分尼寺
国分僧寺
上野国分僧寺・
尼寺中間地域
元総社蒼海遺跡群
集落エリア（１）
大溝③
区画整理対象地区
元総社蒼海遺跡群（８）
高級陶磁器など多数出土
大溝⑤
鳥羽遺跡工房エリア
高級陶磁器などが出土するエリア
弥勒遺跡
高級陶磁器など多数出土
弥勒Ⅱ遺跡
高級陶磁器など多数出土
鳥羽遺跡神社遺構

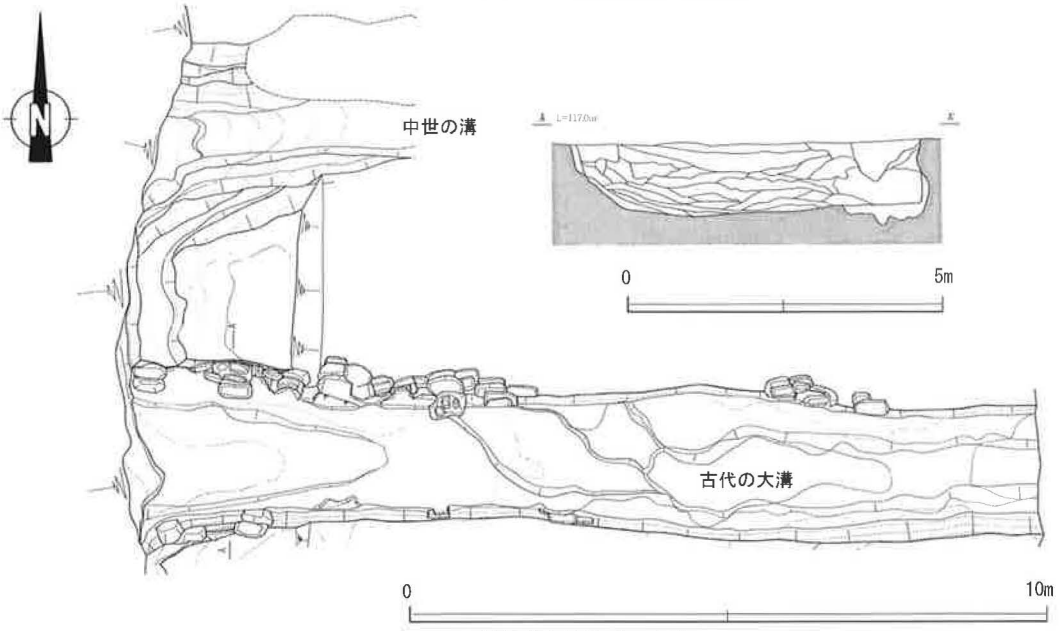

国府に関する遺構と遺物の分布図
区画整理対象地区
N
地図は昭和 43 年度版
都市計画図
元総社蒼海遺跡群（９）
建物跡
大溝①
閑泉樋遺跡
D案
A案
B案
C案
大溝④
大溝②
元総社明神遺跡群
集落エリア（２）
元総社明神遺跡
人形
日高道
官衙エリア
祭祀エリア
元総社小学校校庭遺跡
建物跡
元総社寺田遺跡
人形
墨書「国厨」「曹司」
元総社早道遺跡
天神遺跡
陶磁器など多数出土
東山道駅路
0
500m



1　元総社蒼海遺跡群の建物跡

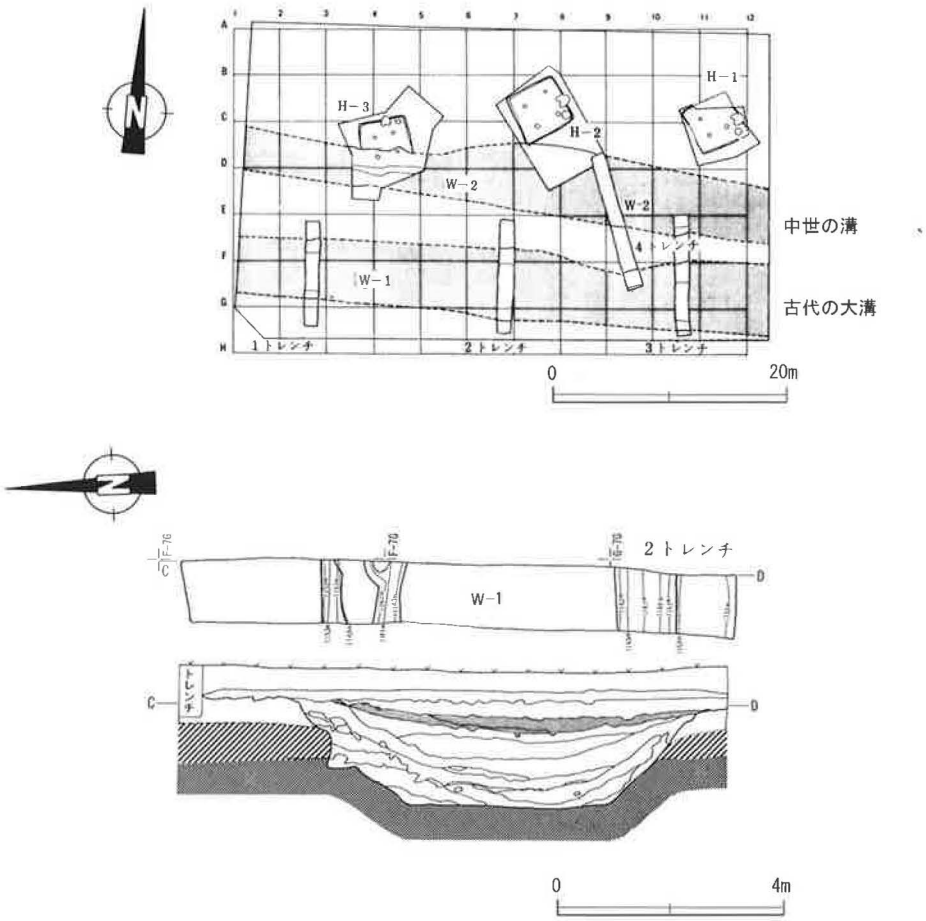


2　元総社小学校校庭遺跡の建物跡

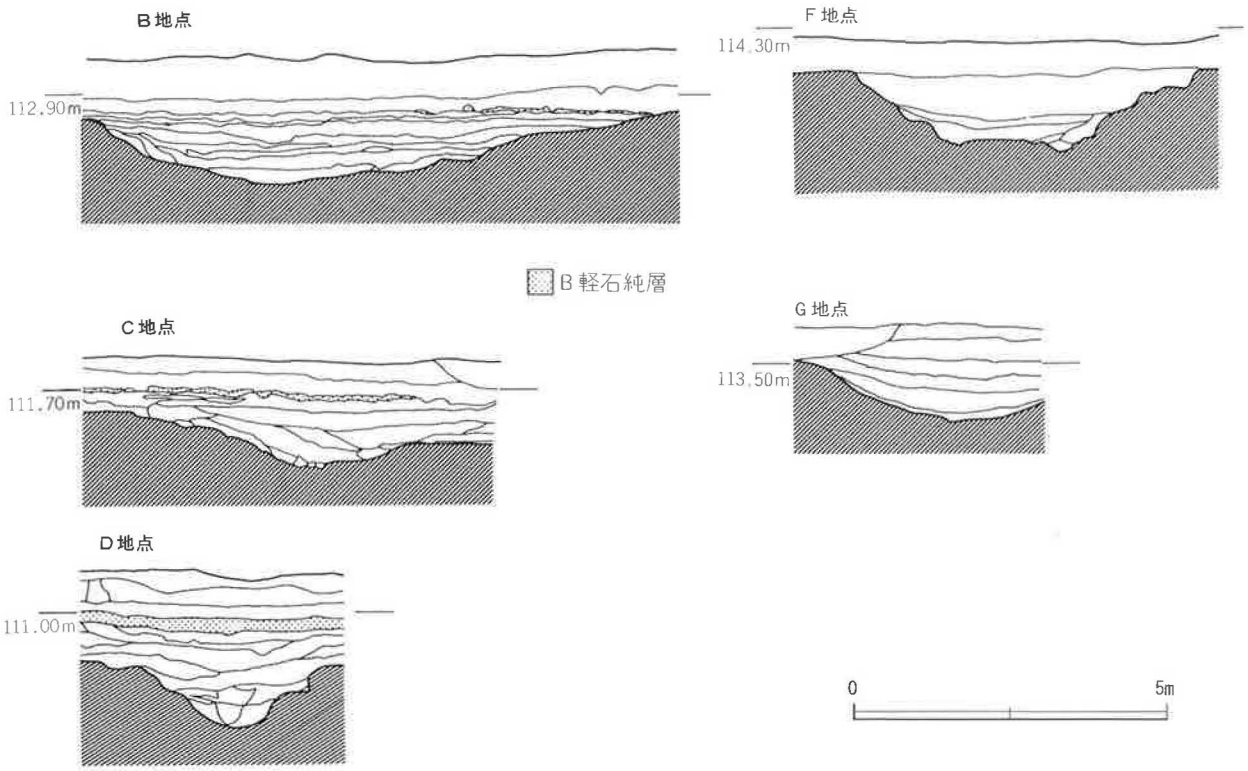


3　元総社蒼海遺跡群の大溝

Fig.18　推定上野国府周辺の遺構(1)

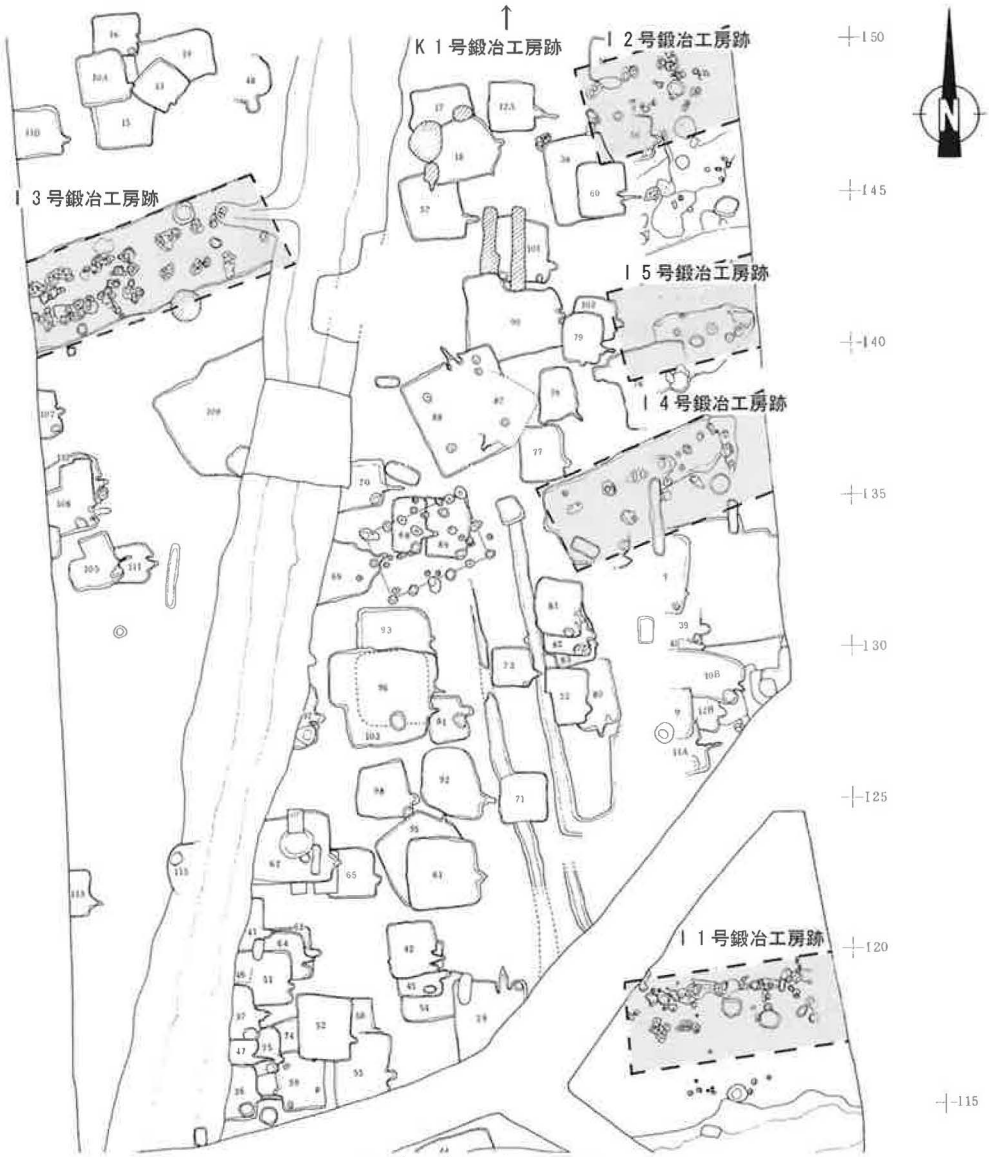


4　閑泉樋遺跡の東西方向の大溝

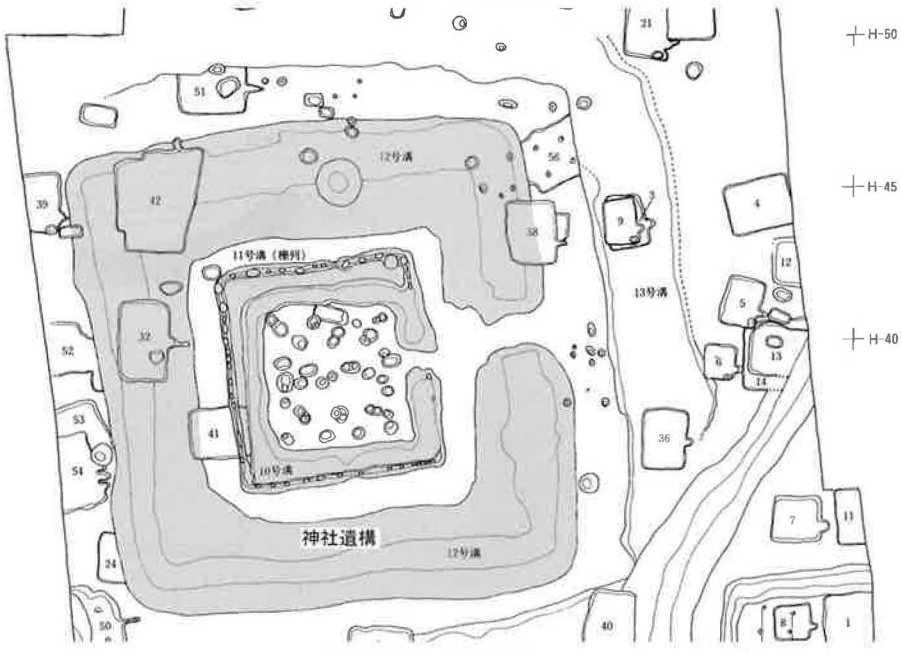


5　元総社明神遺跡の大溝

Fig.19　推定上野国府周辺の遺構(2)



6　鳥羽遺跡の鍛冶工房跡



7　鳥羽遺跡の神社遺構

Fig.20　推定上野国府周辺の遺構(3)

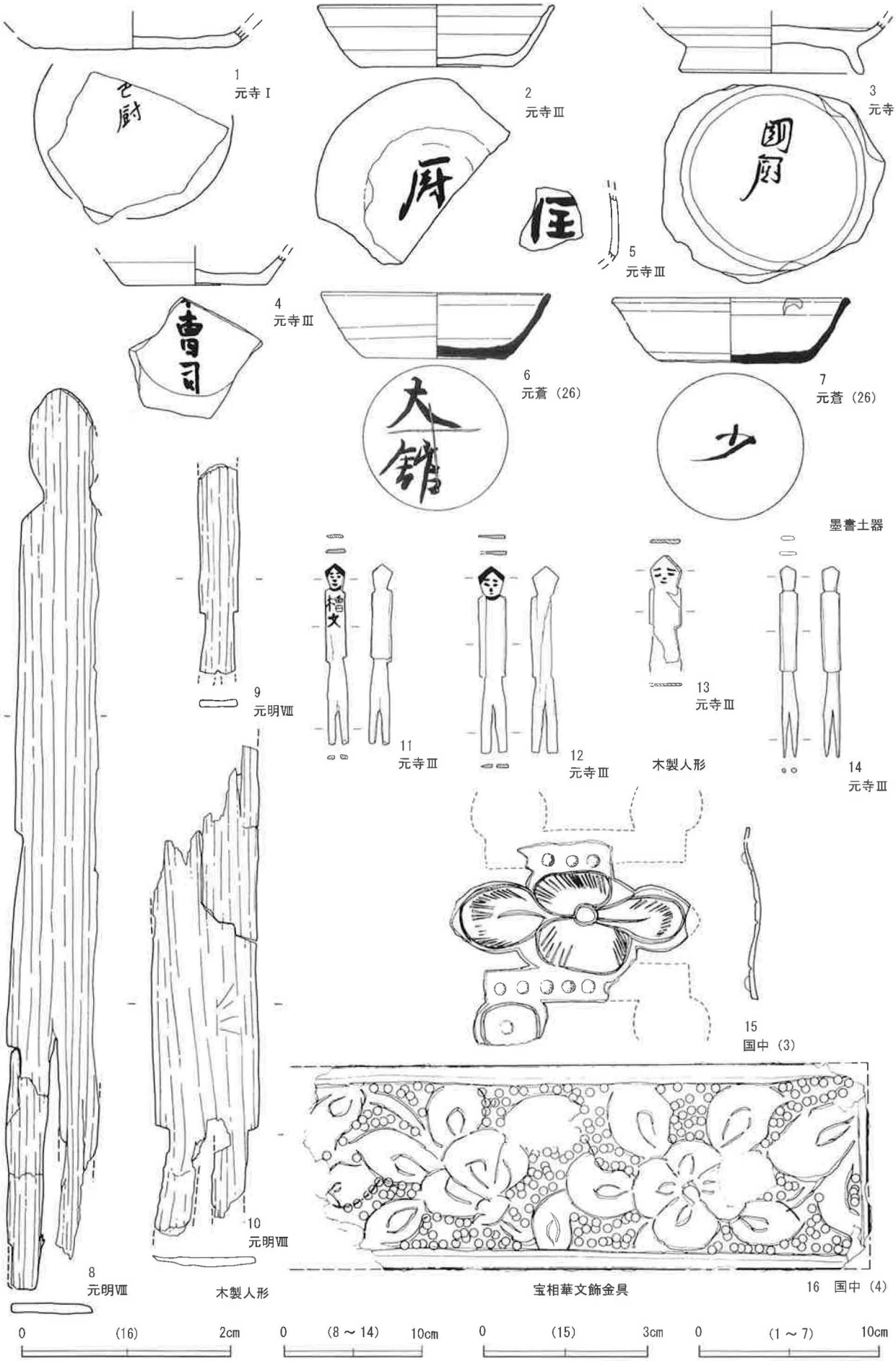


Fig.21　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(1)

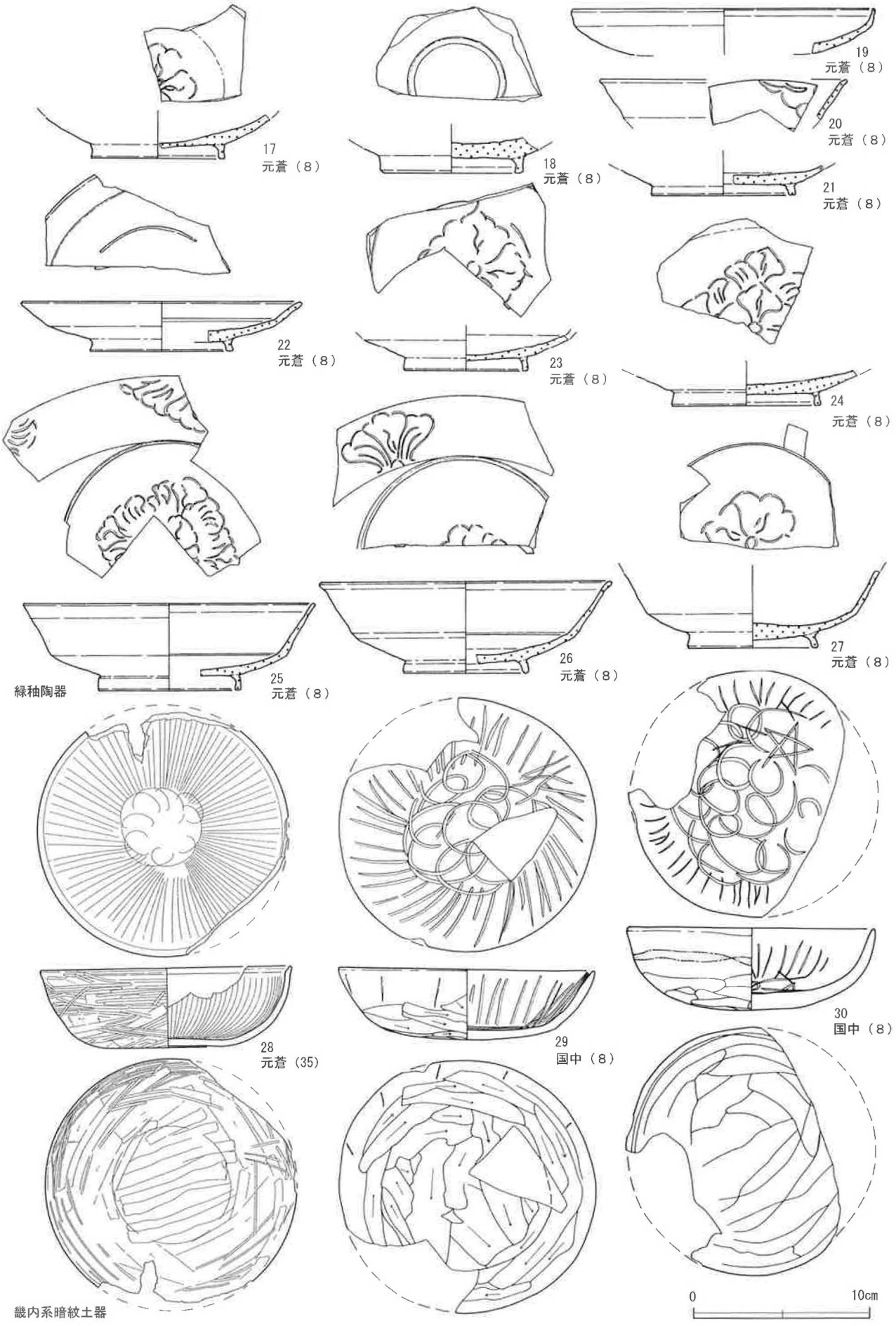


Fig.22　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(2)

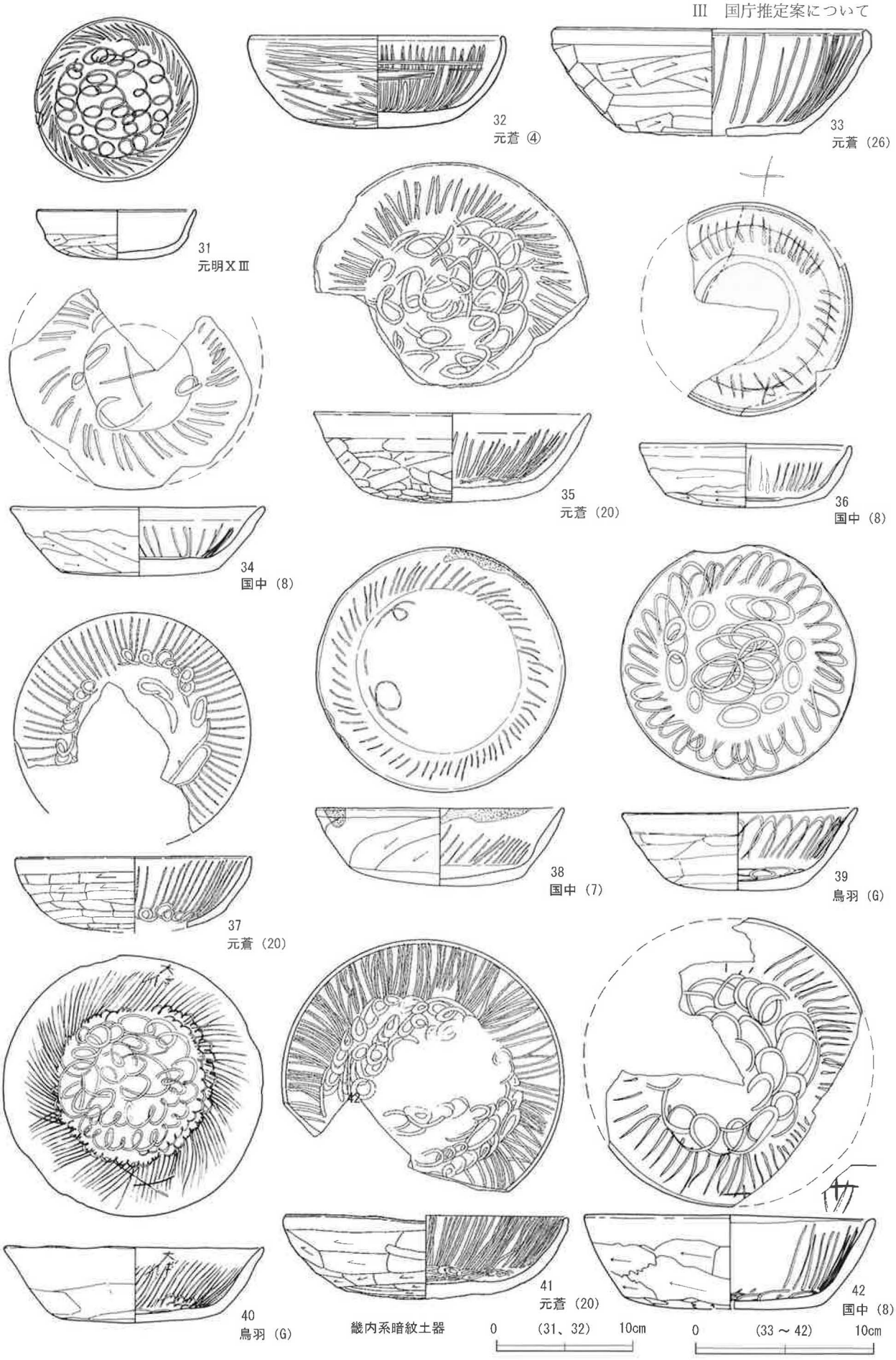


Fig.23　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(3)

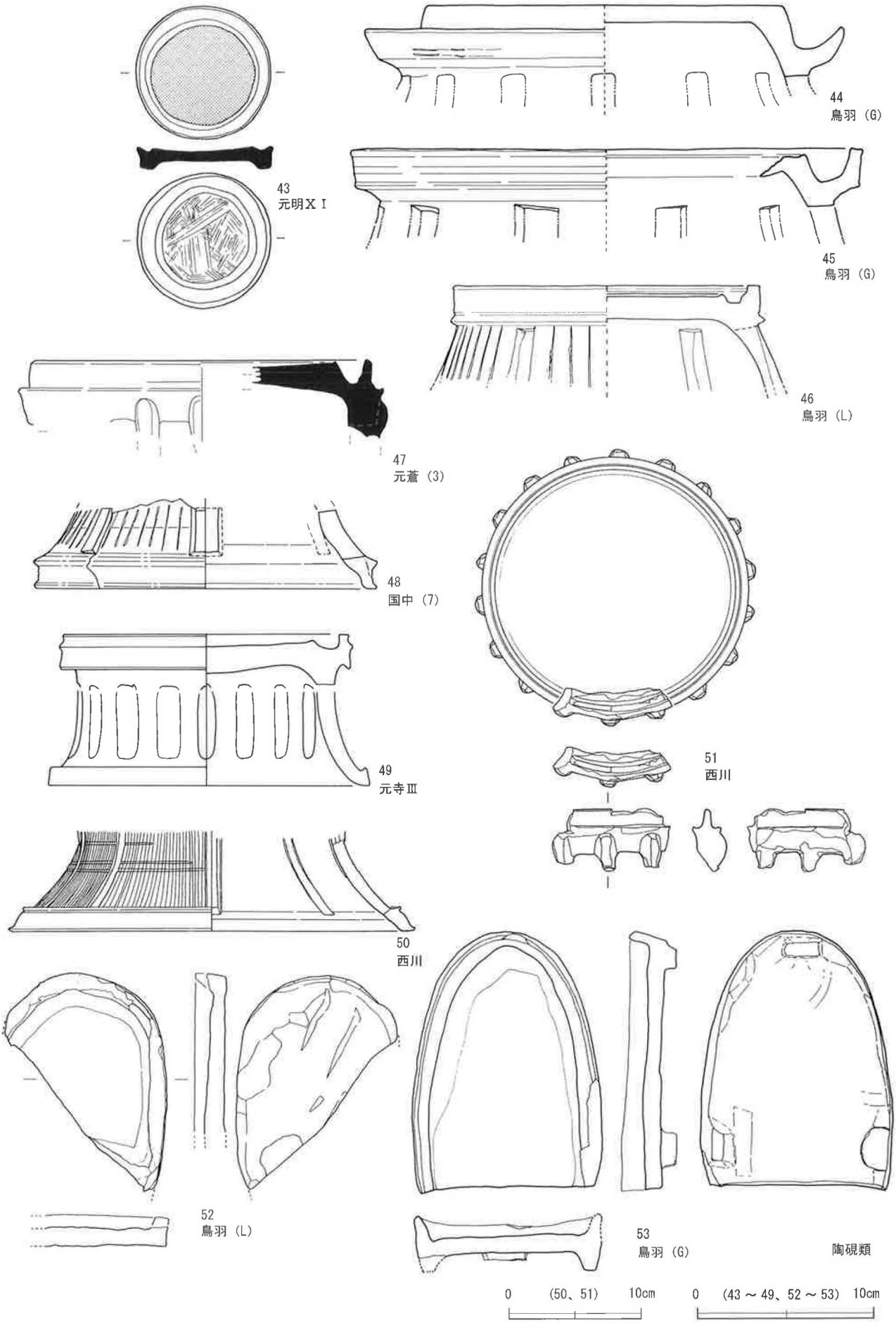


Fig.24　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(4)

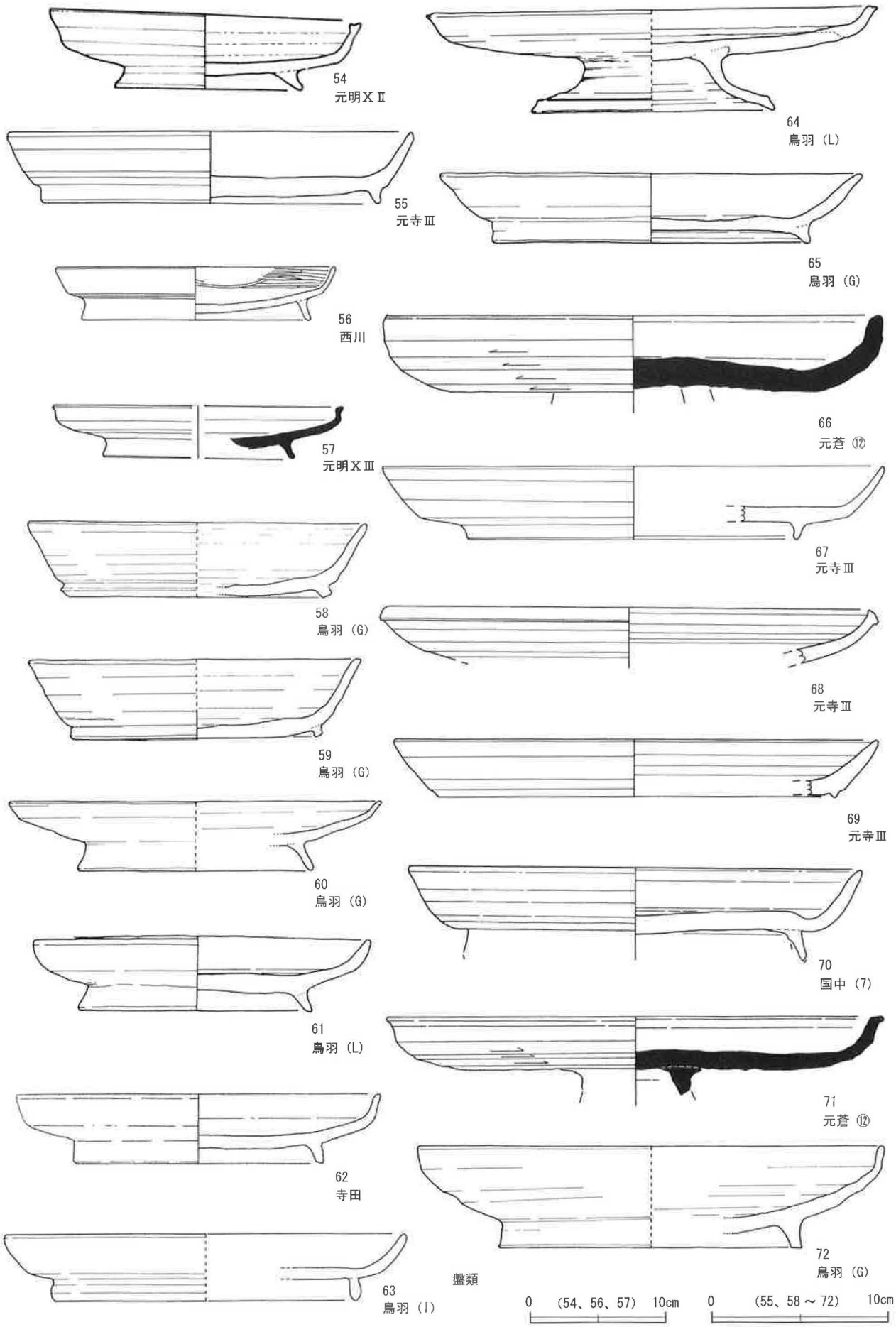


Fig.25　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(5)

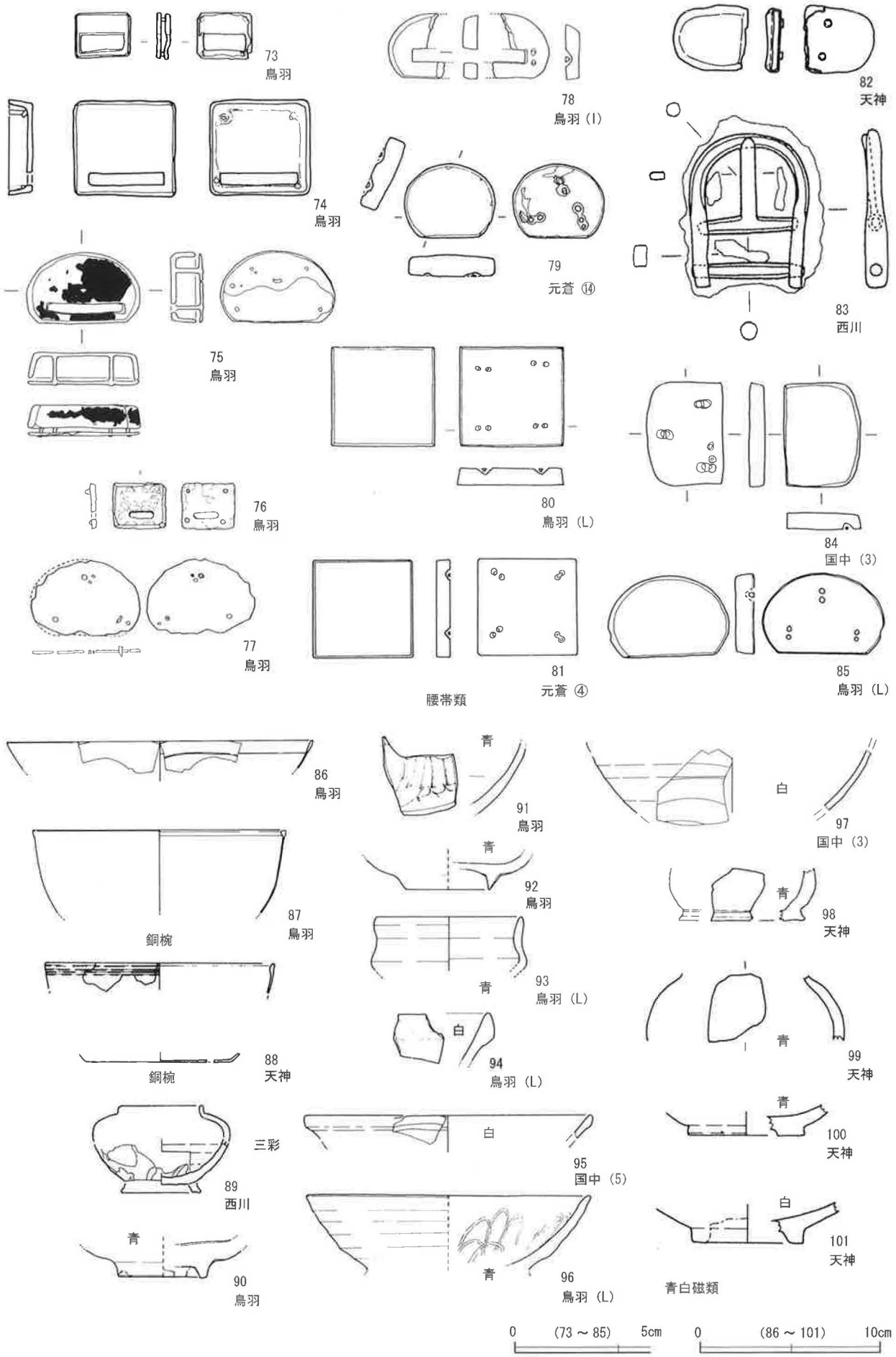


Fig26　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(6)

Tab. 5　元総社蒼海遺跡群①～⑮報告書一覧表

所収遺跡名	種別	主な遺跡	主な遺構	主な遺物	特記事項
元蒼遺跡群① 総社閑泉明神北遺跡	遺物包含層	縄文時代		加曽利Ｅ式土器、後期土器	五輪塔の地輪には「文明四（1472）年」の紀年名及び金泥
	生産跡	古墳時代	浅間Ｃ軽石下畠跡、FA下水田跡	土師器、須恵器、木製品	
	遺物包含層	平安時代	住居跡		
	遺物包含層	中世	溝、井戸、土坑	中世陶器、五輪塔、石臼	
元蒼遺跡群② 元総社小見遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　3軒 性格不明遺構　2基	諸磯ｂ・ｃ式土器、加曽利Ｅ４式土器、石鏃、石鋸、石匙	５区の住居跡から、浄瓶、７区で２間×３間の総柱建物跡
	集落跡	古墳～奈良・平安時代	竪穴住居跡　90軒 掘立柱建物跡　1棟 竪穴状遺構　2基 性格不明遺構　3基 道路状遺構　4条 溝跡　8条 土坑　24基	土師器坩・台付甕、須恵器蓋・坏・高台付坏・無蓋高坏・高台付皿・耳皿・羽釜・円面硯、灰釉陶器碗・段皿・短頸壺・水瓶、緑釉陶器高台付皿、金属製品（鉄鏃、引手、逆輪、刀子、鎌）、火打石、元豊通宝、土製品（紡錘車、丸瓦、平瓦）、石製品（臼玉、支脚）	
元蒼遺跡群③ 総社甲稲荷塚大道西遺跡	集落跡	平安時代	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、柱穴	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鉄器　他	重複多数
元蒼遺跡群③ 総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡、溝跡、土坑、柱穴、落ち込み	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鉄器　他	10世紀河川の氾濫
元蒼遺跡群③ 総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡、竪穴状遺構、溝跡、土坑、柱穴、井戸跡	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鉄器　他	重複多数
元蒼遺跡群④ 元総社小見内Ⅲ遺跡	遺物包含層	縄文時代～弥生時代	住居跡	加曽利Ｅ式土器、石器類、弥生式土器、紡錘車	浅間Ｂ軽石以前の道路状遺構。さらに、この道路状遺構の両側には並行している溝跡を検出
	集落跡 道路、溝跡	古墳～奈良・平安時代	住居跡、溝跡、土坑、井戸、掘立柱建物跡	土師器、須恵器、陶器類、瓦、風字瓦、金属製品、石製品	
	墓域、区画溝跡	中世	土坑墓、火葬墓、溝跡、道路状遺構	陶器、五輪塔、石臼	
	墓域	近世	土坑墓		
元蒼遺跡群⑤ 元総社小見Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡、土坑	加曽利Ｅ式土器、石器	調査区の東側中世の溝は、底辺の広い逆台形で、底面の両側に側溝状の小溝を持ち、中央部は全体に硬化している。
	集落跡	古墳時代	住居跡	土師器・須恵器	
	集落跡	奈良・平安時代	住居跡、掘立柱建物跡	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、輸入陶磁器	
	溝跡、道路	中世	溝跡、道路状遺構	金属製品、陶器類、石製品	
	墓域	近世	井戸、土坑		

所収遺跡名	種別	主な遺跡	主な遺構	主な遺物	特記事項
元蒼遺跡群⑥ 元総社小見III遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡	加曽利Ｅ式土器、石器	規模の大きい薬研状の断面を持つ中世の溝跡
	集落跡	古墳～奈良・平安時代	住居跡、柱穴列、溝跡、井戸、土坑、土坑墓	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鉄製品	
	集落・土坑墓	中世	道路状遺構、土坑、溝跡、井戸跡、土坑墓	陶磁器、石臼、五輪塔	
元蒼遺跡群⑥ 元総社小見III遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	住居跡、土坑	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁、瓦、鉄製品、陶器類	住居跡からの白磁碗
	溝跡、土坑墓、火葬墓	中世	溝跡、井戸跡、土坑、土坑墓、火葬跡	陶器類	
元蒼遺跡群⑦ 総社甲稲荷塚大塚西III遺跡	集落跡	古墳～平安時代	住居跡37軒、竪穴状遺構１基、井戸跡５基、溝13条、畠跡　他	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、石器、鉄器　他	
元蒼遺跡群⑦ 総社閑泉明神北III遺跡	集落跡	縄文時代、古墳～平安時代	住居跡25軒、井戸跡１基、溝１条、土坑12基他	縄文土器、土師器、須恵器、瓦、石器、鉄器他	
元蒼遺跡群⑧ 元総社小見内IV遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安・中世	住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、土坑墓、柱穴　他	土師器、須恵器、灰釉陶器、青磁、かわらけ、瓦、鉄製品　他	
元蒼遺跡群⑨ 元総社小見IV遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡３軒	縄文土器、石器	1200点あまりの瓦片が出土。「山田」、「當」という押印をもつものや、「伴一」「手」「日」と筆書するもの。
	集落跡	古墳時代	住居跡１軒	土師器	
	集落跡	奈良時代	住居跡１軒	土師器、須恵器	
	集落跡	平安時代	住居跡24軒	須恵器、石器、鉄器、瓦	
	集落跡	中世	溝２条		
	集落跡	その他	土坑１基　他		
元蒼遺跡群⑩ 元総社小見Ｖ遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡３軒	縄文土器、石器	
	集落跡	古墳時代	住居跡２軒	土師器	
	集落跡	平安時代	住居跡11軒	土師器、須恵器、瓦、石器、鉄器　他	
	集落跡	中世以降	掘立柱建物跡１棟、畠跡、土坑13基　他		
元蒼遺跡群⑩ 元総社小見VI遺跡	集落跡	奈良時代	住居跡１軒	土師器	粘土採掘坑
	集落跡	平安時代	住居跡７軒、溝８条	土師器、須恵器、瓦、石器　鉄器　他	
	集落跡	中世以降	井戸跡３基、土坑11基他		
元蒼遺跡群⑪ 元総社小見VII遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡２軒、土坑１基他	縄文土器、打製石斧、多孔石　他	厨屋的存在と考えられる住居跡２軒
	集落跡	奈良・平安時代	住居跡16軒、掘立柱建物跡１軒、溝跡２条、土坑１基　他	土師器、須恵器、鉄器、鉄製品、石製品、瓦　等	
	集落跡	中世以降	溝跡、畠跡、土坑墓　他	古銭　等	

所収遺跡名	種別	主な遺跡	主な遺構	主な遺物	特記事項
元蒼遺跡群⑫ 元総社小見内Ⅷ遺跡	集落跡	奈良・平安時代	住居跡14軒　他	土師器、須恵器、かわらけ、鉄器、鉄製品、石製品、瓦　等	火砕流（Hr-FPF1）で被災した水田跡
	集落跡	中世以降	竪穴状遺構１軒、溝跡５条　他		
元蒼遺跡群⑫ 総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	畠跡	古墳時代	畠跡、溝跡　他		
	畠跡	中世以降	畠跡、溝跡、井戸跡　他		
元蒼遺跡群⑬ 元総社小見内Ⅸ遺跡	集落跡	奈良・平安時代	住居跡23軒　他	土師器、須恵器、瓦　他	
	集落跡	中世	溝跡、井戸跡		
元蒼遺跡群⑬ 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	集落跡	平安時代	住居跡２軒	土師器、須恵器	
	水田跡	古墳時代	住居跡２軒、「小区画水田」跡１面、溝１条　他	土師器、須恵器、加工材	
元蒼遺跡⑭ 元総社小見Ⅵ遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡２軒、土坑11基	縄文土器、石器	転用硯が検出された住居跡
	集落跡	古墳時代	住居跡15軒	土師器、須恵器	
	集落跡	奈良・平安時代	住居跡68軒、溝跡２条、土坑７基	土師器、須恵器、鉄製品、瓦	
	集落跡	中世	土坑２基		
元蒼遺跡⑮ 元総社小見内Ｘ遺跡	包含層	縄文時代	住居跡２軒、土坑11基	縄文土器、石器	９号住居跡で、平安時代と考えられる金片が出土。金属などを加工した工房跡と考えられる。８号溝跡では、青磁片、滑石製印判を検出。採掘坑は、灰白色のシルトを採取した可能性がある。
	集落跡	古墳～奈良・平安時代	住居跡、工房跡、道路状遺構	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、金片、金粒	
	工房跡	古墳～奈良・平安時代	粘土採掘坑、土坑、周溝状遺構、畝状遺構、溝跡、井戸跡		
	生活跡	中世	土坑、溝跡、井戸跡、土坑墓	陶器類、人骨、滑石製印判、銭貨	

Tab. 6　元総社蒼海遺跡群(1)～(36)報告書一覧表

所収遺跡名	種別	主な遺跡	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群(1)	集落	古墳時代	住居跡４軒　他	土師器、須恵器　等	蒼海城関連堀跡
		奈良・平安時代	住居跡32軒、掘立柱建物跡２棟、溝跡11条他	土師器、須恵器、鉄器、石製品、瓦	
		中世以降	溝跡７条	かわらけ、陶磁器片	
元総社蒼海遺跡群(2)	集落	古墳時代	住居跡１軒	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡22軒、竪穴状遺構１基、溝跡７条	土師器、須恵器、鉄器、瓦	
		中世以降	竪穴状遺構２基、溝跡７条、井戸跡１基		
元総社蒼海遺跡群(3)	集落	縄文時代	住居跡７軒、土坑７基	縄文土器、石器	浅間Ｂ軽石下の溝跡。南北方向に直線に走向し、断面形状が椀形。上幅4.7m～6.2m、下幅3.2～4.8m、確認面からの深さ0.7～0.8m。
		古墳時代	住居跡８軒	土師器、須恵器、紡錘車	
		奈良・平安時代	住居跡43軒	土師器、須恵器、紡錘車、瓦、鉄製品	
		不明	住居跡３軒、土坑９基、ピット42基、集石遺構	土師器、須恵器	
元総社蒼海遺跡群(4)	集落	縄文時代	住居跡２軒、土坑２基	縄文土器、石器	
		古墳時代	住居跡４軒	土師器、須恵器、石製模造品	
		奈良・平安時代	住居跡18軒、竪穴状遺構１基、溝跡４条	土師器、須恵器、鉄製品	
		不明	溝跡２条、井戸跡１基	石製品、土製品、瓦	
元総社蒼海遺跡群(5)	集落 墓跡	古墳時代	住居跡１軒	土師器、須恵器　他	
		奈良・平安時代	住居跡22軒、溝跡１条	土師器、須恵器　他	
		中世以降	溝跡４条、周溝状遺構１、土坑墓58基、火葬墓２基	かわらけ、板碑、五輪塔、銅銭　他	
		不明	溝跡４条、土坑40、ピット		
元総社蒼海遺跡群(6)	集落	奈良・平安時代	住居跡28軒、鍛冶工房跡１、溝１条	土師器、須恵器、瓦、鉄器、石製品　等	
		中世	溝５条、土坑墓２基、土坑		蒼海城関連堀跡
元総社蒼海遺跡群(7)	集落	奈良・平安時代	住居跡２軒、溝跡５条、土坑２基	土師器、須恵器、瓦、鉄器、石製品、瓦	国府北辺の区画溝か
		中世以降	溝跡７条　他		
元総社蒼海遺跡群(8)	集落	古墳時代	住居跡２軒	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡44軒、溝跡８条	土師器、須恵器、鉄製品、緑釉陶器、瓦	
		中世	溝跡７条、井戸跡１基		
元総社蒼海遺跡群(9)・(10)	集落	縄文時代	住居跡２軒	縄文土器、石器	晩期の遺構・遺物
		古墳時代	住居跡６軒	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡43軒、掘立柱建物跡１棟、溝跡１条、土坑32基　他	土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器、瓦　他	大型掘立柱建物跡（３間×10間）
		中世	溝１条　他		
元総社蒼海遺跡群(11)	集落	古墳時代	住居跡７軒	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡28軒、竪穴状遺構３基、溝跡２条	土師器、須恵器、瓦	
		中世	溝跡３条		

所収遺跡名	種別	主な遺跡	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群(12)	集落	古墳時代	住居跡２軒、竪穴状遺構１基	土師器	
		奈良・平安時代	住居跡74軒、竪穴状遺構１基、溝跡３条、井戸跡２基	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世	溝跡12条、井戸跡４基、土坑墓１基	鉄製品	
元総社蒼海遺跡群(13)	集落	縄文時代	住居跡４軒、土坑18基	縄文土器、土偶、石器	
		古墳時代	住居跡21軒	土師器、須恵器　他	
		奈良・平安時代	住居跡68軒、竪穴状遺構５基、工房跡１基、溝跡12条　他	土師器、須恵器、三彩、緑釉陶器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世	溝跡16条、土坑墓１基		
元総社蒼海遺跡群(14)	集落	古墳時代	住居跡14軒、水田址、畝状遺構	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡６軒、掘立柱建物跡２棟、溝跡４条	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世	溝跡４条、井戸跡13基、竪穴状遺構１基	軟質土器、石製品、瓦	
元総社蒼海遺跡群(15)	集落 墓跡 その他	奈良・平安時代	住居跡15軒、掘立柱建物跡１棟、溝20条、井戸跡２基、土坑墓１基、土坑81基、ピット221基	縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、石製品、鉄製品、中世・近世陶磁器　他	
		中世			
		近世			
元総社蒼海遺跡群(16)	集落 その他	奈良・平安時代	住居跡16軒、井戸跡１基、土坑36基、ピット260基、風倒木痕１ヶ所、畠跡１、道路状遺構１	縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、石製品、鉄製品、中世・近世陶磁器　他	
		中世			
		近世			
元総社蒼海遺跡群(17)	集落	古墳時代	住居跡13軒	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡28軒、竪穴状遺構２基、溝跡４条、土坑、ピット	土師器、須恵器、瓦、灰釉陶器、鉄製品	
		中世以降	土坑墓２基、土坑10基、ピット231基、井戸跡２基、溝跡５条	灯明皿、軟質土器、板碑、石臼	
		不明	住居跡９軒、溝跡２条		
元総社蒼海遺跡群(18)	集落 その他	奈良・平安時代	住居跡31軒、溝５条、井戸跡４基、土坑94基、ピット311基、風倒木痕２ヶ所、掘り込み状遺構１	縄文土器、石器、土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、石製品、鉄製品、銅製品、舶載青磁、白磁、かわらけ、古銭　他	
		中世			
		近世			
元総社蒼海遺跡群(19)	水田址	古墳時代	小区画水田	木器、土師器、須恵器	
		中世	井戸跡	漆器	
元総社蒼海遺跡群(20)	集落 その他	古墳時代	住居跡６軒	土師器、須恵器　他	
		奈良・平安時代	住居跡61軒、竪穴状遺構２基、溝跡10条、土坑51基	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世	溝跡13条、土坑墓１基	鉄製品、石製品	
元総社蒼海遺跡群(21)	上野国府関連遺構 蒼海城跡	平安時代	竪穴状遺構４基、土坑137基（内、井戸５基、竪穴状遺構１基）、溝９条、ピット759基、盛土状遺構（土塁）１	須恵器、灰釉陶器、瓦、石製品、陶磁器、かわらけ	蒼海城改修前後の堀を確認
		中世			
元総社蒼海遺跡群(22)	集落 その他	古墳時代	住居跡56軒、竪穴状遺構５基、土坑66基、溝跡５条、土坑66基、ピット105基	縄文土器、石器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、石製品、鉄製品、陶磁器、古銭	10区弥生時代の土坑。10区鍵出土。
		奈良・平安時代			
		中近世			

所収遺跡名	種別	主な遺跡	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群(23)	集落 上野国府関連遺構 蒼海城跡	古墳時代 奈良・平安時代 中世	住居跡20軒、性格不明遺構１基、土坑35基（内、井戸７基、風倒木痕１ヶ所）、溝跡14条、ピット101基	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、鉄製品、銅製品、陶磁器、かわらけ	蒼海城改修前後の堀を確認
元総社蒼海遺跡群(24)	集落	縄文時代	住居跡２軒、土坑７基	縄文土器、石器	
		古墳時代	住居跡５軒	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡27軒、竪穴状遺構６基、溝跡７条、土坑64基	土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品、石製品、皇朝十二銭	
		中世	方形竪穴５基、井戸２基、溝４条	銅製品、石製品、北宋銭	
元総社蒼海遺跡群(25)	集落	古墳時代 奈良・平安時代 中近世	住居跡10軒、土坑４基、溝跡１条、ピット30基	土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品、陶磁器	南宋～元時代（13～14世紀）の青白磁梅瓶が２個体完形で出土
元総社蒼海遺跡群(26)	集落	古墳時代	住居跡９軒	土師器、須恵器　他	
		奈良・平安時代	住居跡90軒、竪穴状遺構９基、溝跡16条、土坑38基	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世	溝跡２条、土坑墓３基	鉄製品、石製品	
元総社蒼海遺跡群(27)	集落 上野国府関連遺構 蒼海城関連遺構	古墳時代 奈良・平安時代 中世	住居跡51軒、溝17条、土坑49基、ピット３基、竪穴状遺構４基、井戸１基、焼土跡１基、掘立柱建物跡２棟	土師器、須恵器、羽釜、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄製品、石製模造品、石製品、	古墳時代前期から平安時代の集落。 ８世紀代と想定される掘立柱建物跡を確認
元総社蒼海遺跡群(28)	集落 蒼海城関連遺構	弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 中世	住居跡47軒、溝18条、土坑26基、ピット１基、竪穴状遺構５基	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄製品、石製模造品、常滑大甕、石製品、瓦	弥生時代後期から平安時代の集落
元総社蒼海遺跡群(29)	集落 その他	古墳時代 奈良・平安時代	住居跡26軒	灰釉陶器、須恵器、土師器	古墳～平安時代の集落
		中世	堀・溝跡12条、掘立柱建物跡１棟、墓坑14基、火葬跡２基、地下式土坑１基、井戸、土坑、ピット333基	かわらけ、宝篋印塔、五輪塔、板碑、古銭	蒼海城に伴うと推定される堀跡。中近世の土坑墓・火葬跡。
元総社蒼海遺跡群(30)	集落 その他	古墳時代 奈良・平安時代	住居跡６軒	雁又鏃、灰釉陶器、須恵器、土師器	古墳～平安時代の集落
		中世	道路跡１条、堀・溝跡６条、墓坑２基、火葬跡１基、井戸、土坑、ピット23基	かわらけ、五輪塔、古銭	中世期の道路状遺構と蒼海城の堀と推定される堀跡。中世の土坑墓・火葬跡。
元総社蒼海遺跡群(31)	集落 その他	古墳時代	住居跡16軒	かわらけ、陶磁器、五輪塔、古銭	蒼海城の堀跡
		中近世	道路状遺構１基、堀・溝跡５条、井戸１基、土坑21基、ピット51基	かわらけ、陶磁器、五輪塔、古銭	
元総社蒼海遺跡群(32)	集落	古墳時代 奈良・平安時代	住居跡24軒、竪穴状遺構２基、溝３条、土坑10基	土師器、須恵器	
		中世	溝２条、道路状遺構２条、土坑墓１基	鉄製品	

所収遺跡名	種別	主な遺跡	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群(33)	集落	古墳時代	住居跡48軒、掘立柱建物１棟、粘土採掘坑１、道路状遺構１条	土師器、須恵器、鉄製品、瓦	
		奈良・平安時代			
		中世	竪穴状遺構２基、溝跡10条、井戸跡10基、土坑墓６基	土師器、須恵器、鉄製品、砥石	
元総社蒼海遺跡群(34)	集落 その他	奈良・平安時代	住居跡18軒、溝跡13条、土坑墓３基、土坑26基、ピット14基、竪穴状遺構５基、その他３基	土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品、鉄製品、銅銭、かわらけ	
		中近世			
元総社蒼海遺跡群(35)	集落 その他	１区縄文時代	住居跡１軒	縄文土器、石器	古墳～平安時代の集落。畿内産土師器。布堀を伴う掘立柱建物跡。蒼海城関連の堀跡。
		古墳時代	住居跡22軒、掘立柱建物跡２棟、土坑、ピット　等	土師器、須恵器、灰釉陶器、畿内産土師器、鉄製品、古銭	
		平安時代			
		中世	堀・溝跡４条、土坑墓１基		
		２区奈良時代　他	住居跡４軒、溝、土坑、ピット	土師器、須恵器	奈良時代他の集落
		３区古墳時代	住居跡12軒、掘立柱建物跡１棟、溝、土坑、ピット	土師器、須恵器	古墳時代後期の集落。５間×４間の掘立柱建物跡。
		奈良時代以降			
元総社蒼海遺跡群(36)	集落 その他	古墳時代	溝跡３条、畠跡		
		平安時代	住居跡17軒、竈構築材採掘坑跡２、水田区画	土師器、須恵器、施釉陶器、瓦、砥石、鉄製品	鉄製紡錘車、鉄鏃
		平安～中近世	溝跡８条、堀跡４条、土坑17基、井戸跡２基	土師器、須恵器、埴輪、かわらけ、石臼、板碑、内耳土鍋、陶器、焙烙	地下式土坑状

Tab. 7　元総社蒼海遺跡群遺物集計表

No.	遺跡名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
		土師器			須恵器			かわらけ	瓦	古銭	埴輪	陶器			磁器		
		大	中	小	大	中	小					灰釉	緑釉	三彩	青	白	青花
1	元総社蒼海遺跡群①	0	1	16	1	1	43	0	2	2	0	5	0	0	0	0	0
2	元総社蒼海遺跡群②	4	8	41	0	2	32	0	5	1	0	9	1	0	0	0	0
3	元総社蒼海遺跡群③	0	6	20	0	7	50	1	7	0	0	12	0	0	0	0	0
4	元総社蒼海遺跡群④	3	16	74	2	8	63	7	8	0	0	8	1	0	1	0	0
5	元総社蒼海遺跡群⑤	5	18	23	3	3	51	1	13	0	0	5	5	0	1	0	0
6	元総社蒼海遺跡群⑥	13	3	33	4	4	40	7	7	0	0	11	1	0	0	2	0
7	元総社蒼海遺跡群⑦	0	4	3	0	2	20	9	9	1	0	0	0	0	0	0	0
8	元総社蒼海遺跡群⑧	20	1	50	19	5	52	25	14	33	0	5	0	0	1	0	0
9	元総社蒼海遺跡群⑨	21	4	27	19	2	69	0	162	1	0	1	0	0	0	0	0
10	元総社蒼海遺跡群⑩	15	5	36	10	1	34	5	55	0	0	2	0	0	0	0	0
11	元総社蒼海遺跡群⑪	27	3	43	3	4	23	0	13	0	0	2	0	0	0	0	0
12	元総社蒼海遺跡群⑫	12	2	28	2	4	31	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0
13	元総社蒼海遺跡群⑬	4	1	8	19	4	111	2	17	2	0	7	1	0	0	0	0
14	元総社蒼海遺跡群⑭	40	10	50	13	2	109	8	26	0	0	10	3	0	0	8	0
15	元総社蒼海遺跡群⑮	4	2	8	21	4	46	4	12	9	0	4	0	0	0	0	0
16	元総社蒼海遺跡群(1)	1	27	60	1	1	45	0	38	0	0	7	1	0	0	0	0
17	元総社蒼海遺跡群(2)	2	7	17	7	12	47	10	13	0	1	3	1	0	0	0	0
18	元総社蒼海遺跡群(3)	1	9	15	0	13	56	0	21	1	0	2	0	0	0	0	0
19	元総社蒼海遺跡群(4)	1	13	50	0	1	17	1	34	0	0	5	1	0	0	0	0
20	元総社蒼海遺跡群(5)	0	5	43	0	0	15	45	4	230	0	1	0	0	0	0	0
21	元総社蒼海遺跡群(6)	0	2	0	4	4	31	16	109	2	0	2	0	0	0	0	0
22	元総社蒼海遺跡群(7)	0	2	6	0	2	11	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0
23	元総社蒼海遺跡群(8)	0	18	25	1	6	52	0	19	0	0	4	25	0	0	0	0
24	元総社蒼海遺跡群(9)・(10)	0	9	58	2	24	110	0	10	0	3	9	0	0	0	0	0
25	元総社蒼海遺跡群(11)	4	8	19	1	8	55	0	14	0	0	4	0	0	0	0	0
26	元総社蒼海遺跡群(12)	7	42	81	0	5	71	0	25	0	0	1	1	0	2	0	0
27	元総社蒼海遺跡群(13)	3	12	104	4	25	42	0	30	0	1	7	9	1	0	0	0
28	元総社蒼海遺跡群(14)	0	10	27	2	1	32	3	4	3	1	3	3	0	0	0	0
29	元総社蒼海遺跡群(15)	2	0	0	0	12	42	0	21	0	0	6	0	0	0	0	0
30	元総社蒼海遺跡群(16)	0	3	8	5	24	53	0	20	0	0	2	0	0	0	0	0
31	元総社蒼海遺跡群(17)	3	21	39	1	10	41	2	7	6	0	1	0	0	0	0	0
32	元総社蒼海遺跡群(18)	2	4	11	12	17	51	0	42	1	0	6	0	0	2	0	0
33	元総社蒼海遺跡群(19)	0	10	15	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34	元総社蒼海遺跡群(20)	24	29	86	12	11	85	1	73	3	2	10	2	0	0	0	0
35	元総社蒼海遺跡群(21)	0	0	0	1	1	21	40	1	0	0	3	0	0	3	4	0
36	元総社蒼海遺跡群(22)	10	17	67	7	12	154	0	15	3	0	11	3	0	0	0	0
37	元総社蒼海遺跡群(23)	0	8	27	0	7	56	78	19	3	0	2	0	0	17	20	0
38	元総社蒼海遺跡群(24)	0	9	36	3	11	67	0	33	2	0	11	0	0	1	0	0
39	元総社蒼海遺跡群(25)	0	1	0	0	9	10	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0
40	元総社蒼海遺跡群(26)	17	35	73	6	16	144	1	47	6	0	4	1	0	0	0	0
41	元総社蒼海遺跡群(27)	2	30	58	17	27	99	0	27	1	2	26	2	0	0	0	1
42	元総社蒼海遺跡群(28)	22	52	61	2	27	81	0	41	1	3	13	3	0	0	0	0
43	元総社蒼海遺跡群(29)	1	9	18	0	11	43	3	3	86	0	7	0	0	0	0	0

17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
									縄文											
鉄釉	陶磁器類	土製品	石製品	金属製品	木製品	装身具	自然遺物	その他	土器	石器	その他	弥生土器	腰帯	硯	盤	螺旋状暗紋坏	人形	国府関連墨書	備考	合計
0	2	1	15	3	25	1	0	0	9	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	133
0	0	2	7	28	0	2	0	0	6	7	1	0	0	1	0	0	0	1	0	158
0	0	0	3	4	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115
0	0	5	6	30	0	2	0	1	1	1	0	12	1	0	0	2	0	3	0	255
0	0	0	1	16	0	1	0	0	9	2	1	0	0	0	1	0	0	3	0	162
0	19	0	10	12	0	3	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	173
0	0	0	3	7	0	0	0	0	1	5	0	1	0	0	0	6	0	0	0	71
0	0	0	2	9	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	242
0	0	2	0	7	0	0	0	0	26	11	0	0	0	0	1	1	0	0	0	354
0	0	0	3	9	0	2	0	0	38	10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	227
0	0	0	3	6	0	0	0	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	135
0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	110
0	0	0	6	14	1	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	203
0	0	0	1	7	0	0	0	2	20	3	0	0	1	1	0	2	0	2	0	318
0	8	0	7	0	0	0	0	0	7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	140
0	0	0	2	12	0	3	0	0	0	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	203
0	0	1	0	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	130
0	0	1	8	9	0	0	0	0	111	14	5	0	0	1	0	0	0	3	0	270
0	0	6	4	9	0	5	0	0	24	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	178
0	0	0	1	16	0	4	0	21	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	386
0	0	0	4	16	0	1	1	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	210
0	0	0	1	11	0	0	0	2	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	45
0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	153
0	0	4	21	19	0	3	0	5	118	71	4	1	0	0	0	0	0	0	0	471
0	0	1	7	4	0	7	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	150
0	0	0	5	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	255
0	0	3	6	17	0	4	0	1	79	0	1	2	3	0	0	0	0	0	0	354
0	8	0	10	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	115
0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	89
0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	120
0	1	0	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	145
0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	154
0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	66
0	6	1	40	27	0	1	0	0	22	0	0	0	1	0	0	3	0	1	0	440
0	8	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	92
0	0	0	7	3	0	5	0	0	0	0	0	13	0	0	0	1	0	3	0	331
0	19	1	0	2	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	288
1	1	4	18	19	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	1	0	0	0	0	257
0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
0	3	0	35	23	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6	0	4	0	424
0	10	4	21	13	0	2	0	0	7	11	0	6	0	0	0	0	0	0	0	366
0	7	3	7	13	0	1	0	0	7	12	0	8	0	0	1	0	0	0	0	365
0	3	0	31	10	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	227

No.	遺跡名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
		土師器			須恵器			かわらけ	瓦	古銭	埴輪	陶器			磁器		
		大	中	小	大	中	小					灰釉	緑釉	三彩	青	白	青花
44	元総社蒼海遺跡群(30)	0	3	1	1	0	11	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0
45	元総社蒼海遺跡群(31)	6	4	28	2	2	3	2	0	14	2	0	0	0	0	0	0
46	元総社蒼海遺跡群(32)	4	7	103	1	11	52	1	34	0	0	5	1	0	0	1	0
47	元総社蒼海遺跡群(33)	3	18	24	0	16	39	34	31	1	0	1	0	0	0	2	0
48	元総社蒼海遺跡群(34)	0	0	6	1	3	41	20	22	14	0	2	0	0	0	0	0
49	元総社蒼海遺跡群(35)	0	18	76	0	0	22	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0
50	元総社蒼海遺跡群(36)	0	1	7	6	0	44	6	10	1	3	1	0	0	0	0	0
	合　計	283	527	1,709	215	385	2,518	344	1,130	434	19	246	65	1	30	37	1

Tab. 8　元総社明神遺跡遺物集計表

No.	遺跡名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
		土師器			須恵器			かわらけ	瓦	古銭	埴輪	陶器			磁器		
		大	中	小	大	中	小					灰釉	緑釉	三彩	青	白	青花
1	元総社明神遺跡Ⅰ	4	7	6	3		5										
2	元総社明神遺跡Ⅱ	1	209	405	13	205	330	3	7		2	51					
3	元総社明神遺跡Ⅲ・Ⅳ		8	31	2	4	49	2				2					
4	元総社明神遺跡Ⅴ		7	45		7	63		1	5							
5	元総社明神遺跡Ⅵ		7	45		7	63		1	5							
6	元総社明神遺跡Ⅶ		7	45		7	63		1	5							
7	元総社明神遺跡Ⅷ		5	81		1	32		19			3			5	30	
8	元総社明神遺跡Ⅸ		7	45		7	63		1	5							
9	元総社明神遺跡Ⅹ		2	12			4	11	51	4							
10	元総社明神遺跡Ⅺ		7	45		7	63		1	5							
11	元総社明神遺跡Ⅻ		1	9		8	10	8	1	1			1				
12	元総社明神遺跡XIII		7	45		7	63		1	5							
	合　計	5	274	814	18	260	808	24	84	35	2	56	1	0	5	30	0

17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
鉄釉	陶磁器類	土製品	石製品	金属製品	木製品	装身具	自然遺物	その他	縄文 土器	縄文 石器	縄文 その他	弥生土器	腰帯	硯	盤	螺旋状暗紋坏	人形	国府関連墨書	備考	合計
0	0	1	6	1	0	0	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36
0	20	2	23	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	112
0	0	3	7	10	0	0	0	0	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	248
3	8	3	45	5	0	0	0	0	1	3	0	0	0	1	2	0	0	0	0	240
0	10	1	7	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	133
0	0	0	5	3	0	1	0	0	2	6	0	0	0	0	2	1	0	0	0	143
0	6	0	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	99
4	172	56	420	446	26	57	1	61	553	209	34	48	12	12	11	29	0	22	0	10,117

17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
鉄釉	陶磁器類	土製品	石製品	金属製品	木製品	装身具	自然遺物	その他	縄文 土器	縄文 石器	縄文 その他	弥生土器	腰帯	硯	盤	螺旋状暗紋坏	人形	国府関連墨書	備考	合計
		1																		26
									18	1	2				1					1,248
					39									1						138
	15	8	9			4		3												167
	15	8	9			4		3												167
	15	8	9			4		3												167
	1	7	14		128	14	116	1	14	14		31					3	2		521
	15	8	9			4		3												167
	3	3	18	2				1		1					3				9	124
	15	8	9			4		3												167
			6	1											1					47
	15	8	9			4		3												167
0	94	59	92	3	167	38	116	20	32	16	2	31	0	1	5	0	3	2	9	3,106

Tab. 9　国府関連資料集成表

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	合計
		2000.3	2001.3	2002.3	2003.3	2002.3	1984.3	1988	2003.11	1990.3	1987.3	1987.3	
		国府南部遺跡群 I・II	国府南部遺跡群 III	国府南部遺跡群 IV	国府南部遺跡群 V	上野国分尼寺北辺遺跡	中尾遺跡	史跡上野国分寺跡	元総社西川・塚田中原遺跡	国分境遺跡	下東西遺跡	天神遺跡（破片数）	
1	硯								5		5		10
2	転用硯		1						1				2
3	螺旋状暗紋土器										8		8
4	銅椀							1	3				4
5	金銅像	1											1
6	緑釉陶器			1	2		10		16	4	6	120	159
7	青磁			4	5		1		2			12	24
8	白磁					1		1	14			6	22
9	巡方						4		1		2		7
10	丸鞆						1			1			2
11	瓦塔	2								1			3
12	国府関連墨書・刻書												0
	合計	3	1	5	7	1	16	2	42	6	21	138	242

第３章　元総社蒼海遺跡群内における７～10世紀の住居跡分布

１　目　　的

平成12年（2000年）から継続して刊行されている『元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』をもとに掲載されている住居跡を、年代別ごとに集成を行なうことによって、上野国府推定地一帯の土地利用の解明と国庁をはじめとする施設ゾーンの絞りこみを目的とする。

２　使用報告書名

１）元総社蒼海遺跡群①～⑮　15冊
（総社閑泉明神北遺跡：平成12年３月刊行～元総社小見内Ｘ遺跡：平成17年３月刊行）

２）元総社蒼海遺跡群（1）～（37）　34冊
（平成18年３月～平成24年３月刊行）

以上49冊　※蒼海①、蒼海（1）と省略して記載

３　分布図作成方法

(1)　上記報告書49冊から住居跡を抽出し、台帳を作成

(2)　住居跡を７世紀第１四半期から25年毎に10世紀まで分類し、集計表を作成

(3)　前橋市現形図（41－３・42－４・51－１・51－２）スケール１/2500（Ａ２版）を用意し各報告書の調査区枠をトレース

(4)　各世紀毎に分布を製作。

(5)　トレンチ内の住居跡数に応じて●を落とし込む。
●…１～10軒

４　ま と め

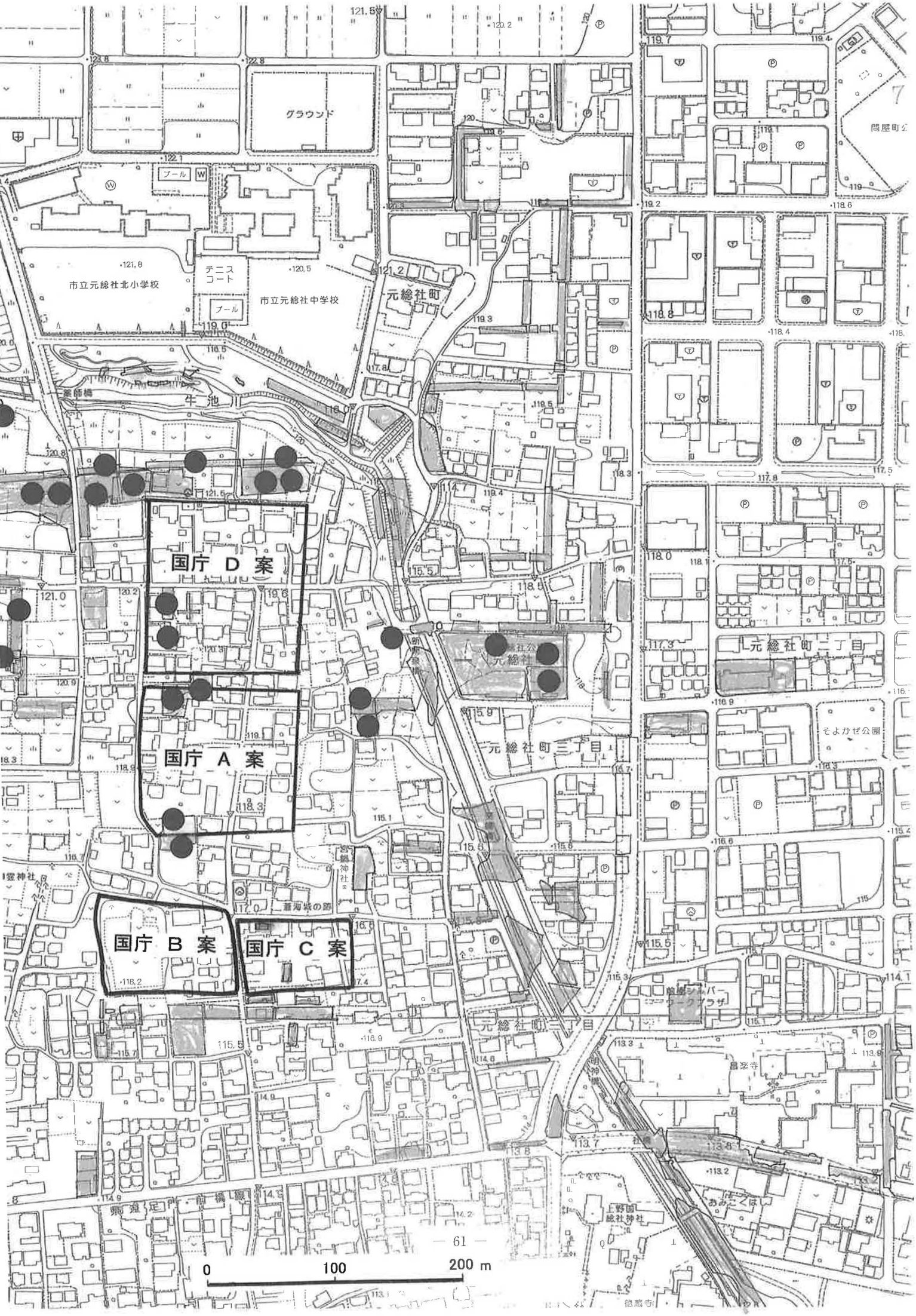
(1)　７世紀　259軒調査

調査された区域から住居分布をみてみると、国府推定区域北西部分の蒼海遺跡群⑬⑮トレンチ及び蒼海遺跡群（6）（15）（18）以外では、分布が見られる。特徴としては、国府推定区域北部蒼海遺跡群（12）トレンチの住居跡が26軒と多いことである。内訳では、第３・第４半期の住居跡が149軒と57.5％を占める。国庁推定地Ａ案の西側、元総社蒼海遺跡群（14）－５調査区では11軒の住居跡が検出された。また、この調査区には８・９・10世紀の住居跡が検出されていない。

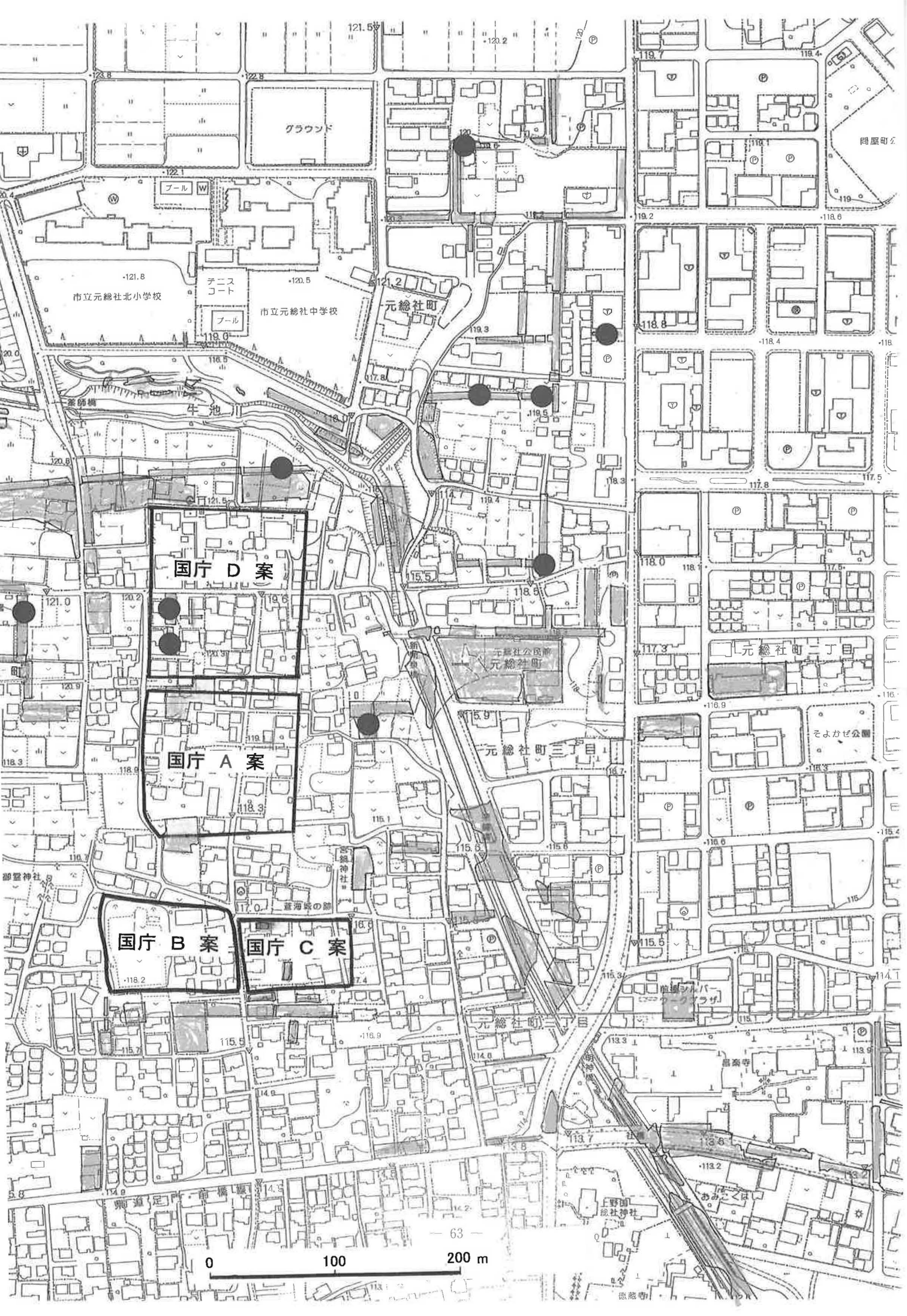
(2)　８世紀　260軒調査

調査された区域から住居分布をみると、分布域は広がり、国府推定区域北西部分の蒼海遺跡群⑮（6）トレンチ以外では分布している。７世紀で記載した蒼海遺跡群（12）トレンチの住居跡は21軒と微減となる。内訳は、第

7世紀の住居跡分布図

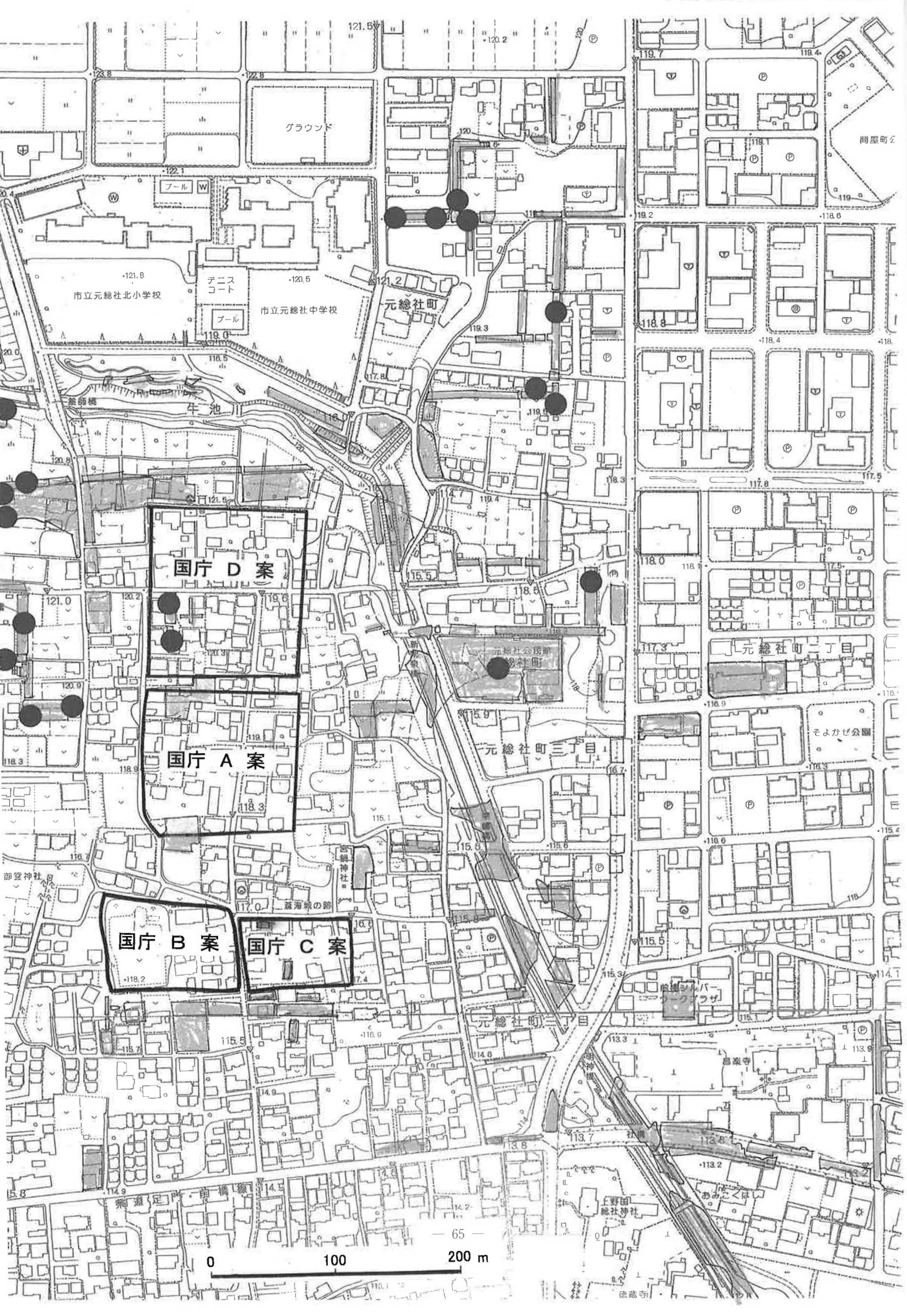

国庁 D 案
国庁 A 案
国庁 B 案
国庁 C 案
市立元総社北小学校
市立元総社中学校
テニスコート
プール
グラウンド
元総社町
元総社町二丁目
元総社町三丁目
牛池川
そよかぜ公園
0
100
200 m

8世紀の住居跡分布図



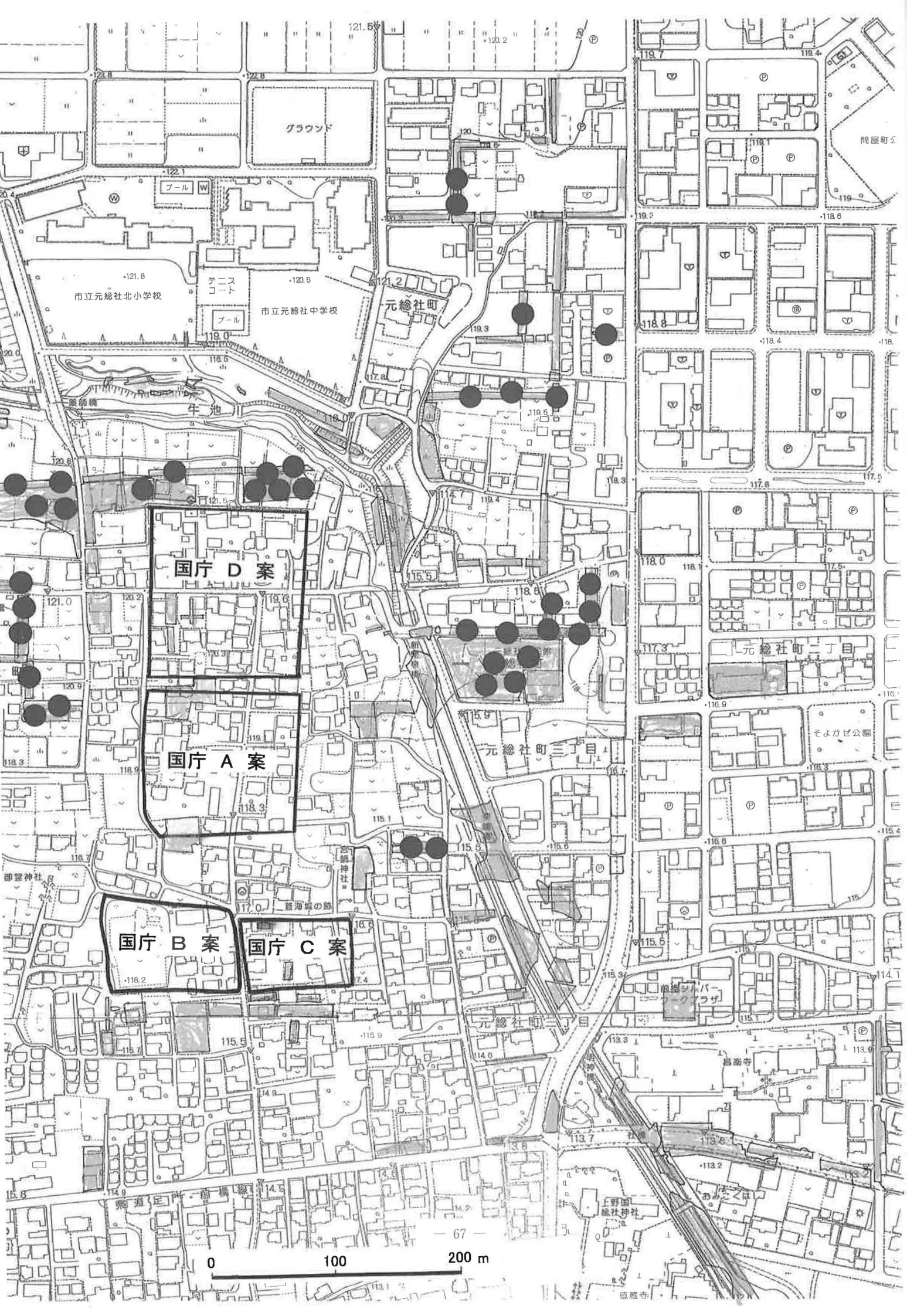
グラウンド
プール
テニスコート
市立元総社北小学校
市立元総社中学校
元総社町
牛池川
国庁 D 案
国庁 A 案
国庁 B 案
国庁 C 案
元総社公民館
元総社町
元総社町三丁目
元総社町二丁目
そよかぜ公園
前橋シルバーウークプラザ
昌楽寺
上野国総社神社
0
100
200 m

9世紀の住居跡分布図



グラウンド
プール
テニスコート
市立元総社北小学校
市立元総社中学校
元総社町
牛池
国庁 D 案
国庁 A 案
国庁 B 案
国庁 C 案
元総社公民館
元総社町二丁目
元総社町三丁目
そよかぜ公園
御窪神社
宮鋼神社
蒼海城の跡
前橋シルバーワークプラザ
昌楽寺
上野国総社神社
おみこくは
徳蔵寺
0
100
200 m

10世紀の住居跡分布図


国庁 D 案
国庁 A 案
国庁 B 案
国庁 C 案
市立元総社北小学校
市立元総社中学校
テニスコート
プール
グラウンド
元総社町
元総社町二丁目
元総社町三丁目
牛池
そよかぜ公園
0
100
200 m

１・２四半期が153軒、第３・４四半期が107軒である。特徴としては、国府推定区域西端で鳥羽遺跡から北北東の蒼海⑭調査区で11軒の住居跡が検出された。

⑶　９世紀　403軒調査

７・８世紀に比べて140軒以上の増加である。９世紀の特徴としては鳥羽遺跡の北北東であり、上野国分尼寺跡西側から西南西調査区（トレンチ）からの住居跡が増加することである。８世紀代の住居跡と比べると蒼海遺跡群⑤で３軒から16軒の大増、蒼海遺跡群⑨で５軒から14軒の倍増、蒼海遺跡群⑭で11軒から24軒の倍増、蒼海遺跡群（3）で３軒から28軒の大増、蒼海遺跡群（26）－３区で９軒から10軒の微増となる。７・８世紀でふれた蒼海遺跡群（12）の住居跡は減少し、15軒となる。

⑷　10世紀　489軒調査

国府推定区域内のほとんどの調査区（トレンチ）から、住居跡が検出されている。10世紀の特徴としては、10世紀第３・４四半期での国庁推定地東側蒼海遺跡群（9）（10）と国庁推定地北側蒼海遺跡群（37）－１区での住居跡の増加である。蒼海遺跡群（9）（10）では34軒、うち第３・４四半期で28軒である。蒼海遺跡群（37）－１区では36軒、うち第３・４四半期で32軒である。

5　考　察

今回の作業は、上野国府成立は己巳の変（645年）後の７世紀後半と推定し、７世紀から10世紀の住居跡を集成した。国庁発見の手がかりとなる観点から、それぞれの世紀毎に記述することとしたい。

７世紀の住居跡の分布から見ると、国庁推定地北側・西側をＬ字型で囲むように多くの住居跡がある。近接東側に牛池川が流れている。

８世紀は、鳥羽遺跡で発見された国府の神社跡からみて北東から北北東の住居跡が７世紀に比べて増えている。これは、国府の神社跡及び上野国分尼寺から近いという地理的条件から、居住する人が増えたのかもしれない。

９世紀は、国府推定区域西側部分で８世紀に比べさらに住居跡が増え、国府関連施設が建設されたことがうかがわれる。

10世紀の住居跡の分布から、国庁推定地の北側と東側に住居密集地域があらわれる。全時代の住居跡の分布からみて、国庁推定地Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ案共候補と言える。ただ、国庁推定地北側調査区（トレンチ）で、７・10世紀には多くの住居跡が検出されていながら、８・９世紀には、ほとんど検出されていないことを考えると、国庁推定地の中で南側に位置するＢ・Ｃ案がより有力な推定地と考えられる。また、全時代をとおして問題なのは、国庁推定地西側については、８・９・10世紀と住居跡がほとんどなくなってしまうことである。地形の高低差により、ある段階で地表面が削平されてしまい住居跡が検出できないのかもしれない。国庁推定地西側は、まだ調査区が少ないので、今後の発掘調査の成果により集落の変遷及び国庁推定地の絞り込みができると考えている。

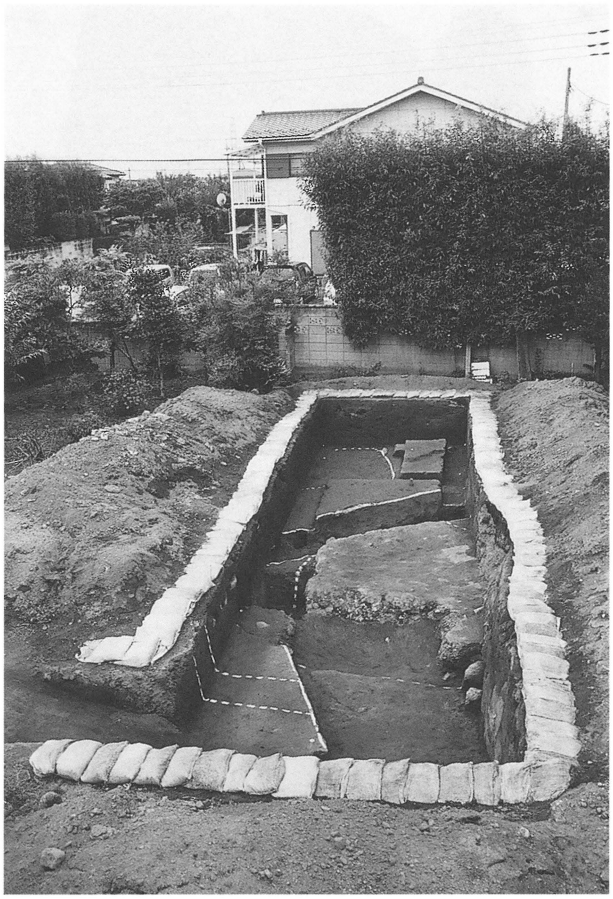
Tab.10　報告書リスト

番号	書　　名	省略書名	発行年月日	発行機関
1	元総社蒼遺跡群①総社閑泉明神北遺跡	蒼海遺跡群①	2000年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
2	元総社蒼遺跡群②元総社小見遺跡	蒼海遺跡群②	2001年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
3	元総社蒼遺跡群③総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北II遺跡・総社甲稲荷塚大道西II遺跡	蒼海遺跡群③	2002年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
4	元総社蒼遺跡群④元総社小見内III遺跡	蒼海遺跡群④	2002年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
5	元蒼遺跡群⑤元総社小見II遺跡	蒼海遺跡群⑤	2003年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
6	元蒼遺跡群⑥元総社小見III遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡	蒼海遺跡群⑥	2003年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
7	元蒼遺跡群⑦総社甲稲荷塚大道西III遺跡・総社閑泉明神北III遺跡・	蒼海遺跡群⑦	2003年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
8	元蒼遺跡群⑧元総社小見内IV遺跡	蒼海遺跡群⑧	2003年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
9	元蒼遺跡群⑨元総社小見IV遺跡	蒼海遺跡群⑨	2004年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
10	元蒼遺跡群⑩元総社小見Ⅴ遺跡　元総社小見内VI遺跡	蒼海遺跡群⑩	2004年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
11	元蒼遺跡群⑪元総社小見内VII遺跡	蒼海遺跡群⑪	2004年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
12	元蒼遺跡群⑫元総社小見内VIII遺跡・総社甲稲荷塚大道西IV遺跡	蒼海遺跡群⑫	2004年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
13	元蒼遺跡群⑬元総社小見内IX遺跡・総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	蒼海遺跡群⑬	2005年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
14	元蒼遺跡群⑭元総社小見VI遺跡	蒼海遺跡群⑭	2005年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
15	元蒼遺跡群⑮元総社小見内Ⅹ遺跡	蒼海遺跡群⑮	2005年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
16	元総社蒼遺跡群(1)	蒼海遺跡群(1)	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
17	元総社蒼遺跡群(2)	蒼海遺跡群(2)	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
18	元総社蒼遺跡群(3)元総社小見VII遺跡	蒼海遺跡群(3)	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
19	元総社蒼遺跡群(4)	蒼海遺跡群(4)	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
20	元総社蒼遺跡群(5)	蒼海遺跡群(5)	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
21	元総社蒼遺跡群(6)	蒼海遺跡群(6)	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
22	元総社蒼遺跡群(7)	蒼海遺跡群(7)	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団

番号	書　　名	省略書名	発行年月日	発行機関
23	元総社蒼遺跡群(8)	蒼海遺跡群(8)	2007年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
24	元総社蒼海蒼遺跡群(9)・(10)	蒼海遺跡群(9)(10)	2007年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
25	元総社蒼海遺跡群(11)	蒼海遺跡群(11)	2007年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
26	元総社蒼海遺跡群(12)	蒼海遺跡群(12)	2007年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
27	元総社蒼海遺跡群(13)	蒼海遺跡群(13)	2008年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
28	元総社蒼遺跡群(14)・(19)	蒼海遺跡群(14)(19)	2008年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
29	元総社蒼遺跡群(15)	蒼海遺跡群(15)	2008年２月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
30	元総社蒼遺跡群(16)	蒼海遺跡群(16)	2008年２月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
31	元総社蒼遺跡群(17)	蒼海遺跡群(17)	2008年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
32	元総社蒼遺跡群(18)	蒼海遺跡群(18)	2008年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
33	元総社蒼遺跡群(20)	蒼海遺跡群(20)	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
34	元総社蒼遺跡群(21)	蒼海遺跡群(21)	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
35	元総社蒼遺跡群(22)	蒼海遺跡群(22)	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
36	元総社蒼遺跡群(23)	蒼海遺跡群(23)	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
37	元総社蒼遺跡群(24)	蒼海遺跡群(24)	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
38	元総社蒼遺跡群(25)	蒼海遺跡群(25)	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
39	元総社蒼遺跡群(26)	蒼海遺跡群(26)	2009年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
40	元総社蒼遺跡群(27)	蒼海遺跡群(27)	2010年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
41	元総社蒼遺跡群(28)	蒼海遺跡群(28)	2010年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
42	元総社蒼遺跡群(29)	蒼海遺跡群(29)	2010年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
43	元総社蒼遺跡群(30)	蒼海遺跡群(30)	2010年３月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
44	元総社蒼遺跡群(31)	蒼海遺跡群(31)	2010年12月	前橋市教育委員会

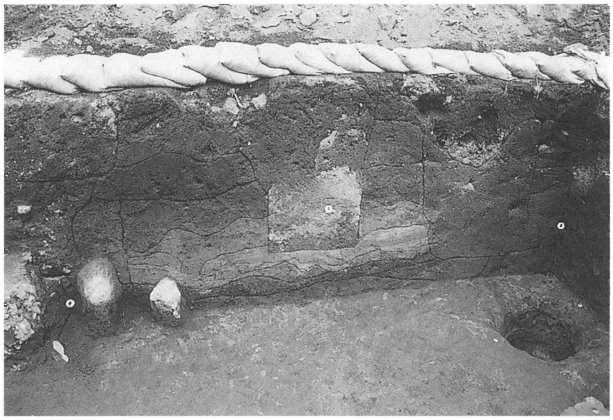
番号	書　　名	省略書名	発行年月日	発行機関
45	元総社蒼遺跡群(32)(33)	蒼海遺跡群(32)(33)	2011年３月	前橋市教育委員会
46	元総社蒼遺跡群(34)	蒼海遺跡群(34)	2011年３月	前橋市教育委員会
47	元総社蒼遺跡群(35)	蒼海遺跡群(35)	2011年２月	前橋市教育委員会
48	元総社蒼遺跡群(36)	蒼海遺跡群(36)	2011年３月	前橋市教育委員会
49	元総社蒼遺跡群(37)	蒼海遺跡群(37)	2012年３月	前橋市教育委員会

写　真　図　版



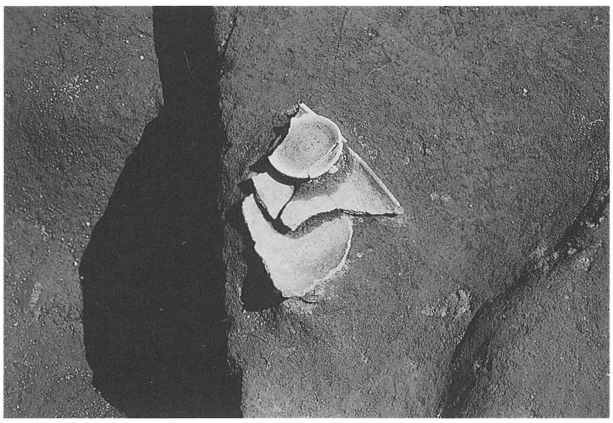
1　1ａトレンチ全景(東から)

2　1ａトレンチH—1号住居跡全景(西から)

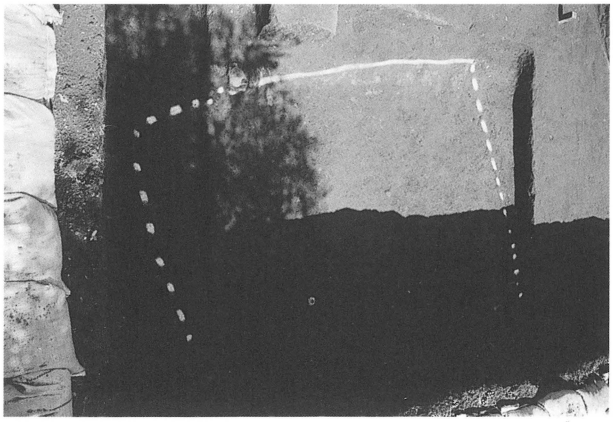


3　1ａトレンチH—1号住居跡セクション(南から)

4　1ａトレンチH—2号住居跡全景(南から)



5　1ａトレンチH—2号住居跡竈遺物出土状態(西から)



6　1ａトレンチH—3号住居跡全景(南西から)

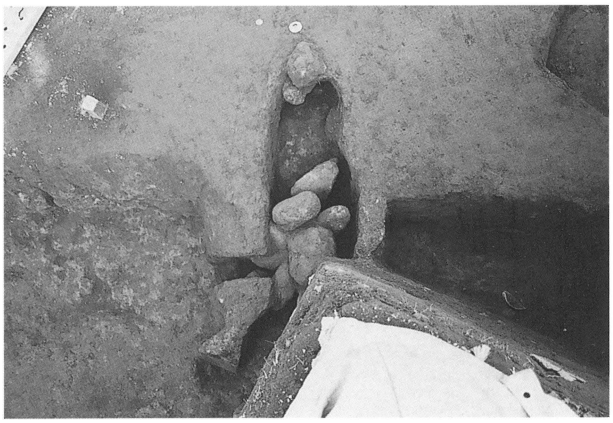
7　1ａトレンチW—1号溝跡全景(東から)

PL. 2

1　1ｂトレンチ全景(東から)

2　1ｂトレンチH—4号住居跡全景(西から)

3　1ｂトレンチH—5号住居跡全景(西から)

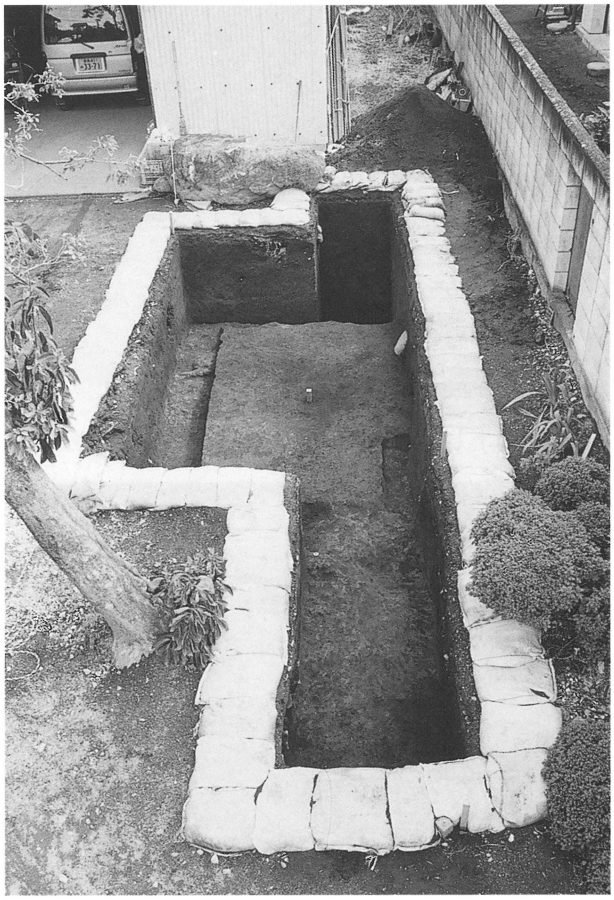


4　1ｂトレンチH—5号住居跡竈全景(南西から)

5　1ｂトレンチH—6号住居跡全景(南から)

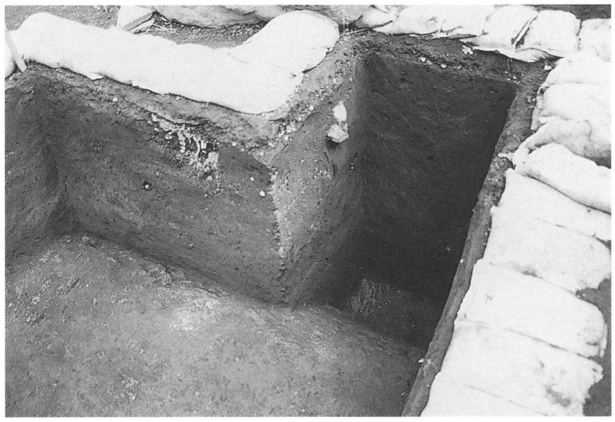
6　1ｂトレンチH—6号住居跡竈全景(南から)

7　1ｂトレンチW—1号溝跡全景(南から)



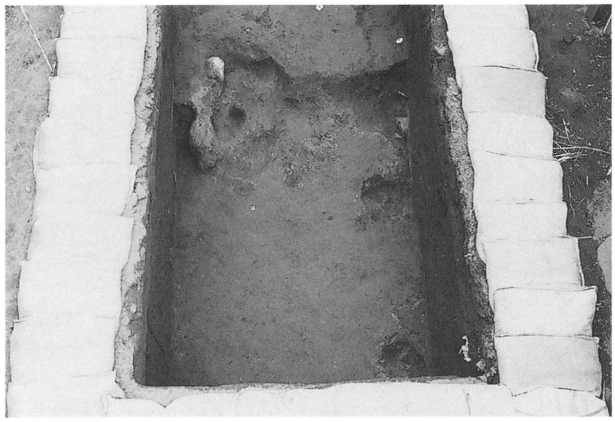
1　２ａトレンチ全景（西から）

2　２ａトレンチH―１号住居跡全景（南から）



3　２ａトレンチW―１号溝跡全景（南西から）

4　２ｂトレンチ全景（西から）

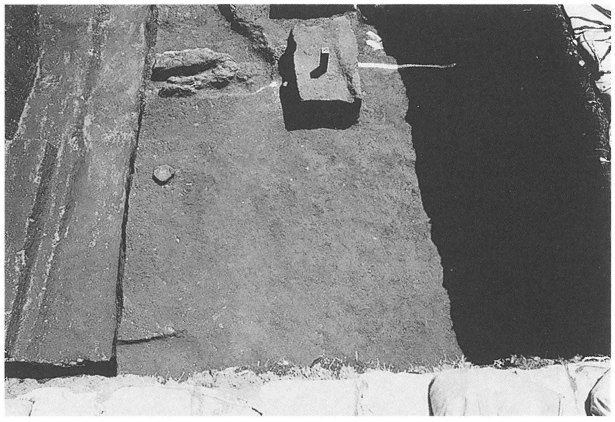


5　２ｂトレンチH―２号住居跡全景（西から）

6　２ｂトレンチH―２号住居跡遺物出土状態（西から）

1　3トレンチ全景(西から)

2　3トレンチH—2号住居跡全景(北から)

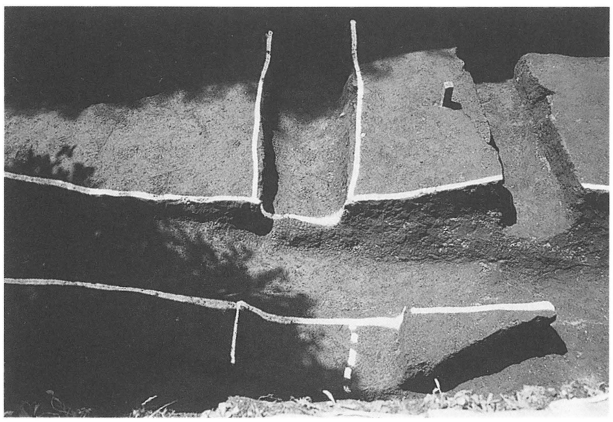


3　3トレンチH—1号住居跡全景(西から)

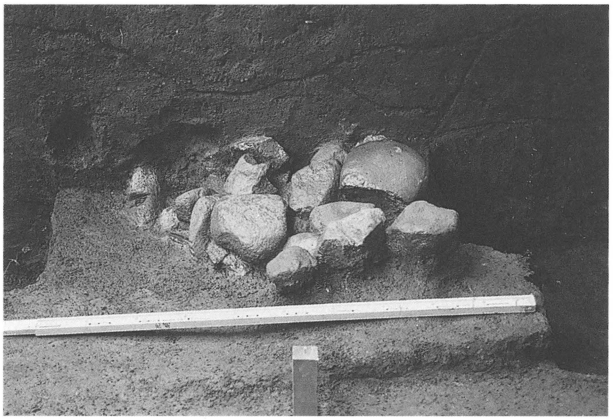
4　3トレンチD—1号土坑全景(北東から)

5　3トレンチD—2号土坑全景(北から)

6　3トレンチW—1号溝跡全景(西から)

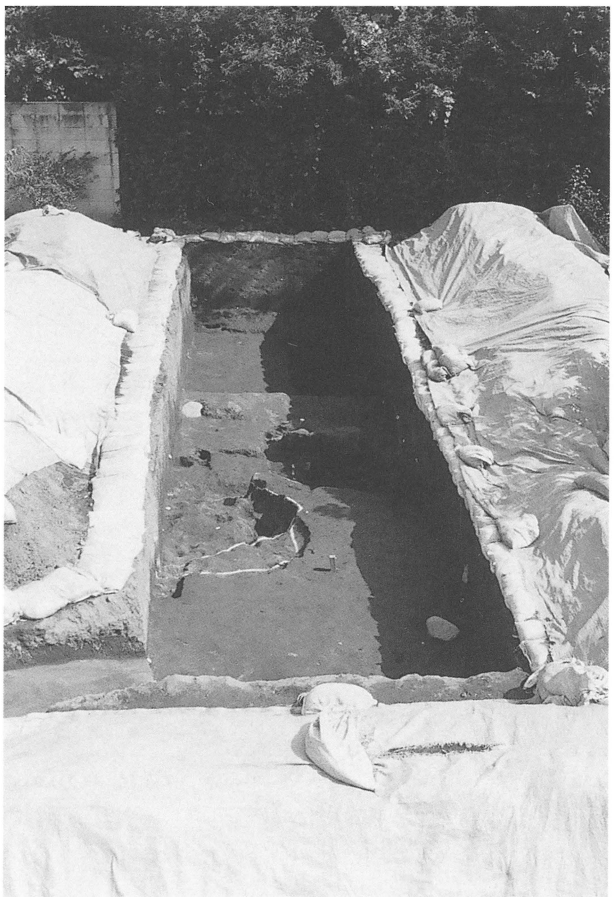


1　３トレンチW—２号溝全景(北から)



2　３トレンチ集石検出状況(北から)

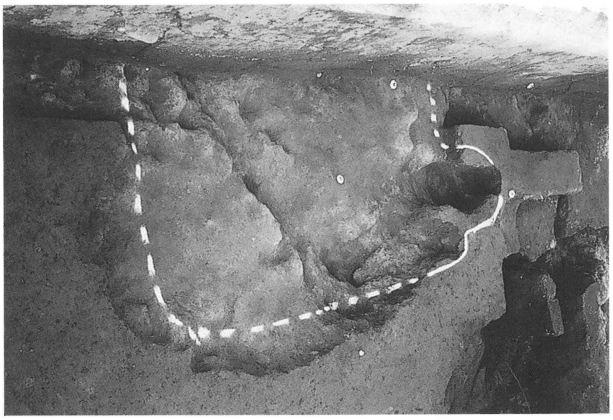
3　３トレンチ落ち込み検出状況(西から)



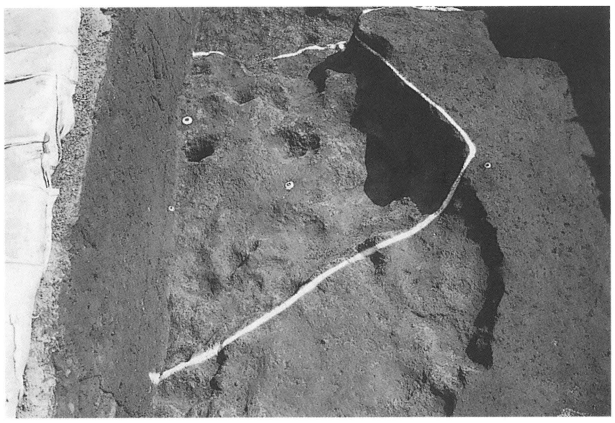
4　４トレンチ全景(西から)

5　４トレンチH—１号住居跡全景(東から)

6　４トレンチH—２号住居跡全景(西から)



1　４トレンチH―３号住居跡全景（西から）



2　４トレンチH―５号住居跡全景（西から）

3　４トレンチH―４号住居跡全景（西から）

4　４トレンチW―１号溝跡全景（北西から）

5　５トレンチ全景（西から）

6　５トレンチH―１・２号住居跡全景（西から）

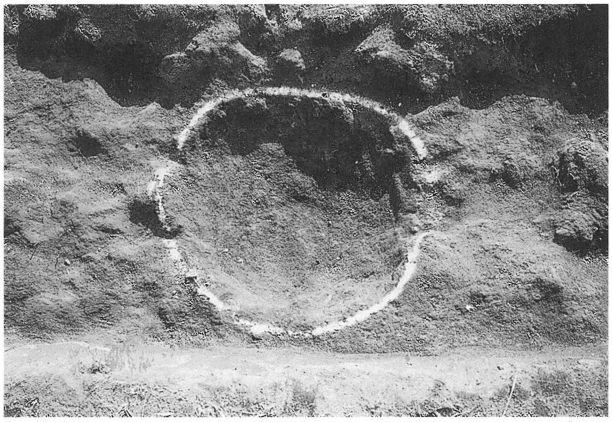
1　５トレンチH—１号住居跡竈全景(西から)

2　５トレンチH—３号住居跡全景((西から)

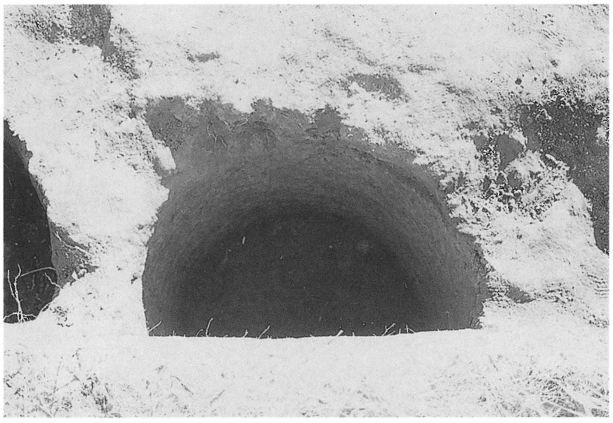
3　５トレンチH—３号住居跡竈全景(西から)

4　６トレンチ全景(東から)

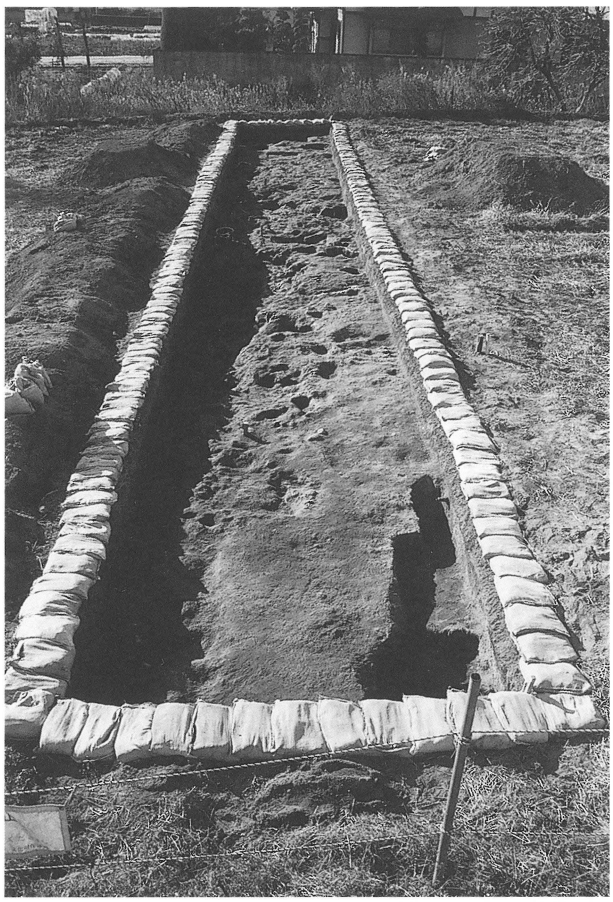
5　６トレンチD—２号土坑遺物出土状態(南から)



6　６トレンチD—２号土坑全景(北から)



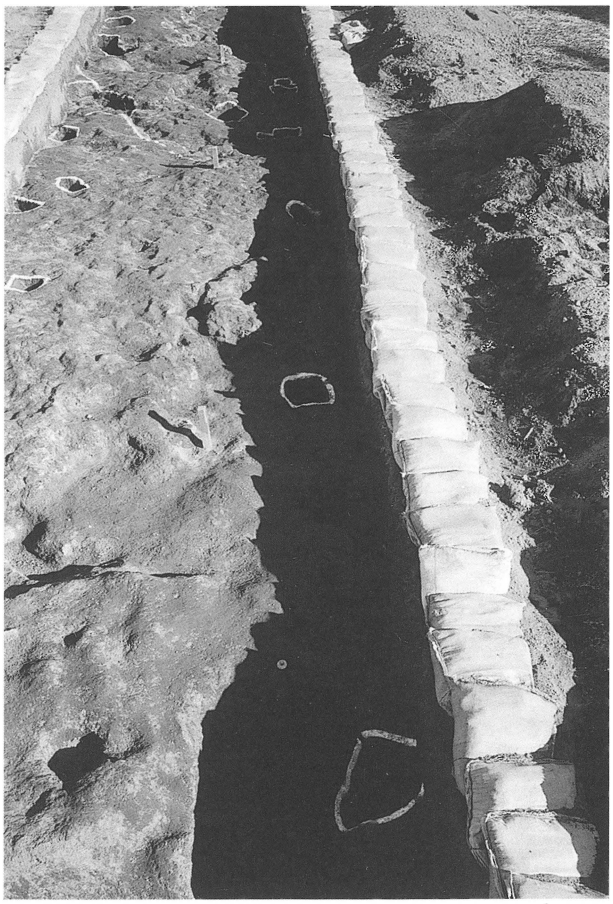
7　６トレンチⅠ—１号井戸全景(北から)



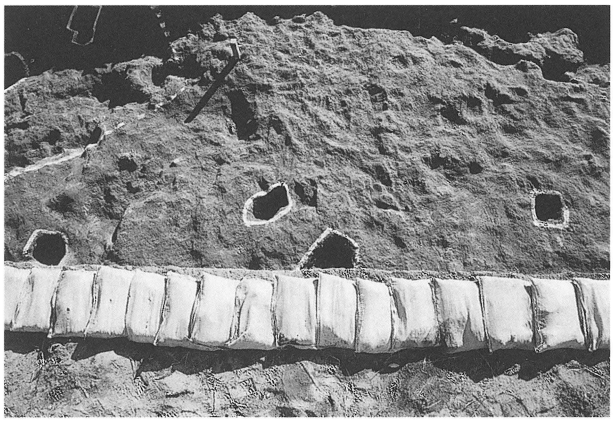
1　7トレンチ全景(東から)

2　7トレンチH—1号住居跡全景(南西から)

3　7トレンチD—1号土坑全景(南から)



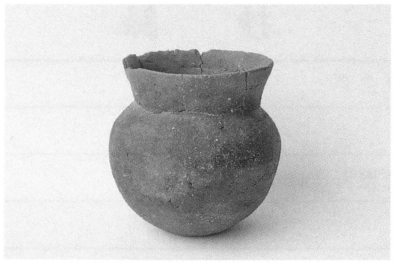
4　7トレンチピット検出状況(列状)(西から)



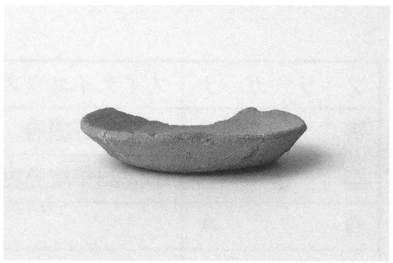
5　7トレンチピット検出状況(散漫)(北から)

6　7トレンチI—1・2号井戸付近全景(北東から)

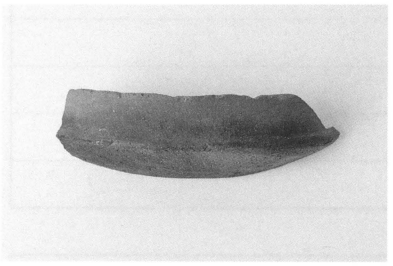
1a–1



1a–2



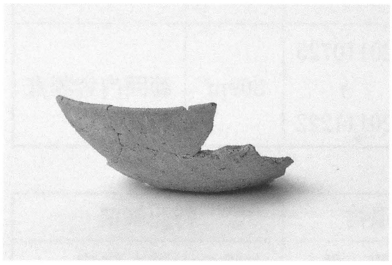
1a–5



1b–1

1a–6

2b–1



3–1

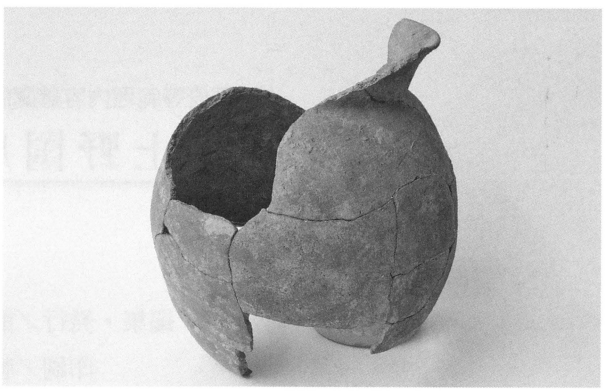
6–1

6–2

1a–3

1a–4

1b–2



1b–3

各トレンチ出土遺物

抄　録

フ リ ガ ナ	スイテイコウズケコクフ
書　　名	推定上野国府
副 書 名	平成23年度発掘調査報告
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	上野国府等範囲内容確認調査報告書
シリーズ番号	Ⅰ
編 著 者 名	並木勝洋・阿久澤智和・前原　豊・眞下　晃
編 集 機 関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発 行 年 月 日	西暦2013年２月28日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コード		位　置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北　緯	東　経			
スイテイコウズケコク フ 推定上野国府	マエバシ シ モトソウジャ 前橋市元総社 マチ 町2025ほか	10201	23Ａ147	36°23′29″	139°02′05°	20110725 ～ 20111222	309㎡	範囲内容調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な検出遺構	主な出土遺物	特記事項
推定上野国府	集落跡 官衙 城館跡	古墳時代 平安時代 中世・近世 不明	住居跡７軒 住居跡12軒、溝跡３条、土坑１基 溝跡５条、井戸３基、ピット群 住居跡１軒、土坑５基	土師器、須恵器　他 土師器、須恵器、瓦　他 軟質土器、石製品　他	古代の大溝を検出

上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅰ

推定上野国府　平成23年度調査報告

2013年２月25日　印刷
2013年２月28日　発行

編集・発行／前橋市教育委員会文化財保護課
印刷／朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社